

7-355



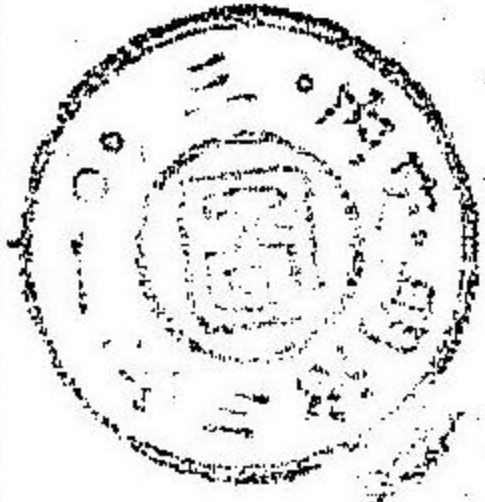
未成年犯罪者ノ處遇

完

目次

第一章	刑罰ノ目的及刑事制度ノ任務	一
第二章	犯罪ノ原因	八
第三章	幼者保護制度殊ニ感化事業ノ沿革及現況	二〇
第四章	犯罪増加ノ現象	三一
第五章	刑事制度ト未成年犯罪者ノ關係殊ニ責任年齡	四四
第六章	刑罰ト未成年犯罪者ノ關係	八三
第七章	未成年犯罪者ニ對スル處分法ノ種類	九三
第八章	未成年者ニ對スル犯罪審理ノ手續	一四五

目次



第九章 未成年者ニ對スル犯罪豫防ノ手段……………一六三

第十章 感化教育……………一八五

第十一章 感化教育ニ付スヘキ各種ノ種類……………一九一

第十二章 感化教育施行ノ方法……………一九八

第十三章 感化院ニ於ケル管理組織……………二一四

第十四章 感化事業ニ對スル經費上ノ關係……………二二三

第十五章 感化事業ノ成績……………二三〇

第十六章 未成年犯罪者ニ對スル刑ノ執行法……………二三七

未成年犯罪者ノ處遇

小河滋次郎著

第一章 刑罰ノ目的及刑事制度ノ任務

所謂刑罰理論(Straftheorie)ナルモノニ就テハ或ハ絶對主義ト云ヒ或ハ對立主義ト唱ヘ或ハ折衷主義ト稱シモイゼス及ヒプラトール以來カント、ヘーゲル、マルトラン、フーリエスタン等ヲ經テ學者各々其見ル所ヲ異ニシ幾百年ノ久シキ今日ニ至ルニテ尙ホ區々ノ學說アルヲ免カレサル所ナリト雖モ此ニ之ヲ研究スルコトニ當テ本論ノ目的トスル所ニ非サルノミナラス或ハ反テ之レカ爲メニ健全ナル刑事制度ノ基礎及ヒ組織ヲ攪亂スルノ恐レアルカ故ニ刑罰理論ナルモノガ實際的刑事制度ノ發達ヲ妨害シタル余ハ先ツ此ニ直チニ如何カ是レ國家刑罰ナルモノノ目的ニシテ之レニ伴フ所謂刑事制度(Strafrechtssystem)ナル所ノモノハ如何ナル任務ヲ以テ其活動ヲ全フスヘキヤヲ講究ス

ル所アラント欲ス

國家ハ個人ヨリ成ル人各々個々ノ意思ヲ有ス或ハ右セント欲スル者或ハ左セント欲スル所ノ者所謂其面貌ノ異ルカ如ク意思モ亦各々相同シカラス若シ夫レ斯ク相同シカラサル個々ノ意思ノ自由ニ活動スル所ニ向ツテ曾テ之ヲ抑制箝束スル所ノモノナシト假定センカ國家即チ社會協同的生活ノ體面ハ一日モ能ク之ヲ確保シ得ヘキニ非ス此ニ於テカ即チ國家アレハ此ニ法律アリ法律以テ民人個々ノ自由活動ヲ禁止令行ス之ヲ禁止シ之ヲ令行スル須ラク國家ノ強行カヲ以テセサルヘカラス是レ即チ國家ニ刑罰ノ必要アル所以ニシテ禁止令行ニ背キテ個人的意思 (Einzelwille) ニ依リ活動シ由テ以テ協同的秩序安寧ヲ危害スルノ行為ヲ指シテ之ヲ犯罪ト稱シ犯罪アル個人ハ即チ犯罪者トシテ之レニ刑罰ヲ賦課執行スルモノトス此クノ如ク果シテ若シ國家ノ秩序安寧ヲ保全スルカ爲メニ之ヲ危害スル行為及ヒ人格ニ對シテ刑罰課行ノ必要アリトナラハ刑罰ナル所ノモノ須ラク國家法紀ノ保全ヲ以テ其目的トナシ如何セハ能ク犯罪及ヒ犯罪者ヲ減少セシムルヲ得ハヤノ方法

ニ就テハ宜シク一般刑事制度ノ任務トシテ深く之ヲ研究スル所ナルヘカラ

*(Der Endzweck aller Strafrechtspflege ist die Verminderung der Kriminalität (Stoos) 之ヲ要スルニ一般法律ノ目的カ社會公共ノ利益ヲ保全スルニアルカ如ク

„Der Zweck im Recht ist der Schutz der Lebensinteressen der Gesellschaft“ (Thering) 刑
法モ亦其目的トスル所ハ刑罰ノ賦課及ヒ執行ニ由ツテ社會公共ノ保護ノ價
値アリ若クハ保護ノ必要アル利益ヲ確保スルニアツテ存ス („Der Zweck im
Strafrecht ist der verstärkte Schutz besonders schutzwürdiger und schutzbedürftiger
Interessen durch Androhung und Vollzug der Strafe“ v. Liss) ト解釋スルコトニ依
ツテ能ク正確ニ國家ノ法的關係ニ於ケル刑罰ノ目的及ヒ刑事制度ノ位置並
ニ任務ヲ闡明ナラシムルコトヲ得ヘシト信ス

凡ソ法的秩序ノ于犯行為ナル所ノ者畢竟スルニ幾ンド一トシテ國家的共同
團體ノ一員タル各個人ニ寄與セラレタル個人的自由權ノ濫用ニ基カサルハ
ナシ犯罪行為アル者ニ對シテ其自由ヲ剝奪スル反動的作用即チ自由刑ナル
モノ、文明今日ノ各國刑典ノ上ニ「自由刑」タル地位ヲ占ムルニ至リタ

ル所以ニシテ而シテ其之ヲ賦課スルノ程度ハ宜シク犯罪行為ノ輕重(高尙ニシテ且ツ最廣ノ意義ニ於タル反坐主義)及ヒ犯罪人格ノ危險ノ大小ニ準據スヘク又能ク犯罪個人ヲ強制シテ森嚴ナル法的秩序ノ下ニ屈服セシムルト共ニ併せて成ルヘク之ヲ薰陶教化シテ以テ其寄與セラレタル自由ヲ適法ニ行使スルノ途ヲ了解セシムル方法ニ於テ之ヲ執行スル所ナカルヘカラスニ^{刑罰}化的要素ヲ必要トスル理由ハ遠ク既ニブラトリア^{刑事}刑事制度ノ上ニ最モ重要ノ位地ヲ占ムル監獄行刑制度ノ目的トスル所モ亦此ニアリテ自由刑適用ノ範圍ノ擴張セラル、ト共ニ益々獄制改良ノ必要ヲ認メ實際マタ文明各國到ル所ニ致々トシテ之レカ遂行ニ經營シツ、アル所以ノ偶然ナラザルヲ知ルヘキナリ然ルニ自由刑施行範圍ノ擴張ト共ニ着々獄制改良ノ成功尠クモ外形的設備ノ進歩ヲ見ルニ至リツ、アルニモ拘ハラス社會犯罪ノ顯象ハ之レカ爲メニ管タニ減少ヲ呈スルニ至ラサルノミナラス反テ一般犯罪ナルモノ、増加ヲ致シツ、アル實況ニ依テ之ヲ見レハ或ハ根本ニ溯ツテ自由刑其レ自體カ既ニ刑罰トシテ不適當ナルモノニハ非サルカ (gegen die Freiheitsstraf-

四

en Mittelstand 1879) 或ハ之ヲ賦課執行スルノ主義方法ニ於テ尙ホ未タ不完全ナルヲ免カレサルモノアルカ爲メナルガ或ハ犯罪ノ増加ハ文明ノ進歩ニ伴フ自然ノ結果ニシテ單ニ刑罰ノミヲ以テ此大勢ニ反抗セシメンコト始メヨリ既ニ不可能の期望ニ屬スルコトニハ非サルカノ疑問ノ生スルハ當然ニシテ近ク十數年以來各國到ル所ニ盛シニ刑事制度改良論ノ勃興ヲ致シ立法行刑最モ廣キ意義ニ於クルノ上ニ着々其實行ヲ見ントスル傾向アルハ社會文明ノ爲メ深ク欣祝スヘキコトナリト謂フヘシ

物ノ生スル必ス其原因アリ犯罪豈獨リ卒爾ニシテ發生スルモノナランヤ既ニ所謂犯罪ナルモノモ亦原因アツテ而シテ後發生スルモノナリトセハ之ヲ撲滅若クハ減少スル須ラク醫ノ疾病ニ對スルカ如ク直チニ其發生ノ根本ニ向ツテ之ヲ^{剪滅}剪滅スルノ道ヲ講スル所ナカルヘカラス苟クモ犯罪起生ノ根本ニシテ^{撲滅}撲滅セラレザル以上ハ如何ニ巧ミニ又如何ニ有力ナル刑罰ヲ以テ之レニ向フ所アリト雖モ終ニ一般犯罪少クモ累犯減少ノ目的ダニ之ヲ全フシ能フヘカラス監獄行刑ノ結果トシテ犯罪個人ヲハ獨リ國家法紀ノ威嚴

六
ノ下ニ屈從セサルヘカラザルノ觀念ヲ養成セシメタルノミナラス進マ
タ能ク一個ノ良民トシテ自活スルニ足ルヘキ資格ヲ薰陶教化シテ以テ出獄
スルニ至ラシムル者年々幾百人ノ多キヲ以テ數フルノ實況ナルニモ拘ハラ
ス幾何ナラズシテ復タ再犯入監スルニ至ル者殆ント踵ヲ接ス人或ハ是ヲ以
テ容易ニ是レ監獄當局者カ假裝的改悛狀態ヲ看破スル明ナキノ致ス所ナリ
ト速斷スル者アリト雖モ若シ虚心平意彼レ出獄者ニ就テ其出獄後再犯入監
ニ至ルマデノ關係事情ヲ聽取スルトキハ其實際受刑ニ依テ改悛シタルト否
トニ拘ハラス之レト至ク獨立シテ他ニ彼レヲシテ再犯ヲ餘義ナクセシムル
ニ至リタル複雑ナル社會的又ハ個人的原因ノ存在ヲ認識スルコトヲ得ヘシ
刑罰執行ノ効果アリト認メタル者ニシテ尙ホ斯クノ如キ運命ニ陥ルヲ免カ
ル、能ハズトセハ刑罰濫用例ヘハ犯罪人格ヲ無視シテ漫ニ重キヲ犯罪事實
ノ上ニ置キ千遍一律恰カモ活版ヲ以テ豫メ刷成シ置キタルト一般ナル刑ノ
賦課ヲナスカ如キ或ハ微罪檢舉短期刑頻發ノ方針ヲ取ルカ如キノ結果トシ
テ今日ニ於ケル刑事制度ノ實際ノ上ニ見ルカ如キ蟻集モ管ナラサル多數而

七
カモ始メヨリ到底普通刑罰ノ効力ナキ若クハ其効果ヲ舉クルニ困難ナル慣
習的犯罪者又ハ常識ヲ以テ見ルモ科刑ノ結果反テ惡成醜化ノ弊ヲ免レサル
ヘシト判斷シ得ラルヘキ一時的犯罪者ノ入監シ來ル者ニ對シ之ヲ薰陶教化
シテ以テ出獄セシムルノ不可能ナルハ勿論ニシテ滔々舉ツテ皆再ヒ犯罪的
境遇ノ渦中ニ入り終ニ社會累犯増加ノ顯象ヲ來タスノ偶然ナラサルヲ知ル
ヘキナリ刑罰若クハ之レカ執行ノ機關タル監獄ナル所ノモノハ固ト是レ河
川ノ汎濫ニ對シ或ル程度マデノ用ニ備フル堤防ト一般ニシテ平時常態ノ下
ニアツテコソ能ク犯罪ノ危害ヨリ社會ヲ防衛スルノ力アルヘシト雖モ堤防
アルカ爲メニ洪水汎濫ノ源ヲ絶ツ能ハサルト同ク刑罰アルカ故ニ由ツテ
以テ犯罪ノ禍源ヲ閉塞シ得ヘシトハ謂フヘカラス洪水汎濫ノ源ヲ絶ツハ治
水法ノ領域ニ屬シ犯罪増加ノ禍源ヲ閉塞スルハ社會政策ノ大系統ニ屬スル
廣義ノ刑事制度 (Kriminologie) ノ任務ナリト謂フヘシ此ニ所謂刑事制度ナル
モノ今日ニ於テ果シテ能ク其任務ヲ竭シツ、アルヤ否ヤ刑罰萬能ノ殘夢尙
ホ未タ全ク醒覺スルニ及ハス動モスレハ輒チ犯罪必罰ヲ唯一ノ金科玉條ナ

リト信シ苟クモ犯罪アレハ則チ犯罪事實ト犯罪人格其他之ヲ發生セシムルニ至リタル關係事情ノ如何ヲ顧ミルニ違マナク直チニ摘發糺治シテ以テ千遍一律刑ニ至ラシムルヲ能事トナス而シテ一面犯罪起生ノ原因ハ社會文明ノ進歩ニ伴フテ年々益々複雑且ツ頻繁ナラントス犯罪ト社會文明ノ關係ニ著二版六頁以下ニ詳述スル所アリ以下參照トシテ意ナリ拙社會一般犯罪ノ增加ヲ見ル蓋シ深ク怪ムニ足ラス漫然或ハ犯罪殊ニ累犯増加ノ顯象ヲ以テ之ヲ刑罰就中自由刑及ヒ之レカ執行機關タル監獄制度ノ無能力ニ歸セシメント欲スル者アルヲ見ルハ余輩私カニ其冤ノ甚シキヲ悲マスンハアラサルナリ

第二章 犯罪ノ原因

犯罪起生ノ原因ニ就テハ學者各々其所説ヲ異ニシ殊ニロンブローニ一派ノ學説ノ如キハ根本ニ於テ既ニ一般學者ト其見ル所ヲ同フセサルモノアリト雖モ之ヲ要スルニ犯罪起生ノ原因ハ大別シテ個人的 (individualisch) 及ヒ社會

的 (socialisch) 原因ノ二種トナスヲ適當ナリト信スリストガ所謂犯罪ハ一面犯罪者固有ノ性格ノ產物ナルト共ニ他面ニハ又犯罪行為ノ當時犯罪者ヲ圍繞スル社會的關係ノ產物ナリ換言スレハ則チ犯罪ハ個人的原因及ヒ無數ナル社會的原因ヨリ產出スル所ノモノナリ」(Jedes Verbrechen ist das Product aus der Eigenart des Verbrechers einerseits und den den Verbrecher im Augenblick der That umgebenden gesellschaftlichen Verhältnissen anderseits; also das Product des einen individuellen Factors und der unzähligen gesellschaftlichen Factoren, —v. Liszt: „Das Verbrechen als socialpathologische Erscheinung“, 1899 S. 8.) トノ説明ハ最も簡略ニシテ且ツ剴切ナリト謂フヘク凡ヘテ犯罪ノ生スル此ニツノ原因中必ス其何レニカ依ラサルハナシ多クノ場合ハ則チ二個ノ原因ヲ具備スルコトニ由テ發生シ殊ニ社會的原因ノ其間ニ著大ノ勢力アルヲ認ムルカ爲メニ時トシテ所謂個人的原因ナルモノモ其實社會的原因ノ結果ニシテ寧ロ犯罪起生ノ原因ヲ以テ單ニ之ヲ社會的殊ニ經濟的關係ニ歸一セシムル(コラヤンニ、ケトローヲ始メ其他學者ノ此説ヲ主張スル者亦少カラス)ノ適當ナラサルヤヲ疑ハシ

ムルヲナキニ非ス。犯罪區別ノ適否及ヒ何レノ原因カ犯罪ニ對シテ最も勢力アリヤノ議論ハ姑ラク擱キ其個人的タルト將タ社會的タルトニ論ナク最も多ク且ツ最も容易ニ犯罪原因ニ觸犯サレ易キ種類ノ者如何ト云フニ何人モ少シク教育若クハ刑事制度ノ事ニ注目スル所ノ者ハ直チニ幼年又ハ未成年者(用語ノ簡便ヲ計ルカ爲メニ特ニ區別スルノ必要ナキ限即チ是レナリト答フルニ躊躇セサルヘシ)

タチツリス (Tacitus) ガ苟クモ人類ノ存在スル所罪惡及ヒ犯罪モ亦必ス之レニ伴隨ス(„Laster und Verbrechen wird es geben so lange Menschen leben“)ト言ハルガ如ク縱令ヒ複雜錯綜セル幾千万ノ犯罪原因ニシテ悉ク探檢捜査シ得ラレタリトスルモ之ヲ杜絶シテ以テ犯罪ヲ人類社會ヨリ掃滅シ能フヘキニ非サルハ論ヲ俟タス然レモ若シ能ク其因ツテ起ル所ノ根源ニ遡ツテ之ヲ豫防制歴スルノ道ヲ講ズルトキハ少クモ文明進歩ノ大勢ニ伴フ自然ノ傾向ニ反抗シテ一面一般ノ犯罪増加ヲ制限シ得ルト共ニ他面ニハマタ所謂累犯ナル最モ恐ルヘキ危害ニ對シテ社會煩累ノ程度ヲ輕減セシムルコトヲ豫期シ得

ヘキナリ近年東西文明各國ニ於ケル犯罪増加ノ實況ニ就テハ既ニ前段陳述スル所ノ如クナルニ反シ獨リ文明進歩ノ最モ著ルシキモノアルヲ以テ稱セラル、英國ニ在ツテハ一八九一年ノ犯罪統計ヲ以テ之ヲ一八七一年ニ比較スルトキハ禁錮囚ニ於テ百分ノ三二、懲役囚ニ於テ百分ノ五四ノ減少ヲ呈シ而カモ其人口ハ二千二百萬ヨリ二千九百萬ニ増殖スルニ至リタリト云フ (Aschrott: „Die Behandlung der verwahrlosten und verbrecherischen Jugend“ 1892, S. 28) 尙ホ其一日平均ノ在監者總數ニ就テ之ヲ見ルモ一八八三年ニ懲役囚一〇一六九、禁錮囚一七一四九合計二七三一八アリシ所ノ者爾來漸々遞減ノ傾向ヲ示シ

年 紀	懲 役 囚	禁 錮 囚
一八八三	一〇一六九	一七一四九
一八八四	九六四〇	一六六一九
一八九三	三六九四	一四五五九
一八九四	三五八八	一四二二九

一八九五 三三〇九
 一八九九 二七二三 一三七六六

越テ十年後ノ一八九三年ニハ懲役囚三六九四、禁錮囚一四五五九合計一八二五三ニ減少シ終ニ一八九九年懲役囚二七二三、禁錮囚一三七六六合計一六四八九ノ數ニマデ減却スルニ至レリ本年七月刊行ノ監獄雜誌第十六卷第七號記事ノ内ニ英國ニ於ケル一九〇〇年調査ノ在監一日ノ平均人員ハ合計一七四三五人ナリトアリ前年即チ一八九九年ニ比スレハ多少ノ増加ヲ見ルニ至リタルモノナルフルド(Fuld: Zwangsziehung" in Liszt's Zeitschrift XI S. 123)曰ク「英國ニ於テハ最近三十年以來人口ニ於テ六百五十万餘ノ増加ヲ致シ而カモ文明ノ進歩ニ伴ヒ社會生存競争ノ益々激甚トナリツヽアルニモ拘ハラス一般犯罪殊ニ幼年犯罪ノ件數ハ反テ年々著ルシキ減少ヲ呈スルノ事實ヲ見ルト文明各國ニ於ケル未成年犯罪者増加ノ事實ニ就テハ到ル所殊ニ獨乙ノ如キハ敢テ獨乙ノミ獨リ然リト云フニ非ス比較的の信憑アルニ足ル最近十年以來成年犯罪者増加ノ割合百分ノ二五乃至三〇ナルニ反シ未成年犯罪者ハ百分ノ五〇ノ割合ヲ以テ増加シタリト云フノ實況ナルニ拘ハラス獨リ英國ニ於

テハ一八六七年以來年々未成年犯罪者減少ノ傾向ヲ呈シ最近三十年ノ間ニ於テ實ニ三分ノ二以上ノ減少ヲ見ルニ至レリ(Morrison: "Juvenile offenders, Juvenile Uebelthaeter" deutsche Ausgabe von Katscher. 1899 S. 5)實際英國ニ於ケル累年未成年犯罪者ノ遞減シツヽアル統計ヲ見ルニ及ンテハ人ヲシテ其顯象ノ著ルシキニ驚カシメスンハアラス

年 紀	未成年者犯罪件數
一八五六	一三九八一
一八六六	九三五六
一八七六	七一三八
一八八二	五七〇〇
一八八六	四九二四
一八九六	一四九八

(拙著獄事談六九五頁參照)

之ヲ要スルニリストガ所謂無數ナル社會的犯罪原因ノ内ニアツテ最モ勢力

アリト認ムルヲ得ベキ文明ノ進歩ニ伴フ人口増加ノ著大ナルニモ拘ハラヌ獨リ英國ニアツテハ近ク三四十年ノ間ニ於テ犯罪大數ノ上ニ凡ソ百分ノ四三〇減少 (Appelius: „Behandlung jugendlicher Verbrächer“ 1892 S. 33) ヲ現ハスニ至リタリト云フノ事實ニ依テ之ヲ見レハ必スシモ犯罪ハ文明ノ進歩ニ伴隨ス („La criminalité suit pas à pas la Civilisation.“ Prins: Criminalité et Repression 1886, S. 77; d'Haussonville: Les établissements pénitentiaires . . . 1879, S. 13) ト云フノ故ヲ以テ其増加ヲ見ルコト蓋シ自然ノ大勢ナリトシテ漫ニ世運ノ澆季ヲ悲觀スルノ非ヲ悟リ進ンテ大ニ之ヲ豫防制壓スルノ必要ヲ感知スルニ至ルヲ得ヘク是ニ於テカ即チ然ラハ英國ニ於テ此クハ如キ偉大ノ成效ヲ見ルニ至リタル理由如何ト云フノ疑問ニ接着スルハ蓋シ自然ノ勢ナリト謂フヘシ

英國ニ於ケル犯罪殊ニ幼年犯罪遞減ノ理由ニ就テハ人ニ依テ多少其見ル所ヲ同フセサルノミナラス犯罪統計ノ如キモ亦其調査方法ノ不備ナルヲ免カレザルヲ以テ一概ニ之レニ據ツテ増減ノ實相ヲ判斷シ能ハサルノ事情ナキニ非スト雖モ要スルニ争フベカラサル犯罪遞減ノ事實ニ對シ之レカ直接ニ

シテ且ツ最も有力ナル原因ヲ以テ之ヲ幼年保護制度殊ニ不良少年若クハ未成年犯罪者ノ感化制度ニ歸セシムルニ至ツテハ殆ント何人モ異議ナキ所ニシテ (Hoehring: Die Zwangsziehung und die Bestrafung Jugendlicher; Fuld: a. O.; Aschrott a. O.; Appelius a. O.; 拙著獄事談) 犯罪及ヒ其原因ノ著者ニシテ英國刑事制度ノ實況ニ精通シ各種ノ方面ヨリ觀察シテ忌憚ナク公平卒直ニ犯罪増減ノ真相ヲ判斷シ得タリト稱セラル、モリソノ如キスラモ英國ニ於テ幸ニ人口増加ノ割合ニ比シ甚シキ犯罪増加ノ顯象ヲ免カル、所以ノモノ余ハ是ヲ以テ全ク慈善的不良少年保護事業ノ効果ニ歸セシメサルヲ得ズ (Morrisson: A. O. S. 8) ト斷言スルニ至レリウヰクトル、ユ一ゴ一曰ク「成年ハ兒童ノ化身ニシテ兒童ノ未來ハ成年ナリ」ト意譯或ハ原意ヲ端サ無意味ノ言ナルカ如クナリト雖モ能ク之ヲ咀嚼スルトキハ其内自ラ無限ノ深趣味アルヲ感スヘク兒童ニ對スル社會ノ保護其宜シキヲ得ルニ於テハ未來ニ於テ健全有用ナル良民ヲ得ルコトノ當然ナルニ反シ之ヲ放擲シ若クハ之ヲ虐遇スルノ結果、終ニ現在及ヒ未來ニ於テ永ク非社會的犯罪種族ノ増加橫梁ニ苦ムハ蓋シ自

然、數ニシテ是ヲ以テ社會自ラ招ク所ノ應報的災厄ナリト謂フモ、一六 証言ニ非ス、人ノ性ノ善惡何レナルカハ姑ラク之ヲ問ハサルモ將タ犯罪原因ノ個人的タルト社會的タルト其何レニアルヲ問ハス吾人々類ハ自然の性情ニ於テ我慾ヲ逞フシ私利ヲ恣マニセントスルノ傾向ヲ有スルハ爭フベカラザルノ事實ニシテ即チ乳兒カ其尙ホ未タ襁褓ニアル時ニ於テ既ニ己ノ意ニ滿タサルトキハ或ハ怒リ或ハ叫ビ或ハ手足ヲ以テ抵抗セント欲スルコトニ依テ之ヲ知ルヲ得ヘシ若シ此原始狀態ニ於ケル吾人即チ兒童ヲ放擲シテ之レニ適當ノ保護ヲ加フル所ナシトセンカゴツトヘルフ (Jeremias Gotthelf) ガ「試ミニ生兒ヲ森林ニ放チ熊豹豺狼ヲシテ彼レカ襟母タラシメタリト假定セヨ兒ハ終ニ兩足ヲ以テ直立スルコトヲ知ル能ハスシテ四肢ニ由テ匍匐スヘク其叫フヤ當ニ熊豹若クハ豺狼ノ呻唸咆哮スルカ如クナルヘシ人ハ人ノ生育ヲ俟ツテ始メテ其人格ヲ成シ其精神ハ人ノ精神ノ教養ニ由ツテ此ニ完全ナル發達ヲ見ルヲ得ベシ」(in Nr. 44d. neuen pädagogischen Zeitung citirt Helmke: S. 380) ト言フガ如ク教養放擲ノ結果滔々タル幾千萬ノ自然兒ヲ驅ツテ所謂森林深キ所

熊豹豺狼ノ媒母ニ頼ツテ生育シタル兒童ト一般ナル遊民ヲ作り出タスニ至ルヘキハ蓋シ理ノ當サニ然ラシムル所ナリト謂フヘシ況ンヤ此幾多ノ遊民即チ浮浪少年ナル所ノ者常ニ腐敗溷濁ノ境遇ニ彷徨シ一舉手一投足盡ク惡魔ノ誘惑ニ盲從セシメラレツ、アルノ實況ナルニ於テヲヤ一轉以テ終ニ彼レヲ恐ルヘキ犯罪種族ノ渦中ニ趨注スルニ至ラシムヘキハ毫モ怪ムニ足ラサルナリ刑事人類學一派ノ學者ハ一般ニ兒童及ヒ野蠻種族ヲ以テ犯罪固有ノ性格ヲ具備スルコト最モ多シト認メ (Rossi: „Trattato diritto penale“ 1859 S. 242) ヲル (Baer: „Der Verbrecher in anthropologisch. Beziehung“ 1893 S. 350) ハ「犯罪者ハ自然の固有ノ性情ヲ備フル兒童狀態ヲ表現シタル者ニ外ナラス」一七 刑事人類學者ノ説ク所ト其意義ヲ混同スルコトナキヲ要ストリト言ヘリ均シク是レ兒童ナルモノガ必然的ニ總ヘテノ罪惡ニ陥リ易キ性格ヲ具備スルノ證トナスヘシ尤モ吾人々類カ犯罪ニ陥ルノ原因ニ就テ之ヲ見ルニ成年者ト未成年者トニ依テ其間ニ敢テ區別スル所ナキハ勿論ニシテ未成年者カ犯罪ニ至ルノ原因ハ同時ニマタ成年者ヲ犯罪ニ陥ラシムルノ原因ナルカ故ニ之

レカ杜絶ノ道ヲ講スル上ニ於テ必スシモ犯罪人格ノ成年者タルト未成年者タルトヲ問フノ必要ナキカ如シト雖モ上來陳述スルガ如ク未成年者ナルモノハ雷ダニ必然的ニ殊ニ總ヘテノ罪惡ニ陥リ易キ性格ヲ具備スルノミナラス放養浮浪ノ結果一旦罪惡ニ陥リ且ツ之レカ處遇ノ道ヲ過マリタル所ノ未成年犯罪者ハ比較的最も多ク「殆ンド全部トス」言彼ノ終世改悛ノ見込ナキ所謂習慣的又ハ職業的最も危險ナル犯罪種族 (Gewohnheitsverbrecher—Berufsverbrecher)ニ變質スル傾向ヲ有シ半生ハ即チ監獄ニ入ツテ衣食ヲ國費ニ煩ハシ半生ハ則チ社會ニ出テ、剽掠以テ無限ノ害惡ヲ恣マニスモリソソ曰ク「犯罪ヲ職業トスル所謂習慣的犯罪者ナルモノハ通例未成年時代ニ於テ既ニ罪惡ニ陥リタル所ノ者ナリ未成年時代ヲ經過シタル後ニ罪惡ニ陥リタル者ニシテ習慣的犯罪者ニ變質スルノ例ハ極メテ稀有ナリ」ト (Morrison: A. O. S. VIII.)

余ガ多年我が監獄ノ實際ニ就テ經驗スル所ニ依ルモ改悛ノ見込ナキ所謂習慣的犯罪者ニ屬スル所ノ者ハ一々其例ヲ擧ケルマテモナク殆ント盡ク未成年時代ヨリ於テ既ニ罪惡ニ陥リ親族ニ捨テ其間、幾回トナク監獄ヲ出入シ結局ニ本來ノ慣習性犯罪者各ト監獄到ル所ニ必ラス最モ慘猛危險ニシテ當

者ノ所謂「持テ餘シ」若クハ「札付」ト稱ニスル慣習性犯罪者數名アルヲ見ルヘシ試ミニ此種類ノ者ニ就キ其身分帳簿ニ由ツテ犯罪經過ノ一班ヲ調査セハ一目ノ下、直チニ彼レガ幼年而カモ早キハ既ニ六七歳得ヘシ時加之ラス一人ノ惡童ハ純真ナル幾百ノ幼者ヲ醜化スト「言フカ如ク未成年者間ニ於ケル罪惡傳播力ノ激烈ナルト實ニ驚クハク一二ノ不良少年アツテ群童ノ間ニ嬉戲スル所アルノ結果ハ忽チニシテ純真無垢ノ少年ヲ誘惑シテ罪惡ニ陥ルニ至ラシメザルヲ得ス (Appelins: A. O. S. 28) 上流社會ノ家庭若クハ中流以下ノ社會ニアツ見ルノ重モナル原因ハ此ニアリ近年東京市内ニ於テ何々組或ハ何々隊ト稱シ少年生徒ノ團體ヲ成シテ醜陋ナル不倫行為ヲ行フスルモノアリト聞ク若シ夫少年團體ニ就テ其實況ヲ調査セハ必ラス一二比較的最モ醜惡ナル其他マタ「犯罪者ハ總ヘテ其幼時ニ於テ犯罪ノ萌芽ヲ有ス」(Ferranti: „Minoreni delinquenti, saggio di psicologia criminale” „Minderjahrige Verbrecher” deutsch von Ruthemann 1896, S. 5)ノ言ニシテ果シテ事實ニ適當シタルモノナリトセバ所謂之ヲ「嫩芽ニ對ルハ勞少クシテ功多ク而カモ一舉ニシテ以テ總テノ犯罪殊ニ累犯増加ノ近因ヲ杜絶スルコトナルカ故ニ刑事政策ハ上ヨリ之ヲ見ルモ先ヅ未成年犯罪者ニ對シ全力ヲ注デ以テ適當ナル處遇ノ道ヲ講シ尙ホ進ンデハ

niskunde 33 B. 1902 S. 109) が其當時ノ状態ヲ評シテ感化事業ナルモノモ畢竟
 スルニ救貧事業ノ一分岐タルニ過キス世人ハ唯タ之レニ由ツテ乞丐ノ煩累
 ヨリ免カレント欲スルニ外ナラサルヲ以テ浮浪少年處遇ノ方法ノ如キモ亦
 單ニ此目的ヨリ組織シタルニ過キサル實況ナリ云々ト言フノ割切ナルヲ信
 ス爾來年ヲ閱ミスルコト凡ソ半世紀、公共的感化事業ノ摸範及ヒ其發達ノ動
 機トシテ認ムヘキ所ノモノハ十七世紀ノ中葉、伊太利ノフロレンツニ於テフ
 井リツポー、フランチー (Filippo Franci) ノ創設ニ係ル感化院 (Casa di correzzione)
 未成年犯罪者及ヒ不良少年ノ収養感化ヲ目的トシ居房ヲ嚴隔シ cellette 覆面ヲ
 用ヒ如何ナル場合ニ論ナク院兒ヲシテ毫モ互ニ相見ヘ相交ルコトヲ得サラ
 ム及ヒ一七〇三年、法王クレマンズ第十一世ニ依リ羅馬ノヲスベダール、アポ
 ストリヨ (Ospedale Apostolico) ニ建設セラレタル懲治及ヒ未成年監獄即チ是レ
 ナリ法王クレマンズガ其創設セル幼年監獄ノ玄關及ヒ工場ニ揭示セシメタ
 ル紀念語ハ永ク後世ヲシテ其不磨ノ格言ニ服膺セシムル所ナリ曰ク
 (其一)

Clemens XI. Pontifex Maximus

Perditis adolescentibus corrigendis

instituendisque

ut, qui inertes oberant

intrucei Reipublicae servant

An. Sal. MDCCIV. Pont. IV.

(其二)

Parum est coercere improbos Poena

nisi probos efficias disciplina.

動機此ニ起リ摸範此ニ垂レラレ感化事業ノ必要及ヒ効果ハ漸ク世人ノ確認
 スル所トナリタリト雖モ時、偶マ各國、到ル所、兵馬倥傯ノ悲運ニ際會シタルガ
 爲メニ暫ク此事業ノ中絶ヲ餘義ナクセラル、ニ至リ社會文運ノ發達ニ伴ヒ
 漸ク十八世紀ノ末葉ヨリ十九世紀ノ初葉ニ涉リテ再ヒ此事業發達ノ機運ノ
 開カル、ヲ見ルニ及ヘリ即チ一八〇〇年代ノ始メニダニエルフアルク (Da-
 niel Falck) ガフイマールニルイテルホーフヲ開キウヰツハルン (Heinrich Wichern)

ガ一八三三年ニハンブルグノホルンニ「ラウヘス、ハウス」ナルモノヲ設ケ一七八八年ニヂユークラブリーズ (Duke of Leeds) ガ博愛協會ノ事業 (Philanthropic Society) トシテ始メテハツクネーノ寒村ニ小規模ノ流刑囚孤兒ノ收養所所謂家族此收養場ヲ以テ鼻祖トナス。ヲ開設シ其他或ハドメツツ (Demetz) ノ創建ニ係ルメツトライノ感化院一八三〇年ト云フガ如キ皆此時代ニ於テ相前後シテ勃興シタル所ノモノナリ然ルニ十九世紀ノ中葉ニ至ル迄ノ間ハ此種ノ事業ハ總ヘテ一私人ノ慈善的經營ニ放任シ世人ハ唯タ其憐レムヘキヲ知ツテ恐ルヘキヲ知ラス慈光ノ照ラス所能ク以テ凡バテノ罪惡ヲ救済シ得ベシト信シ國家ハ曾テ之レニ向ツテ其權力的任務ヲ盡ス所アラザリシナリ慈善的一私人ノ經營ナルモノ果シテ能ク其目的ヲ全フシ得ヘシカト云フニ實驗ノ結果到底其文明進歩ニ伴フ罪惡増加ノ大勢ニ反抗スルノ不可能ナルヲ悟リ他方ニハ又刑罰萬能ノ迷夢漸ク醒メテ刑罰効果ノ意外ニ薄弱ナルモノナルコトヲ認ムルニ至リタルカ故ニ此ニ始メテ刑事制度改良ノ必要ヲ促シ恰カモ社會問題ナルモノ、勃興ニ際會シタルヲ以テ相俟ツテ一層盛ンニ世人ノ耳目

ヲ犯罪豫防殊ニ幼者保護問題ニ集注セシメ終ニ國家モ亦社會公共ノ利益ヲ保全スルノ任務ヲ竭スカ爲ニ當然刑事制度其他ノ權力關係ヲ以テ此事業ニ關與セザルベカラストノ定論ヲ見ルノ今日アルヲ致セリ而シテ歐洲ニアツテ是レヨリ先キ北米合衆國ニ於テハ既ニ一八二四年紐育ニ國立教育兒ヲ創設セリ卒先以テ法律上特ニ不良少年處遇ノ規定ヲ設ケタルハ佛國ニシテ一八五〇年「sur l'education et le patronage des jeunes detenus」英國(一八五四年)之レニ次ギ越ヘテ七十年乃至八十年迄ノ間ニ於テ他ノ各國モ亦大概特別法規ノ制定ヲ見ザルモノナキニ至リ且ツ英國ノ如キハ一八五四年發布ノ感化法ニ對シテ爾後屢々改正ヲ加ヘ(殊ニ一八五七一八六六六八八九三九九年)テ益々其完備ヲ期シ普國ノ如キモ亦近ク一九〇〇年ニ於テ改正感化法一八七八年發布ノ感化法ニ改正ヲ加ヘ著ル及ヒ感化法施行細則ヲ發布シタルカ如キ年一八九〇年成續報告書ハ數日前著者ノ許ニ到達セリ時勢ノ必要ニ應シ多年ノ實驗ニ鑑ミ各國到ル所孜孜トシテ其完成ヲ努メツ、アルモノ、如シ感化事業ニ關シ最近立法例トシテ余ノ記憶ニ存スル所ノモノハ諾威一八九六年七月發布ノ感化法瑞典一九〇〇年七月發布ノ感化

法等ニシテ何レモ皆用意ノ極メテ周到ナルモノアルヲ見ル其他一般幼者保護ノ制度ニ就テモ濟貧制度、學校令、職工取締、民法、警察令、刑事制度等各種ノ方面ヨリ年々益々進ンテ其改良普及ヲ經營シツ、アルハ蓋シ争フヘカラサルノ事實ナリ我國ニアツテハ明治七年ノ發布ニ係ル不完全ナル恤救規則即チ濟貧制度ノ範圍ニ於テ僅カニ棄兒孤兒ノ類ヲ恤救スルノ規定アルノミニシテ古來殆ソド一モ公私ニ論ナク特ニ幼年保護ノ爲メニ經營シタル施設物アルヲ見ス刑法、不論罪ニ付シタル滿八歳以上十六歳以下ノ未成年者ヲ懲治場ニ留置スルノ規定アリト雖モ(刑法第七十九條及ヒ第八十條)所謂懲治場ナルモノハ唯タ名ノミニシテ實質ニ於テ毫モ普通監獄ト異ル所アラス民法、親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍ニ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ル、ノ規定(民法第八百八十二條)アリト雖モ是レ亦所謂懲戒場トハ如何ナル場所ナルカ民法ニ於テ之ヲ定メサルノミナラス民法施行法其他ノ法令ニ於テモ未タ之ヲ定ムルモノアラス(梅博士民法要義第四卷三五六頁)我カ民法ニ於テ適當ニ親權ヲ行フ能ハザルガ爲ニ其子ヲ浮浪其他ノ

去モ立法者ノ相當機關ノ勸養ニ移スル規定ヲ設ケサリシハ不備ナルカ如シト雖モ立法者ノ意蓋シ時勢ノ傾向ニ察スル所アリ成ルヘク是等公法的關係ニ移ル事項ヲ避クルト得策ナルニ感化法ノ如キ特別法律ノ内ニ之ヲ明記スルハ法律第一規定スルノ得策ナルヲ信シタルカ爲メナルヘシ 明治三十三年三月三十四年八月内務省令第二十三號ヲ以テ感化法施行細則(感化法十五條施行ナルモノヲ公布セシモ三年ノ星霜ヲ經タル今日ニ於テ未タ一モ該法律ニ準據シテ感化事業ノ實行ニ着手シタルモノアルヲ聽カス感化法其レ自身カ大體ニ於テ既ニ不備缺漏アルヲ免カレサルハ識者ノ夙ニ認ムル所ナリト雖モ若シ當時焦眉ノ急務ナリト認メテ該法案ヲ提出シタル政府當局者ニシテ果シテ實施ノ誠意アリタランニハ立法ノ不備ハ實際ノ操縦ニ依テ如何様ニモ之ヲ補全スルヲ得ヘク兎モ角我國未曾有ノ新事業トシテ我カ刑事制度ノ上一一新局面ノ開展ヲ見ルヘキ筈ナルニ余輩不幸ニシテ未タ政府ガ該法律ノ實施ヲ督勵シ勸誘シ若シハ助成シタルコトアルヲ聞カサルノミナラス感化法施行細則ナル好命題ノ下ニ恰カモ羊頭ヲ懸ケテ狗肉ヲ賣ルニ同シキ杜撰孟浪ノ規定ヲ公布シタルガ如キ余輩ヲシテ益々政府誠意ノ存スル所ヲ知ル

ニ苦マシムル者アルハ殊ニ深く遺憾トスル所ナリ普國改正感化法ハ我カ現
 行? 感化法ニ後ル、コト三ヶ月、同年六月ノ發布ニ係リ翌三十四年四月一日
 ヨリ之ヲ實施シタルモノナルニ拘ハラス既ニ三十四年乃至三十五年ノ一年
 間ニ於テ該法律ニ依リ收養シタル未成年者合計七七八七人内男四九四九人
 ノ多キニ達シタリト云フ (Koenigl. Preussisch. Ministerium d. I. : „Statistik u.d.

Feuersorgeziehung Minderjaehriger etc.“ 1903) 彼我相比較シテ果シテ如何ノ感カ
 アル獨リ何ゾ我カ政府否一般國民ノ事ニ不真面目ナルノ甚シキヤ我帝國ニ
 於テハ漫然唯々文明ノ風潮ニ盲從シテ形式的無意義ニ感化法ナルモノヲ發
 布シタルニ過キスト評セラル、モ果シテ能ク之ヲ回護スルノ辭アルヲ得ル
 ヤ否ヤ著者我カ感化法發布ノ當年偶マ官命ヲ帶ヒテ歐洲ニ遊ヒ普國感化法
 ニ語ツテ感化法發布ノ機運ニ際シタルヲ先ヅ告クルニ我國ニ於テモ亦漸ク
 日進ニ進ノ國期年ヲ出テスシテ獨リ貴國自身カス業ノ惠ニ浴スルニ東天
 痛愧ノ情ヲ禁スル之ヲ想ハサルモ獨リ自ラ但シ我國ニ於テモ近年公共例ハ東
 京市養育院感化部ノ如キ又ハ一私人ノ事業トシテ此ニ着手スルモノナキニ

非スト雖モ組織未タ備ハラス財源亦鞏固ナル能ハス概シテ未タ規模狭少効
 果亦極メテ薄弱ナルヲ免カレス(一)少數有識者ノ間ニハ夙ニ此事業ノ必要ヲ認
 メ且ツ國家モ亦タ直接此事業ニ向ツテ大ニ其當然ノ任務ヲ盡ス所ナカルヘ
 カラサルヲ主張スル者アリト雖モ輿論ハ尙ホ未タ冷然トシテ毫モ其聲ニ反
 響スル所ナキモノ、如シ

内務省地方局ノ調査ニ依レハ(二)三十五年四月調目下我國ニ於テ感化事業ノ
 設備トシテ認ムルヲ得ヘキモノハ全國ヲ通シ僅カニ十三個所規模何レモ
 狭小ニシテ其稍々大ナリト稱スルモノモ四十人内外ノ生徒ヲ收容スルニ
 過キス收容人員總ヘテ百二十三〇〇人ニ過キス〇〇生徒總員ハ三十三年度ノ調査
 員ヲ見ルニ至
 リタルナラン

繇ツテ直接刑事上ノ實際方面ニ於ケル未成年犯罪者處遇ノ實況如何ト云フ
 ニ此種ノ犯罪殊ニ累犯者ノ年々益々増加ヲ致シ新聞紙上殆ント一日トシテ
 少年墮落犯罪等ノ記事ヲ見サルハナキノ状態ナルニモ拘ハラス警察裁判監
 獄行刑等ノ上ニ未タ一モ特別ノ施設ヲ加ヘタル所ノモノアルヲ見ス政府當

局者ハ頻リニ刑事制度改良ノ事ニ熱心ナリト言フト雖トモ警察カ未成年者ヲ處遇シツ、アル實況如何、狹隘ナル警察留置場ノ一房ニ頑是ナキ十歳以下ノ幼兒ヲシテ惡漢無賴ノ成年者ト混同雜居セシムルカ如キコトナキヤ否ヤ十二歳以下ノ所謂犯罪無能力ナル種類ノ者ニ對シテ彼ノ浮浪罪ナルモノヲ濫用スルカ如キコトナキヤ否ヤ裁判官ナルモノ果シテ能ク刑罰萬能ノ迷夢ヨリ醒覺シタリト言フテ得ルヤ否ヤ果シテ能ク犯罪及ヒ犯罪人格ニ對シテ機宜適實ノ刑ヲ賦課スルコトニ依ツテ彼ノ苟クモ犯罪アレハ摘發糺治シテ以テ刑ニ至ラシムルヲ能事トシ濫リニ有害無効ノ短期自由刑ヲ適用スルカ如キ弊ナキヲ得ルヤ否ヤ懲治場ナルモノ今尙ホ監獄ノ一部ニシテ其實質ニ於テハ懲治ト行刑ト毫モ相異ル所ナク且ツ口ニ監獄改良ヲ誇ル所アルニモ拘ハラス我國未タ一個所トシテ獨立幼年監獄一政府ハ昨年々末ニ於テ僅カニ幼年監若クハ懲治場トナシ又本年三月發布ノ監獄官制ニ進歩ト新シテ監獄教師ナル職員ヲ設ケタルガ如キハ幼年犯罪者處遇法ノ一進歩ト新シテ之ヲ見ヘルヲ得、ノ設ケスラナキノ實況ニ非スヤ要スルニ何レノ方面ヨリ之ヲ見ルモ幼者保護ノ事我國ニアツテハ尙ホ未タ全ク世人ノ願ル所トナラスト斷言スルモ可ナリ

第四章 犯罪増加ノ現象

犯罪種族ノ増加ハ社會自ラ招ク所ノ應報的災厄ナリ統計表ノ示ス所ニ據テ之ヲ見レハ四千四百餘万ノ人口三十四年十二月計年日有スル我カ帝國ニ於テ毎年新受刑者ヲ出タスコト平均殆ント十八万四人口千人ニ就キ一日平均ノ監獄拘禁者凡ソ六万人、單ニ監獄維持ノ經費ノミニテモ毎年凡ソ六百万圓以上ノ支出ヲ要ス其他犯罪アルモ犯人ヲ發覺スル能ハス之ヲ發覺スルモ種々ノ事情ニ依リテ之ヲ檢舉若クハ逮捕スル能ハス幸ニシテ之ヲ檢舉シ若クハ逮捕シ得タリトスルモ證據不備其他ノ理由ニ依リテ苟免ヲ得ルニ至ルモノ亦少カラス此クノ如キ種類ノモノ即チ實際犯罪行爲アル所ノ者ニシテ犯罪統計表ノ上ニ現レサル者果シテ幾何ソヤモリソノ曰ク「犯罪ノ多クハ唯タ犯罪者自身ノミ之ヲ知ルニ過キス」(Von vielen Verbrechen weiss nur der Verbrecher allein)ト思フニ事實ニ於ケル犯罪ノ計數ハ統計表ノ上ニ現ハル、モノ

ニ比シテ少クモ二倍以上ノ實數ヲ見ルト云フモ大差ナカルヘシ我カ國民カ其自ラ招クノ應報トシテ直接間接ニ蒙リツ、アル所ノ危害モ亦大ナリト謂フヘシ犯罪若クハ監獄統計ナル所ノモノ直チニ之ヲ以テ犯罪實質ノ増減ヲ測ルノ標準トナスニ足ラサルコトハ統計ノ大家エツチンゲン (v. Oettingen) ノ夙ニ吾人ニ警告スル所ニシテ例ヘハ我カ監獄統計表

○新受刑囚人

年次	刑 法		諸 條 例		遊 等 罪 及 臨 府 縣 命 令		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
明治三十五年	九,七三三	八,四七一	九,三〇〇	六,二二二	四,五八〇	九,七六九	一五,四四二	一八,八八一
同三十四年	九,三三三	八,七三三	八,七三三	五,〇〇〇	四,六四九	九,四四九	一五,〇〇〇	一七,〇〇〇
同三十三年	九,六三三	八,〇〇〇	七,八〇〇	四,三三三	三,八〇〇	九,五五五	一四,四四四	一七,〇〇〇
同三十二年	一〇,〇〇〇	九,七三三	六,六六六	三,〇〇〇	二,八八八	八,八八八	一三,八八八	一五,〇〇〇
同三十一年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	五,〇〇〇	二,二二二	三,三三三	七,七七七	一〇,〇〇〇	一二,二二二
平均	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四
同三十年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四
同二十九年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四

年次	刑 法		諸 條 例		遊 等 罪 及 臨 府 縣 命 令		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
同二十八年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
同二十七年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
同二十六年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
平均	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
同二十五年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
同二十四年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
同二十三年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
同二十二年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
同二十一年	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
平均	一〇,〇〇〇	九,〇〇〇	七,五五五	三,六六六	三,〇〇〇	八,一三三	一二,二二二	一四,四四四	
増減	自二十五年至二十六年	自二十六年至二十七年	自二十七年至二十八年	自二十八年至二十九年	自二十九年至三十年	自三十年至三十一	自三十一年至三十二年	自三十二年至三十三	自三十三年至三十四

増減ノ項ハ自明治二十一年至同二十五年五ヶ年平均囚人ヲ百トシ最近十ヶ年間ニ於ケル刑法、條例及違警罪犯罪者ノ増減ヲ現ハシタルモノナリ

○年未在監人員

明治三十五年	五七、九一二
同 三十四年	五八、八八〇
同 三十三年	五七、七〇二
同 三十二年	五八、一四七
同 三十一年	七〇、六三二
同 三十年	六九、二六五
同 二十九年	七五、四二三
同 二十八年	七七、五五一
同 二十七年	八一、〇〇一
同 二十六年	七九、一七五
自明治三十五年平均	六〇、六五五
自明治三十四年平均	七六、四八三
自明治三十三年平均	六八、八三二
自明治三十二年平均	六八、九九七
自明治三十一年平均	

ノ示ス所ニ依テ之ヲ見レハ廿六年以來最近十年間ヲ通シテ著ルシキ増減ナク寧ロ廿六七年ニ比スレハ漸次減少ノ傾向ヲ呈シツ、アルモノ、如シト雖モ是ハ決シテ以テ犯罪現實ノ真相ヲ表示シタルモノトハ謂フヘカラス近年政府執法ノ當局者ハ頻リニ微罪不檢舉ノ方針ヲ取り明治三十年減刑令ノ發布ニ依リ一時ニ一萬五千人内外ノ在監囚徒ヲ解放シ爾來此恩典ニ浴シテ毎年出監スルモノ、割合ノ前年ヨリモ多ク且ツ監獄行刑ノ實際ニ於テ特赦假出獄等ノ割合ヲ増加シタルニモ拘ハラヌ尙ホ明治三十四年中ニ於ケル新受刑者總數ハ一七〇、二一六最近十年間ニ於ケル最多年即チ二十七年ニ比スレ加ノ調査ニ依ルハ漸次増人ニシテ在監年未人員五八、八八〇人前年ニ比スレ監ニシテ減刑令發布ノ當年即チ三十年々末在ヲ有シ殊ニ諸條例違警罪等ニ對スル犯罪ノ如キハ累年著ルシキ増加ヲ見ルノ實況ナリ若シ夫レ地方到ル所近年犯罪ニ對スル警察機關ノ不備ヲ訴フルノ聲ヲ聞カサルハナキノ状態ニ就テ之ヲ見ルモ此計數ノ外尙ホ多數犯罪事實及ヒ人格ノ發覺逮捕セラレサルモノハアツテ吾人ヲ迫害シツ、アルヲ知ルベシ

我カ犯罪統計ガ犯罪現實ノ狀態ヲ直寫スルノ標的トナス能ハサルカ如ク文明各國ノ犯罪統計モ亦以テ其實質ヲ表示スルノ正確ナル資料トナスニ足ラス然レトモ之ヲ比較シテ以テ概括的ニ犯罪割合ノ比較的我國ニ多數ナルノ事實ヲ推知スルヲ得ヘシ犯罪割合ノ多數ハ尙ホ忍ラヘシトスルモ此多數犯罪者カ實際ニ於テ年々益々増加シツ、アルノ事實ナリト云フニ至ツテハ豈能ク一日モ之ヲ看過スルコトヲ得ヘケンヤ

顯ツテ斯ク多數ノ犯罪者殊ニ累犯者ヲ生スル所以ノ直接且ツ有力ナル原因ト認ムヘキ未成年犯罪者ノ實況ヲ觀察スルニ吾人ガ普通ノ事理ニ照ラシマタ日常ノ實驗ニ徴シテ略ボ推定シ得ラル、カ如ク我カ犯罪統計表ノ示ス所ニ依ツテ之レヲ見ルモ明治十五年ニ於テ未成年犯罪者九〇一六人ナリシ所ノモノ二十三年ニ至リテハ頓ニ其數ヲ増シテ殆ント二万人トナリ漸次遞加シテ二十七年ニハ二万八千人ニ近キ大數ヲ見ルニ至レリ即チ僅々十年間ニ於テ實ニ三倍餘ノ増加ヲ致シタルモノト謂フヘシ二十七年以來漸々減少ノ傾向ヲ見ルカ如クナリト雖モ是ハ畢竟人工的一時ノ變象タルニ過キスシテ

是ヲ以テ犯罪實質ノ減少ヲ表示シタルモノトハ認ムヘカラズ思フニ實際ニ於ケル未成年犯罪者ノ分量ハ二十七年以來尙ホ續テ年々累加ノ傾向ヲ呈シツ、アルコトナルヘシト信ズ假リニ多少減少ヲ見ルノ事實アリトスルモ三十四年ニ於ケル未成年犯罪者ノ總數ハ合計一五、二一一人ニシテ之ヲ同年間ニ於ケル犯罪受理總數一〇五、九九九ニ對スルトキハ實ニ百分ノ一四・二五ノ多キヲ占ムルノ實況ナリ未成年犯罪者ノ比較的多數ナルハ他ニ多ク其類例ヲ見サル所ナリト謂フベシ

○各國犯罪比較

	西 曆	年 末 四 人	人 口 一 萬 人 中
佛 蘭 西	一、八九九	三〇、〇三九	七・九
獨 逸	一、八九五	二六、五三九	四・七
英國(英蘭及威爾斯)	一、八九九	一六、四八九	五・二
日 本	一、九〇一	四九、五七九	一一・二

増加スルニ反シ未成年犯罪者ハ實ニ百分ノ五〇ノ割合ヲ以テ増加シツ、アリト云ヒ其他佛國、埃國、伊國、諾威、白耳義等ニ到ル所皆未成年犯罪者増加ノ傾向ヲ示シツ、アラザルハナシ (Morrison: a. O. S. 4) 獨乙ニ於テハ第一回帝國刑事統計年鑑調製ノ當時即チ一八八二年、帝國刑法輕重罪ノ處刑ヲ受ケタル未成年犯罪者^{至十二歳乃}三〇七一九人ニ對シ一八八九年ニハ三六七九〇即チ百分ノ一九七六ノ増加ヲ呈シ更ニ一八九〇年ニハ四〇九〇五人即チ前年ニ比シテ尙ホ百分ノ一〇ノ増加トナリ一八九九年ニハ一層進ンテ合計四七五二人即チ一八八九年ニ比シ終ニ百分ノ二九ノ増加ヲ見ルノ實況ニシテ其犯罪總數ニ對スルノ割合ハ殆ト一割五分強ノ多キヲ占ム犯罪總數ニ對スルノ割合ハ一八八二年ニ於テ百分ノ九四・一八九〇年ニ於テ百分ノ一〇七・ナリ而シテ其同年齡ノ一般未成年者ニ對スルノ割合ハ人口一萬人ニ對シ一八八二年ニ於テ五十六人七分ナリシ所ノモノ累年増加シテ終ニ六十五人強ノ割合ヲ見ルニ至レリ (Appelius: a. O. S. 8; Burkhardt: a. O. S. 77; Aschroft: „Die Behandlung d. verwahr. u. verbrecher. Jugend“ 1892 S. 2) 埃國ニ於ケル未成年犯罪者増加ノ實況ニ就テハツツケル (Zueker: „Einige dring-

ende Reformen d. Strafrechtspflege“ 1896, S. 4) ノ記述ニ由ツテ證明スヘシツツケル曰ク埃國ニ於テハ一八八二年乃至一八九一年ノ十年間ニアツテ十六歳以下ノ受刑者ハ百分ノ二・一ヨリ同二・七ニ十六歳以上二十歳以下ノ受刑者ハ百分ノ一四・三ヨリ同一七・六ニ即チ二十歳以下ノ未成年犯罪者ハ累年間斷ナク増加シテ終ニ受刑者總數ニ對シ一八八二年ニ於ケル一割六分ノ割合ハ一八八九年ニ於テ二割強ニ該當スル増加ヲ見ルニ至レリト
 未成年犯罪者ニ於テ割合ニ多數ノ累犯者ヲ見ルモ亦各國其趣ヲ同フスル所ノ事實ニシテ我が統計表ニ依レハ一年ノ受刑者中凡ソ百分ノ四一以上ハ所謂累犯者ナルモノニ屬ス然ルニモリソンノ記述スル所ニ依レハ (a. O. S. 37) 「幼年犯罪者中幾何ノ所謂累犯者即チ慣習犯罪者アリヤハ一モ信憑スヘキ材料ナキカ故ニ計數ヲ以テ之ヲ證明センコト困難ナリト雖モ今英國感化院ニ送付セラレタル (Reformatory schools) 兒童ニ就キ其前科關係ヲ表示シタル報告書(一八九四年)ニ依テ之ヲ見ルニ入院兒童ノ六割四分即チ殆ント其三分ノ二ハ犯罪行為ニ依リ一回以上十回以下ノ處分ヲ受ケタル所ノモノナリ然カモ

此數ハ未タ以テ前科者ノ全部ヲ遺漏ナク包括シ得タルモノトハ謂フヘカラ
 ス前科關係ニシテ發覺スル所トナラサルモノ多キノミナラス自ラ稱シテ初
 回ノ犯罪ナリト稱スル所ノモノ其實既ニ深ク罪惡ニ陥リ所謂累犯者ヲ以テ
 見ルヘキモノ少カラサルヘシ云々ト余カ市谷監獄ノ現在未成年犯罪者ニ就
 テ調査スル所ニ依レハ

○未成年者犯數別

現在ニ就テノ調査
 三十二年八月廿四日

十六歲未滿	十六歲以上 廿歲以下
初犯……………一七	一四九
再犯……………九	四二
三犯……………七	三六
六犯以下……………四	四〇
十犯以下……………二	五
合計……………三二	一二三

○全國未成年新受刑者犯數表

	初犯	再犯以上	合計	初犯者百人ニ付 再犯以上ノ者
十六歲未滿	三十四年 三、〇一九	全上 一、〇二八	全上 四、〇四七	三四・一
二十歲未滿	一三、九七五	五、三三九	一九、三一四	三八・二
計	一六、九九四	六、三六七	二三、三六一	三七・五

世人或ハ未成年犯罪者ノ一般犯罪者ニ對シテ比較的多數ノ割合ヲ占ムルノ
 事實ヲ見テ是ハ未成年者カ概シテ無智淺慮ニシテ容易ニ發覺セラレヘキ方
 法ニ於テ犯罪ヲナシ且ツ其發覺セラレタル犯罪ニ對シテ回避シ辯護スルノ
 能力ニ乏シキノ致ス所ナリト速了スル者アルヘシト雖モ幼年犯罪者ノ事情
 ヲ詳悉スル所ノ者ハ反テ反對ニ彼レカ年齡ノ割合ニ好智ニ長シ詐謀ニ富ム
 コト驚クヘク巧ミニ人ヲ惑着シ又犯迹ヲ掩ヒ且ツ頑硬ニシテ容易ニ其行爲
 ヲ自白セサルカ故ニ之ヲ糺治スルコト甚タ困難ニシテ其糺治シ得ラレタル
 所ノモノモ免訴セラル、ニ至ルノ割合甚タ多キノ事實ヲ認知スベシモリソ

シノ如キハ免訴未發覺又ハ未檢舉ニ終ハル者ノ割合ハ未成年犯罪者ニ就テ殊ニ多キヲ見ルノ事實ナリト認め其理由トシテ幼年者ハ婦人ト同シク犯罪ノ前ニ人ノ目ヲ眩惑シ且ツ容易ニ他ノ同情ヲ惹クノ特性ヲ有スルヲ以テナリト言ヘリ

第五章 刑事制度ト未成年犯罪者ノ關係殊

ニ責任年齡

現行刑事制度カ一般ニ未成年犯罪者ノ多クノ場合ニ對シテ無効有害ナルノ事實ハ各國到ル所ニ此種ノ犯罪者ノ増加ノ著ルシキ現象アルニ徴シテ之ヲ證明スルニ足ルヘク近年刑事制度改良論ノ盛ンニ唱道セラレ且ツ各國立法ノ實際ニ於テモ競ツテ之レカ實行ニ着手シツ、アルニ至リタルノ偶然ナラサルヲ知ルヘシ我國ニ在ツテモ亦今ヤ刑法改正ノ議アリ蓋シ時勢ノ趨向ト多年實驗ノ不結果トニ願ミタル所アリタルニ依ルヘシト雖モ其改正案ナルモノ、實質ニ就テ之ヲ見ルニ所謂刑事制度改良論ノ焦點タル未成年犯罪者

問題ニ就テ深ク研究ヲ盡クス所ナキカ如キ感アルハ余ノ私カニ遺憾トスル所ニシテ其此クハ如キ所以ハモノモ畢竟スルニ世人カ尙ホ未タ此緊要問題ニ對シテ冷然看過スルノ反響タルニ外ナラサルヘシト信ス且ツ今日ニ於ケル刑事制度ノ實況ニ就テ之ヲ見ルニ刑事當局者ノ眼中唯タ不完全ナル現行刑法又ハ監獄則ノ規定ヲ墨守スルノ外殆ンド犯罪人格ノ成年者タリ未成年者タルノ區別ナク彼レニ對シテ自由刑ヲ課スルカ如ク此レニ對シテモ亦自由刑ヲ加ヘ彼レカ個人關係ヲ顧ミルノ精ナラサル寧ロ殆ンド全ク之ヲ顧ミル所ナキカ如ク此レノ如何ナル生育關係ノ下ニ罪惡ニ陥リ如何セハ能ク之ヲ罪惡ヨリ救護シ得ベキヤノ方法等ニ就テハ恬トシテ毫モ其思慮ヲ費ス所ナシ千遍一律唯タ自由刑殊ニ短期刑濫用ノ下ニ未成年犯罪者ヲ監獄ニ投シテ以テ能事足レリトシ監獄行刑ノ實況モ亦概シテ粗笨蕪雜成年者ト未成年者トニ依ツテ幾ント一モ處遇ノ方法ヲ異ニスル所ナク彼レノ雜居ナルカ如ク此レモ亦混同ニシテ甚シキハ則チ十六歲未滿ノ兒童ト二十歲以上ノ習慣的成年犯罪者ト其室ヲ同フシ其工場ヲ等フス未成年者ニ對シテ教育ヲ授ク

ルノ規定アリト雖モ多クハ唯タ名ノミニシテ其實ナク多實際マタ短刑期囚ノ
 育ノ實ヲ擧ケル能ハ所謂勞働ナルモノ、如キニ至ツテモ其種類及ヒ方法ノ
 上ニ於テ二者ノ間一モ相撰フ所アルニ非ス是ヲ以テ之ヲ他ノ文明各國ニ於
 テ未成年犯罪者ニ對スル刑ノ賦課及ヒ執行ノ注意周到ナルニ比スルトキハ
 其間雲泥ノ差モ霄々ナラサルモノアツテ存ス而カモ尙ホ他ノ文明各國ニ於
 テ刑罰ハ未成年犯罪者ノ多クノ場合ニ對シテ有害無効ナリトシテ頻リニ之
 ヲ制限セントスルノ方針ヲ取リツ、アルニ非ズヤ我國ノ事況ハ即チ全ク之
 レニ反シ刑罰濫用ノ傾向ニ對シテ殆ンド一モ之ヲ防遏スルノ道アルニ非サ
 ルナリ

所謂普通刑罰ナルモノハ責任能力者即チ健全ナル意識ヲ有スヘキ犯罪人格
 ニ對シテ之ヲ課スルヲ本則トス蓋シ此クノ如クナラサレハ到底以テ刑罰ノ
 効果ヲ全フシ能ハサルヘキ以テナリ而シテ其責任能力ノ有無厚薄ニ就テハ
 各個人格ノ性質境遇教養其他種々ノ關係ニ依リ必スシモ同一ニ之ヲ律シ能
 ハサルコト勿論ナリト雖モ其最モ多クノ場合ニ適用シ得ラルヘキ年齡即チ

人生發育ノ時期ヲ以テ之ヲ區別スルノ標準トナスコト各國刑事立法ノ通義
 トスル所ニシテ我カ刑法罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ論セス(第
 七十九條)十六歳ニ滿タサル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨
 別ナクシテ犯シタルトキハ其罪ヲ論セス若シ辨別アリテ犯シタルトキハ其
 罪ヲ宥恕シ本刑ニ二等ヲ減ス(第八十條)若クハ二十歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ
 宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス(第八十一條)等ノ規定アルハ即チ之レカ爲メナリ
 責任能力ノ年齡ハ通例之ヲ絶對的及ヒ關係的ノ二種ニ別チ其分界ノ程度ハ
 國ニ依リ著ルシキ相異アルヲ見ル即チ伊太利ニ於テハ滿九歳丁抹諾威和蘭
 埃士利ニ於テハ滿十歳獨逸ニ於テハ滿十二歳ヲ以テ絶對的責任無能力ノ時
 期トナス佛國及ヒ白耳義ニアツテハ法律上別ニ責任能力ノ年齡ヲ定ムルコ
 トナク其有無ハ各個ノ場合ニ於ケル裁判官ノ認定ニ任カスト雖モ佛國ノ如
 キハ一八五五年及ヒ一八七六年ノ司法省令ニ依リ爾來八歳以下ノ者ハ絶對
 ニ其責任ヲ問ハサルノ慣例ヲ作り英國ノ如キモ亦通例十四歳ニ滿タサル者
 ノ行爲ハ絶對ニ之ヲ不論罪トナスノ方針ヲ取レリ而シテ其關係的責任能力

期限ナルモノニ至ツテハ佛國、和蘭、白耳義ニ於テハ滿十六歲、獨乙ハ滿十八歲、魯國、伊太利ハ滿二十一歲、北米紐育洲ノ如キハ一八七七年ノ法律 (undetermi- nate sentences) ニ依リ滿三十歲ノ年齢ニマテ之ヲ擴張セリ其他或ハ男女罪質等ヲ標準トシテ區々ノ能力資格ヲ定ムルモノナキニ非スト雖モ今一々此ニ之ヲ擧クルノ煩ヲ省略スヘシ之ヲ要スルニ各國刑事立法ノ上ニ責任能力期限ヲ設定スルノ標準ハ是非ノ辨別力即チ健全ナル自由意識ノ發達更ラニ精シク之ヲ言ハハ單ニ或ル行為ノ邪正ヲ區別シ得ルニ止マラス自覺的、道義觀念ノ上ニ其由ツテ來ル所以ノ理ヲ明カニシ且ツ能ク以テ正ニ就キ邪ヲ避クルノ身體的及精神的、能力ノ完熟 (Sittliche Reife od. Verstandesreife) ト謂フコト即チ是レナリ若シ果シテ是ヲ以テ刑罰責任能力ヲ定ムルノ標準トナスベキモノナリトセハ六七歲乃至十歲前後ノ幼年時期ヲ以テ能力ヲ劃定スルノ不適當ナルハ按スルニ文明各國中二三尙キ現行刑法ノ上ニ此幼年時期ノ規定ヲ見ル所以ノモノハカララ (Carrara) ガ羅馬人ハ民法ニ於テハ大人ナルモ刑法ニアツテハ侏儒タルヲ免カレヌト評セル羅馬法 *infantes, minores, pubertas*

若クハ *infantiae proximi, proximi pubertati* ノ區別ヲ因襲シタルモノニシテ刑事政略ノ上ニハ殆ンド無意義ノ規定タルニ過キスト謂フモ可ナリ(論外トシテ十二歲乃至十四歲ト云フカ如キ年齢モ果シテ此ヲ以テ最も多クノ場合ニ適用シ得ヘキ健全ナル理解力ノ完熟期ト想定スルコトヲ得ベキヤ否ヤロツシ) (Rossi: „Trattato di diritto penale“ 1859, S. 242) 曰ク「人ハ其幼年時期ニアルノ間、全ク動物的生活状態ノ支配ノ下ニアリテ其道義心ハ尙ホ半睡シ其理解力ハ未タ極メテ薄弱ニシテ且ツ動搖シ易キヲ免レヌト之レニ道義心ヲ惹起シ之レニ理解力ヲ發達セシムルヲ得ル所以ノモノハ主トシテ教養其他外界關係ノ力及ヒ個人的生理機關ノ状態ニ賴ルコトナルカ故ニ其發達ノ極メテ緩慢漸進ナルヘキハ勿論ニシテ最も善キ關係ノ下ニ生育シタル者ニシテ尙ホ十二三歲前後ニ至ルマテノ間ハ僅カニ外物關係ノ爲メニ其動搖變化シ易キ自然ノ性情ヲ抑制シテ辛フシテ所謂動物的生活状態ヨリ擺脫セシメラル、ヲ得ルニ過キス然ルニ醜ツテ下層社會即チ普通最も多クノ犯罪者ヲ出タス所ノ階級種族ノ實況ニ就テ之ヲ見ルニ獨リ概シテ其生理機關ノ稟質及ヒ發

育ノ上ニ欠陥多キノミナラス人ハ唯タ子ヲ産ムノ一器械タルニ過キスシテ之ヲ産ムモ之ヲ鞠育スルノ道ヲ知ラス其鞠育ト稱スル所ノモノモ多クハ則チ愛ノ乳ヲ以テスルニ非スシテ之レニ代フルニ哀ミノ涕ヲ以テスルノ實況ニシテ長シテ稍々智情ノ發芽ヲ見ルノ時期ニ至レハ直チニ之ヲ醜陋汚濁ノ境遇ニ放任シ毫モ之レニ教養ヲ加フル所アルニ非ス斯クハ如キ關係ノ下ニ生育シタル所ノ者ニ對シ如何ソ能ク十二三歳ノ年齢ヲ以テ健全ナル道義的意識ノ完熟期ト想定スルコトヲ得ベケンヤスチーハン(Stephen)曰ク十歳乃至十二歳前後ノ幼年者ハ吾人ノ想像シ能ハサル程其思慮ノ單純淺薄ナルモノニシ其多クノ者ハ竊盜ハ刑罰ヲ以テ處分セラルヘキモノナリトノ觀念スラ之ヲ有セストロバート(Roberts)ハ下層貧民社會ニ於ケル者ノ身體即チ生理機關ハ二十五歳乃至二十六歳ニ至ツテ始メテ完熟スルニ至ルモノト認メ此論據ニ基テ断定スラク身幹重量及ヒ胸圍ニ依ツテ測定スルヲ得ヘキ身體ノ大小強弱ハ通例精神状態ノ發育程度ト其關係ヲ有ス吾人若シ下層貧民社會ノ兒童ト上流富有社會ノ兒童トニ就テ其身體ヲ計査スルトキハ年齢ノ同

一ナルニ拘ハラス身幹及ヒ體量ノ上ニ著ルシキ大小輕重ノ差異アルヲ見ルヘク概シテ上流社會ニ於テ廿一歳ヲ以テ身體成熟ノ時期ト定ムルヲ得ルニ反シ下層社會ニアツテハ漸ク二十五歳若クハ廿六歳ニ至ラザレハ其完熟ヲ見ル能ハスト(Morrison: a. O. 5. 138)是ヲ以テ之ヲ觀レハ現行刑法滿十二歳ヲ以テ絶對的刑罰責任無能力ノ時期ト定メタルコトノ事實ニ適合セサルノミナラス凡ソ刑罰ナル所ノモノハ完全ナル是非辨別力ノ發達ト共ニ侵害セラハヘキ目的物即チ自由名譽財産等ノ眞價直ヲ認識スルニ至リタル者ニ對シテ之ヲ課スルコトニ依ツテ始メテ其効果ヲ期シ得ヘキモノニシテ苦痛ヲ以テ刑ノ實質ノ要素トナスハ即チ之レカ爲メナルニ其完全ナル辨別力ニ缺乏シ且ツ財産ヲ有スルコトナク自由名譽ノ何モノタルヲ解セス唯タ今日アルヲ知ツテ未來アルヲ知ラス自然的性情ノ趨ク所ニ從テ盲動スル所ノ者ニ對シテ其責任ヲ論スルカ如キハ抑モ亦不合理且ツ無意義ノコトナリト謂ハサルヲ得ス幼年犯罪者ハ通例教養ノ目的物タルヘキモノニシテ刑罰ノ容體トナルヘキ所ノモノニ非ス彼レノ道義心ヲ起シ彼レノ理解力ヲ導キ又彼レニ

名譽自由ノ尊重スヘキヲ知ラシムルハ獨リ教養ノ任務ヲ全フスルコトニ依
 ヲテ之ヲ能クシ得ヘキ所ニシテ刑罰ハ則チ之レニ與ラス否ナ之レニ與カル
 ヲ得サルモノトス余輩固トヨリ刑罰ニ於ケル教養感化ノ要素ヲ否認スルモ
 ノニ非スト雖モ教養感化カ刑罰唯一ノ要素ニ非サルコト勿論ニシテ所謂教
 化ナルモノ畢竟スルニ刑罰固有ノ要素タル道義的痛苦(Stichtiches Uebel)ノ働
 ラキヨリ生スル自然ノ結果タルニ過キスシテ活動範圍ノ制限セラレツ、ア
 ルト共ニ其効果モ亦意外ニ薄弱ナルヲ免カレサルハ當然ナリ然ルニ現行刑
 事制度ハ此教養主管ノ領域ニ屬スヘキ多クノ幼年犯罪者ヲ掠奪シ來ツテ強
 テ刑罰賦課ノ客體タラシメントス其効果ヲ全フスル能ハサルノ偶然ナラサ
 ルヲ知ルヘク獨リ無効ニ終ハルニ止マラシメハ尙ホ忍フヘキモ之レカ爲メ
 反テ益々罪惡ノ危害ヲ助長スル所アラントスロンブローゾー(Lombroso:)ガ幼
 年犯罪者ニ對スル刑罰ノ効果ヲ指シテ公力的腐壞事業(amlich Verderbung)ナ
 リト酷評シタルノ當否ハ姑ラク措キ刑罰殊ニ短期自由刑カ幼年犯罪者ニ對
 シテ唯ターノ玩弄タルニ過キス之ヲ課スルノ結果彼レカ折角朦朧ナカラモ

其小胸裏ニ描キツ、アリタル監獄畏怖ノ觀念ハ驟忽ニシテ消滅シ反テ衣食
 待遇ノ遙カニ社會生活ニ優サルモノアルヲ感スルノ他面ニハ善ニ遷ルハ遲
 ク惡ニ化スルハ速カナリノ諺ノ如ク忽チ他ノ同類ノ惡感化スル所トナリ益
 々罪惡ニ養成助長セシメラル、ニ至ルヲ免カレス幼年犯罪者ニシテ再犯ニ
 陷ルモノ、多キ甚シキハ監獄ヲ出テ、彼レノ歸來ヲ待テ設ケツ、アル兩親
 ノ家門ニ入ラサルノ前ニ既ニ犯罪シ再ヒ監獄ニ入ルコト得々トシテ恰カモ
 家門ニ歸ヘルカ如キ色アル者ノ少カラサル所以ノ偶然ニ非サルヲ知ルヘシ
 然ラハ彼レニ對スル長期刑課罰ノ結果如何ト云フニ之ヲ短期刑ニ比シ殊ニ
 分房、教誨、教育、作業等行刑ノ方法其宜シキヲ得ルニ於テハ實際ニ於テ斯ナル
 足ルヘキ設備アル監獄ノ極メテ稀有ナルニ拘ハラズ 其直接的弊害ノ稍々緩ナルモノアルヲ得ヘシト
 雖モ然カモ其監獄生活ノ下ニ於ケル發育ノ力ハ到底一般未成年者ノ其レニ
 及フヘクモ非ス期間益々長クシテ愈々多ク其發育ヲ阻害セラレ一個完熟ノ
 成年者トシテ監獄ヲ放還セラル、ニ當ツテモ多クハ則チ羸弱ナル身體不完
 全ナル精神状態ニアルノ實況ニシテ少クモ亦其身體及ヒ精神状態ニ於テ遙

カニ普通成年者ニ劣ルモノアルヲ免カレヌサラヌダニ刑餘ノ身ヲ以テ激甚ナル生存競争場裏ニ馳驅スルコトノ困難ナルニ加ヘテ瘦累ノ身無能ノ力ヲ以テ之レニ當ラントス其自營自活ヲ得ル能ハサルハ勿論ニシテ所謂窮乏ニ餘義ナクセラレテ終ニ復タ犯罪ノ止ムヘカラサルニ至ルハ蓋シ自然ノ行途ナリト謂フヘシ(レクラームハ獨逸公私衛生法雜誌第十二卷第七號ニ於テ囚人ノ望郷病)ト題シ未成年犯罪者ニ對スル長期刑ノ弊ヲ痛論スル所アリ

Zeitsch. f. öffentl. u. priv. Hygiene.—Prof. C. Reclam: „das Heimweh d. Zuchthausler“)

然ラハ彼レ幼年犯罪者ニ對シテ長短其宜シキヲ得ル適當ノ程度ニ於テ科刑スル所アラシムニハ能ク是等ノ弊害ナキヲ豫期シ得ヘキカト云フニ假リニ長短適宜ノ科刑ヲナシ得ヘシト想像ナリト斷言セサルヲ得スシテ之ヲ考フルモ是レ亦タ結局長期刑ト短期刑トニ伴フ同一ノ弊害ニ陥ラサルヲ得ス何トナレハ彼ノ放縱浮浪ノ生活ニ馴致シ其結果トシテ終ニ犯罪ニ陥リタル所ノ者二三年ノ期間ニ於テ能ク行刑ノ下ニ矯正感化シ得ラル、ノ理ナク而カモ生來未ダ曾テ見サル清潔ナル被服ヲ着ケ臥具ヲ重ネ潤澤ナル給養ヲ受ケ

快潤ナル居房工場ニ起臥動作シ未ダ曾テ耳ニセサル温言ニ接シ時トシテマタ嚙啞タル音樂ノ響クヲ聽ク觸目スル所皆是レ快感ナラサルハナキノ間ニ僅カニ長キモ一週廿三四時間短キハ六七時間ニ過キサル教育ヲ受ケ労働ハ即チ多クハ唯タ一定ノ時間身體ヲ動作セシムルマテト云フノ外ナク其習熟シ得タル所ヲ以テ自活ノ職業トナスニ足ラサルノミナラス少クモ労働ノ趣味及ヒ勤勉ノ習慣スラ之ヲ得ル能ハス所謂労働又ハ教育ナル所ノモノ彼レニ取リテハ唯タ行刑上ノ一裝飾物タルニ過キスシテ到底以テ彼レヲ放縱浮浪ノ痼疾ヨリ救治スルニ由ナシ而カモ罪惡ノ「パチルス」ハ「結核」パチルスヨリ尙ホ速カナル傳播力ヲ以テ其猖獗ヲ逞フシ之レニ居ルコト久シキニ從テ益々惡感醜化ヲ深クシテ出獄スルニ至ラシムルヲ免カレサレハナリ長キモ害アリ短キモ害アリ長短宜シキヲ得テ尙ホ其弊アルヲ免カレヌ是レ即チ幼年犯罪者ニ對シテ刑罰ノ無効有害ナルヲ證明スル所以ニシテ刑罰固トヨリ其實アルニ非ス恰カモ法律家ニ托スルニ疾病ノ治療ヲ以テスルカ如ク其任務ニ屬セサル所ノ目的物ヲ以テ之レカ處理ヲ委任シタルノ罪ト謂フヘシフエ

リ (Ferri: „Das Strafrecht ist die gesellschaftliche Chirurgie“) 曰ク 刑罰ハ 社會的 外科手術ナリト 其意蓋シ止ムヲ得サル 最終手段トシテ之ヲ用フヘシト云フニ
 アリ 刑罰萬能病ニ對スル無二ノ適藥ト謂フヘク 普通犯罪アル場合ニ對シテ
 スラ尙ホ然リトセハ 况ンヤ幼年犯罪者ニ對スル場合ニ於テチヤ 避ケ得ラル
 ルタケ成ルヘク 長ク之ヲ避ケ 萬止ムヲ得サル場合ニ臨ンテ 始メテ 慎重適實
 ニ而カモ 手隙善ク 最終手段トシテ之ヲ利用スルニ至ラシメザルヘカラス 近
 年ニ於ケル 刑事制度改良論ノ 主眼トスル趣旨モ亦タ此ニアリ 刑罰責任能力
 期限ノ延長ノ 必要ハ 學派ノ 新舊ニ論ナク 一般ニ 學者實務家ノ 確認スル所ニ
 シテ 列國刑事會議及ヒ 監獄會議ノ 如キモ 夙ニ 其必要ヲ 認ムルノ 意思ヲ 發表
 シタルノ ミナラス 立法ノ 方針モ亦着々此ニ 傾キ (佛國 奧國 魯國 瑞西 及ヒ 我帝
 國 刑法改正案ノ 如キ) 既ニ 北米 紐育洲ノ 如キハ 一躍シテ 三十歳ニ至ルマテノ
 期間ニ 犯罪シタル者ニ對シ 情狀ニ依リ 刑罰ニ 換フルニ 感化教育ヲ以テスル
 ノ 規定ヲ 實行スルニ至レリ *undeterminate sentences* ナルモノ 是レナリ (我國ニ
 於テハ 或ハ之ヲ 不定刑期制度ト 譯スル者アルカ爲メニ之ヲ以テ 刑ノ一種ナ

ルカニ 推定スルモノアリト 雖モ之レカ 執行ノ 場所ヲ 監獄ト 稱セスシテ 感化
 院 (Reformatory) ト 命名スルカ 如ク 實質ニ 於テモ亦 刑ノ 一種ト 見做スヘキモ
 ノニ 非スシテ 其實唯タ 幾分カ 特色アル 感化教育ノ 一方法タルニ 過キス (其他
 或ハ 幼年犯罪者ニ對シテ 行刑猶豫 農事殖民等ノ 必要ヲ 唱ヘ 若クハ 既ニ之ヲ
 採用實行シツ、アルモノヲ 見ルカ 如キ 總ヘテ 皆成ルヘク 彼レヲ 刑罰ヨリ 除
 外セシメントスルノ 趣旨ニ 出テタルニ 非サルハ ナシ

○累犯未成年者ノ出監後再犯ニ至ルマテノ期間調査

(卅六年八月廿四日市谷監獄現在)

出 監 後	十六歳以下	十六歳以上 二十歳以下	計
一ヶ月以内	九	五五	六四
三ヶ月以内	八	三二	四〇
六ヶ月以内	三	一一	一四
六ヶ月以後	二	二五	二七

○累犯未成年者前犯刑期查調 (同上)

刑年	未全	月全	月全	月全	刑年
以	一	未六	未三	未一	期
上	滿年	滿個	滿個	滿個	上
十六歲以下	二	四	八	三	計
二十歲以上	一二	一八	三八	二五	
二十歲以下	一四	二二	四六	二八	
			三五		
			三〇		
			五		

現行刑事立法ノ上ニ規定スル所ノ責任年齡ナルモノハ多クハ不完全ナル羅馬法ニ淵源シ且ツ概シテ空漠ナル理論ニ基因シタルモノナルカ故ニ其今日ノ時勢及ヒ實際ノ必要ニ適合シ能ハサルヘキハ論ヲ俟タス凡ソ立法ノ事其刑事タルト民事タルトヲ問ハス一國固有ノ風俗慣習等ヲ參酌シテ成ルヘク之レニ適合セシメンコトヲ努メザルヘカラサルハ勿論ナリト雖モ責任年齡ノ問題ノ如キハ固ト變遷進化セル時勢ノ必要ニ喚起セラレタルモノナルガ故ニ例ヘハ男十六女十四ニシテ婚嫁一家ヲナシ夫外ニ耕シ婦内ニ織シ男系絶フルトキハ士家亡プト云フガ如キ風俗慣習ノ支配セル我國ニアツテ其當時

「十歳迄を幼少といふ類典附火いたし候者十五歳より内は遠島(舊記拾要集)子心にて無辨人を殺候もの十五歳迄親類へ預置遠島子心にて無辨盗いたし候もの大人の仕置より一等軽く可申付(御定書百箇條寛保元年極等ノ慣例ニ拘泥シテ今日ノ刑事立法ニ於テモ亦之ヲ參酌スル所ナカルヘカラスト云フカ如キ者アリトセハ誰レカ其無替ノ甚シキニ驚カサルモノアラシヤ往時ニアツテ未成年犯罪者ニ對シ多少其責任ヲ寛恕シタル所以ノモノハ唯タ弱者ヲ憐レムノ社會的普通ノ觀念ニ基キタル外他意アルニ非ズ今ノ彼レヲ刑罰ヨリ除外セント欲スル所以ノモノハ之レニ依ツテ社會保全ノ目的ヲ達セントスルニアリ一國固有否ヲ舊時代ノ慣習風俗ハ必スシモ之ヲ參酌スルノ必要アラサルナリ我カ現行刑法モ亦此ニ觀ル所アリ我國古來ノ慣例ニ拘泥スルコトナク斷然文明先進國ノ例ニ據リ滿十二歳以下ヲ以テ絶對責任無能力期限トナスニ至リタルコト其明ハ即チ稱スルニ足ルハシト雖モ其果シテ之ヲ設クル所以ノ目的ヲ領解シ又實際ニ於ケル時勢ノ必要ニ就テ深ク研究スル所アリシヤ否ヤハ大ニ疑ヒナキ能ハサル所ニシテ假リニ時勢ノ必要ニ顧

ミル所アリシトスルモ爾來星霜ヲ重ヌル既ニ半世紀ノ半ハニ幾シ時勢ノ進運ニ伴フテ現行刑法全體ノ改正ヲ促セシカ如ク殊ニ責任年齡ノ規定ニ就テハ上來詳述スル所ノ理由ニ依リ一層切ニ之ヲ改正スルノ必要アルヲ信ス。責任年齡延長ノ必要ニ就テハ既ニ定論ノ動カスヘカラサルモノアリト雖モ其程度ニ至ツテハ諸家ノ見ル所同シカラス其最モ短キハ十三歲説(Ferrari: p. 174)ニシテ十四、十五、十六、十八、長キハ則チ二十歲以上マテ延長スヘシトノ説ヲナス者アリ、ロツシー、ストース(Stoes)ノ如キハ十八歲ヲ是認シ英國感化院長會議及ヒ普國教育會ノ如キモ曾テ責任年齡ノ最下限ヲ十八歲トナスヘシトノ決議ヲ發表シ列國刑事會議獨乙部ニ屬スル未成年犯罪者處遇法ノ第一回調査委員會一八九一年アイゼナツハニ於テニ於テハ十六歲ヲ以テ責任年齡ノ最下限トナスヘシトノ決議ヲナシタルニ拘ハラズ第二回委員會ニ於テ更ラニ之ヲ十四歲ニ短縮スルニ至レリ之ヲ規定スルノ旨趣ニ曰ク絕對的責任無能力ノ期限ハ通例兒童ガ家庭ニ係屬シテ普通教育ニ従事スヘキ年齡ヲ標準トスヘシ獨乙ニアツテハ十四歲ヲ以テ義務教育ノ限度トナシ實際ニ於テモ亦

此時期ヲ超過スルニ至レハ徒弟、職工、勞働者等トナツテ家庭ノ係屬ヲ離レ僅少ナカラモ其收得ニ依ツテ兎モ角自營自活ノ一個人格トナル者多キカ故ニ是等ノ者ニ對シテ絕對ニ其責任ヲ免除スルノ必要ヲ認メス云々(Appelius: A.O.S. 43; Burkhardt: A.O.S. 88)義務教育ノ年齡ヲ以テ標準トナシ社會多數ノ幼年者カ家庭ノ係屬ヲ離レテ徒弟、職工、勞働者等トナツテ自營ノ資格ヲ有スルノ實況ヲ斟酌スヘシト云フニ至ツテハ余ノ大ニ異議ナキ能ハサル所ニシテ或ハ獨リ獨乙ノ實情ニハ適スヘキモ是ヲ以テ一般ニ適用スヘキ責任年齡ノ立法理由トハナスヘカラス恐ラクハ獨乙ノ實情ニダニ適合セサル不通論ナリト信ス何トナレハ所謂未成年犯罪者ナルモノ、最多數ハ生レテ家庭ナク其之レアルモノハ腐敗溷濁ノ魔窟ニ過キス早年、既ニ出デ、浮浪乞丐ノ群ニ入り遊惰放逸會テ教養ノ惠ニ浴スルコトアルニ非ス獨乙ノ如キハ教育ノ普及ヲ以テ字内ニ冠タリト稱セラレ義務教育ノ勵行セラル、コトノ最モ密ナリト云フニモ拘ハラズ最近監獄統計(一九〇三年刊行)ノ示ス所ニ依ツテ之ヲ見ルモ懲役囚入監總數五〇二六人ノ内二三三八人即チ幾ンド半數マデハ

全クノ無教育者ナルノ實況ナリ無教養(即チ義務教育ノ惠ニ浴セス偶々之レニ浴スルモ極メテ不規則ナルヲ免カレザルコト及ヒ放逸浮溷即チ家庭ニ係屬セザルコト)ハ滔々タル下層社會ノ實況ニシテ其多數ノ未成年犯罪者ヲ出タスノ直接原因モ亦此ニアリ是ヲ以テ一面ニハ其原因ヲ杜絶シテ社會ノ保全ヲ計リ他面ニハ斯ル狀態ノ下ニ生育シタル未成年者ナルガ故ニ之レガ關係ニ適實ナル責任年齡ヲ設定セサルヘカラスト云フ問題ニ對シ家庭係屬義務教育ノ終結期ヲ以テ經界トナシ其徒弟職工等トナツテ自營スル所ノモノハ通例、一個完熟ノ人格ト見做スベシト云フ其意ヲ推披シテ之ヲ極論スレハ、早、年、家、庭、ヲ、離、レ、テ、自、活、ス、ル、所、ノ、者、ハ、一、個、成、熟、ノ、能、力、者、ト、シ、テ、其、犯、罪、責、任、ヲ、問、フ、ヘ、シ、ト、言、フ、ニ、同、シ社會殊ニ下層社會ノ實況ニシテ或ル一定ノ時期マテハ一面、能ク家庭ニ係屬シテ一面、秩序アル教養ノ惠ニ浴スルモノナリトセハ是ニ由ツテ以テ所謂健全ナル道義的意識ノ完熟ヲ豫期シ得ヘキカ故ニ其生理機關トノ關係ハ姑ラク措キ是ヲ以テ責任能力ヲ定ムルノ經界トナスコト或ハ可ナルヘシト雖モ是ハ中流以上ノ社會ニ對シテ始メテ望ムヘキ所ニ

シテ各國到ル所、多數下層ノ實況ハ則チ全ク之レニ反ス迂濶モ亦甚シト謂ハサルヲ得ス殊ニ其責任能力ノ開始期ヲ定ムルカ爲メニ家庭ヲ離レ義務教育ヲ終ハルノ時ハ則チ同時ニマタ徒弟職工等トナツテ自活ノ門ニ入ルノ時ナリトノ理由ヲ用ヒタルカ如キハ余ノ最モ首肯スル能ハサル所ニシテ余ノ所見ニ依レハ早年(十四歳前後)ニシテ一朝、有力ナル家庭若クハ學校ノ係屬ヲ離レ急ニ徒弟職工等トナツテ獨立自營ノ生活ニ入ルノ瞬間ハ彼レニ取ツテ最も危險ナルノ時機ニシテ犯罪嫩芽ノ多クハ即チ此ニ發生ス是レ彼レカ尙未ダ健全ナル道義的意識ノ完熟セサルカ爲メニ外物ノ誘惑ニ對シテ十分ニ之レニ抗抵スルノ能力ナキヲ證明スル所以ニシテ彼レヲ犯罪ノ前ニ豫防シ又彼レヲ犯罪ノ後ニ保護スルノ必要モ亦最モ此時期ニ多ク且ツ急ナリ社會カ未成年者ヲ驅ツテ之ヲ獨立自活ノ道ニ入ラシムルハ恰カモ獅子ガ其兒ヲ千仞ノ谷ニ蹴落シテ健否ヲ試ムト云フカ如ク吾人必スシモ其慘酷ヲ咎メスト雖モ少クモ彼レヲ徒弟タリ職工タラシムルノ當分ハ彼レヲシテ人生ノ行路ニ入ラシムルノ準備期若クハ試驗期ト認メサルヘカラスト是ヲ以テ直チニ一

個獨立ノ人格ヲ得タルモノトナシ社會カ彼レニ與フル最モ多ク且ツ最モ強キ諸々ノ誘惑ニ打チ克ツ能ハスト云フヲ以テ刑罰ヲ擬シテ盡ク其責任ヲ問フ所アラントハ慘酷不條理ナルノミナラス刑事制度ノ上ニ責任能力期ヲ限定スル所以ノ趣旨ニ戾ルモノナリト謂フヘシ

我カ刑法改正案ハ現行法十二歳ノ制限ヲ延長シテ十四歳トナシ滿八歳以上ノ者ノ行爲罰金以上ノ刑ニ處スヘキ罪ニ該ルトキハ情狀ニ依リ十年以下ノ期間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得(第五十一條)ト規定セリ而シテ其修正ノ理由トシテ説明スル所ヲ聞クニ曰ク近來生理學ノ發達ニ伴ヒ幼者ノ智能ハ此ノ如ク速ニ發育スルモノニ非サルヲ知ルニ至リ從來ノ立法例ニ於ケル責任年齡ノ低キニ失スルヲ非難スル者増加シタルト共ニ幼年犯罪者ヲ懲治スル設備ヲ整ヘ得ルニ至レルヲ以テ(??)本案ハ斷然舊來ノ立法例ヲ破リ責任年齡ヲ高メ之ヲ十四歳ト爲シタリ蓋シ幼年囚ヲ處罰スルモ其利益甚タ少ナク却テ累犯者ノ幼年囚ニ多キコトハ今日識者ノ一般ニ認ムル所タルヲ以テ本條ノ修正ハ之ヲ濟フニ最モ適切ナルモノト謂フヘシ云云(刑法改正案參考書

六四頁)ト余ハ立法者ニ就テ責任年齡ノ延長ヲ斷行セント欲スルニ際シ我カ今日ニ於ケル社會生活ノ實況ニ照ラシ此ニ生長スル未成年者ノ智能ノ容易ニ發育シ能ハサル所以ノ理由ヲ聞クコトヲ得ント豫期セシニ立法者ハ唯々重キヲ生理的機關ノ發育關係ニ置キタルモノ、如ク此問題ノ要點タル社會關係ニ就テ殆ント顧ル所ナキカ如キ感アルハ遺憾ト謂フヘシ若シ立法者ニシテ單純ナル生理關係ノ外尙ホ下層社會ニ於ケル實際的生活及ヒ教養ノ關係ニ就テ研究スル所アラハ思フニ十四歳マテノ延長ハ尙ホ其所謂幼年囚ヲ處罰スルモ其利益甚タ少ク却テ累犯者ノ幼年囚ニ多キノ弊ヲ濟フニ不十分ナルヲ會得スヘシ余ハ上來重テ詳述シタル所ノ理由ニ依リ我カ刑法未成年者ノ責任年齡ヲ十六歳ト規定スルヲ適當ナリト信ス而シテ其之ヲ定ムルノ標準如何ト云フニ固トヨリ余カ一個ノ推定ニ過キスト雖モ既ニ責任年齡ノ延長ヲ必要トスル定論ヲ是認シ且ツ此定論ニ基テ各學者各學會等ノ主張スル意見ガ何レモ理由アリト贊成スル以上ハ畢竟個人々々ニ依リ判定スルノ外他ニ一律的精確ナル標準ヲ得ヘカラサルコトナルカ故ニ延長論ノ範圍ニ

於テ其最短説(十四歳)ト最長説(十八歳)トノ中間ヲ採擇セント欲スルニアリ殊ニ又十六歳ナル年齢ハ現行刑法ノ下ニ既ニ久シク關係的無責任年齢ノ終期トシテ一般ノ法的觀念ヲ馴致スルニ至リタル事情ニ適シ且又余輩行刑當局者ノ多年實驗シ來リタル所ニ依ツテ之ヲ觀ルモ十四歳ト十六歳ノ間ニハ智能的及ヒ生理的關係ノ發育ノ上ニ殆ント何等ノ差等ナク普通良家ノ子弟ニ比シ所謂不良少年ナル所ノ者ハ一般ニ身體及ヒ精神ノ發育ノ遲緩ナル若クハ欠陥アルハ爭フヘカラサルノ事實ニシテ十六歳ノ少年モ實際ニ於テハ殆ント普通十二三歳ノ幼者ト撰フ所ナシ十二歳ノ者ニ對シテ懲治的教養ノ必要ヲ感スルカ如ク十六歳ノ者ニ對シテモ亦雷ニ同一ノ必要ヲ感スルノミナラズ實際ノ經驗ニ徴シテ之ヲ見ルモ行刑ニ比シテ遙カニ其効果ノ著ルシキモノアルヲ見ル是レ吾人カ現ニ今日川越ニ於ケル懲治監其他各地方ノ監獄懲治場ニ於テ經驗シツ、アル所ノ事實ニシテ若シ他日完全ナル感化院等ノ設備ヲ見ルニ至ラハ一層明カニ吾人カ經驗ノ空シカラサルコトヲ證明スルヲ得ヘシ我カ司法當局者ノ如キモ亦此ニ觀ル所アリ十六歳以下ノ幼年者ニ

對シ刑ノ有害ニシテ懲治ノ有効ナルヲ認メタル結果トシテ現行刑法規定ノ所謂關係的責任年齢即チ十二歳乃至十六歳ノ範圍ニ於テ犯罪シタル者ニ對シテハ成ルヘク懲治處分ノ方針ヲ取リツ、アルコト實ニ近來ニ於ケル一般ノ傾向ニシテ十六歳ヲ以テ責任年齢ノ法定期限トナスヘキコトハ實際ノ事實ニ適合セルモノトシテ既ニ我カ法的慣例ヲ成スニ至リタリト謂フモ可ナリ加之ナラス三十三年法律第三十七號ヲ以テ發布シタル我カ感化法ニ於テ遊蕩又ハ乞丐ヲ爲シ若クハ惡交アリト認メタル所謂不良少年ヲハ其滿十六歳ヲ限度トシテ第五條第一項感化教育ニ付スルヲ得ルノ規定ヲ設ケタル所ニ依ツテ之ヲ見ルモ自ラ我國一般法的觀念ノ存スル所ヲ推知スルニ足ルヘシ人或ハ不良少年ト犯罪少年トハ其性質ヲ同フセスト言フモノアルヘシト雖モ不良ト犯罪ト其間幾何ノ差異アルニ非ス否ナ殆ント何等ノ區別アルニ非ス、拘摸、竊盜ハ未成年犯罪者ニ固有スル幾ント唯一ノ犯罪ト謂フヘク而シテ此行爲ハ必ラス感化法ノ所謂遊蕩又ハ乞丐ヲナシ若クハ惡交アリト認ムル不良行爲ニ伴隨ス換言スレハ不良行爲ノ内、必ラス犯罪行爲アリ犯罪行爲

ハ、不、良、行、爲、タ、ル、ハ、言、フ、ヲ、俟、タ、ス、即、チ、唯、タ、其、名、ヲ、異、ニ、ス、ル、ノ、ミ、ニ、シ、テ、其、實、同、
 一、體、ナ、リ、ト、謂、フ、モ、可、ナ、リ、立、法、者、既、ニ、一、方、ニ、不、良、行、爲、ア、ル、十、六、歳、ニ、至、ル、マ、テ、
 ノ、少、年、ニ、對、シ、テ、感、化、教、育、ヲ、開、始、ス、ル、ノ、必、要、ヲ、認、メ、タ、ル、ニ、モ、拘、ハ、ラ、ス、他、方、ニ、
 於、テ、ハ、懲、治、教、育、ノ、開、始、ヲ、十、四、歳、マ、デ、ニ、限、定、ス、ベ、シ、ト、ナ、ス、矛、盾、ト、謂、ハ、サ、ル、ヲ、
 得、サ、ル、ノ、ミ、ナ、ラ、ス、抑、モ、亦、タ、立、法、者、カ、現、行、法、責、任、年、齡、ノ、標、準、ハ、低、キ、ニ、失、シ、却、
 テ、罪、惡、ヲ、助、長、シ、累、犯、ヲ、増、加、ス、ル、ノ、弊、ア、ル、ニ、依、リ、之、ヲ、濟、フ、ニ、最、モ、適、切、ナ、ル、モ、
 ノ、ト、認、メ、テ、斷、然、舊、來、ノ、立、法、例、ヲ、破、リ、タ、リ、ト、ノ、趣、旨、ニ、戾、ル、モ、ノ、ト、謂、フ、ベ、シ、何、
 ト、ナ、レ、ハ、現、行、刑、法、ノ、下、ニ、於、ケ、ル、今、日、ニ、ア、ツ、テ、既、ニ、關、係、的、責、任、年、齡、ノ、規、定、ヲ、
 利、用、シ、テ、十、六、歳、マ、テ、ヲ、實、際、ノ、責、任、年、齡、ト、ナ、ス、ノ、法、的、慣、例、ヲ、作、リ、若、ハ、少、ク、モ、
 實、際、ノ、必、要、ニ、追、ラ、レ、テ、此、慣、例、ヲ、作、リ、ツ、ア、ル、ニ、モ、拘、ハ、ラ、ス、刑、法、改、正、案、ハ、一、
 方、ニ、關、係、的、年、齡、ノ、規、定、ヲ、全、廢、ス、ル、ニ、至、リ、タ、ル、ヲ、以、テ、實、際、ニ、於、テ、責、任、年、齡、ノ、
 範、圍、ハ、改、正、ニ、依、リ、二、年、ノ、短、縮、ヲ、見、ル、コ、ト、ナ、リ、改、正、理、由、書、ニ、所、謂、利、益、甚、ダ、
 少、ナ、ク、却、テ、累、犯、増、加、ノ、因、ト、ナ、ル、幼、年、者、處、罰、ノ、場、合、ヲ、一、層、頻、繁、ナ、ラ、シ、ム、ル、ニ、
 至、ル、ヲ、免、カ、レ、サ、レ、ハ、ナ、リ、余、輩、尚、ホ、一、言、刑、事、立、法、者、ノ、注、意、ヲ、促、ス、所、ア、ラ、ン、ト

欲、ス、ル、ハ、他、ニ、非、ス、假、リ、ニ、不、良、行、爲、ト、犯、罪、行、爲、ト、ハ、其、間、ニ、割、然、タ、ル、區、別、ア、リ、
 ト、ナ、シ、不、良、行、爲、ニ、對、ス、ル、十、六、歳、ノ、責、任、年、齡、ト、相、並、ン、テ、刑、法、十、四、歳、ヲ、以、テ、犯、
 罪、責、任、年、齡、ト、ナ、ス、ノ、規、定、ヲ、設、ク、ル、モ、不、可、ナ、シ、ト、ス、ル、モ、實、益、上、成、ル、ヘ、ク、幼、年、
 者、ヲ、處、罰、ヨ、リ、遠、フ、サ、カ、ラ、シ、メ、ン、ト、ス、ル、ハ、刑、事、政、策、上、ノ、大、勢、ニ、シ、テ、刑、事、當、局、
 者、ノ、如、キ、モ、亦、有、害、ナ、ル、處、罰、ヲ、避、ク、實、益、ア、ル、感、化、教、育、ニ、就、カ、ン、コ、ト、ヲ、努、ム、ル、
 ノ、傾、向、ア、ル、ニ、依、リ、我、カ、感、化、法、及、ヒ、改、正、刑、法、案、ノ、實、施、ヲ、見、ル、ノ、曉、ニ、ハ、必、ラ、ス、
 法、ヲ、曲、解、ス、ル、ノ、弊、ヲ、生、シ、管、タ、ニ、一、般、ノ、法、想、ヲ、攪、亂、ス、ル、ノ、ミ、ナ、ラ、ス、終、ニ、又、法、
 ノ、威、信、ヲ、毀、損、ス、ル、ニ、至、ル、ノ、結、果、ア、ル、ヲ、免、カ、レ、ス、般、鑑、遠、フ、カ、ラ、ス、近、ク、其、實、例、
 ヲ、英、國、ノ、弊、ニ、見、ル、ヘ、シ、

感、化、院、ハ、十、六、歳、未、滿、テ、稍、々、固、陋、ナ、ル、幼、年、者、即、チ、刑、法、ニ、定、メ、タ、ル、或、ル、罪、ヲ、
 現、實、ニ、犯、シ、懲、役、若、ク、ハ、禁、錮、ニ、處、セ、ラ、レ、タ、モ、ノ、ヲ、收、容、ス、ル、所、テ、ア、ル、工、藝、院、
 ハ、ソ、レ、ト、違、ツ、テ、年、齡、カ、ラ、云、フ、ト、十、四、歳、未、滿、テ、極、ク、微、小、ナ、ル、犯、罪、ヲ、犯、シ、タ、
 ル、モ、若、ク、ハ、不、良、ナ、ル、行、爲、ノ、ア、ル、モ、ノ、テ、ア、ツ、テ、ソ、レ、テ、其、儘、ニ、抛、テ、置、ク、ト、
 益、々、不、良、ニ、陷、ル、テ、ア、ロ、ウ、ト、云、フ、懸、念、ノ、ア、ル、者、ヲ、收、容、ス、ル、場、所、ニ、ナ、ツ、テ、居、

ル故ニ此感化院ト工藝院トヲ對照シテ見ルト感化院ノ方ハ犯罪的施設テ
アリ工藝院ハ非犯罪的施設デアル中略所テ實際ノ扱ヒハドウ云フ風ニナ
ルカト云フト總テ裁判官ナリ警察官ナリノ實際ノ扱ヒハドウシテモ法律
ヲ寬ニ執行スル傾キカアルソレ故ニ一ハ法律ヲ事實上嚴重ニ執行シナイ
結果カラ二ツノ間ニ事實上ノ區別ガ無クナツテ來ルト云フコトニナル、一
ノ例ヲ申セハ茲ニ一人ノキヨロシテ空腹ソノ泥坊デモシサウナ顔
付キノ小供カ居ルソレヲ捕ヘテ來タトスレハ事實上ニ於テ竊盜ヲシタモ
ノニ相異ナイカ裁判官ハドウ云フ論法ヲ以テ法律ヲ適用スルカト言フト
是レカ若シ泥坊ヲシタトスレハ必スヤ今マテ泥坊ト交際ヲ結ンタコトカ
アラウト云フ推定ヲ下シマスカラ其推定上、泥坊ヲ廉トシテ感化學校ノ方
ヘ送ルコトヲセシテ寧ロ竊盜ト交際ヲ結ンタト云フコトヲ廉トシテ他
ノ學校、工藝院ニ收用ヲ命ズル、ダカラ法律上、感化院ニ入ルヘキモノカ裁
判官ナリ警察署長ノ申渡ニ依ツテ事實、工藝院ニ這入ツテシマフコトニナ
ル中略是レハ寧ロ一ノ扱ヒニ歸シタ方カ宜イテハナイカト云フ議論カ先

年來盛ンニ起ツテ居ルカ今日マテハ未タ一定ノ議論ニ至ラス唯從來ノ扱
ヒヲ其儘蹈襲ツテ居リマスカ兎ニ角内務省ニ於テモ早晚此名稱ヲ法律ノ
上カラ一ト纏メニスルカ又ハ其反對テ更ニ四種ノ種別ヲ確定明定スルカ
何トカ取極カラウト思ツテ居リマス云々(久米文學士講演「英國感化事業」
本年七月及ヒ八月刊行監獄協會雜誌第十六卷七、八號)
均シク感化教育ノ範圍ニ於ケル感化院ト工藝院トノ關係ニシテ尙ホ此クノ
如クナリトセハ況ンヤ監獄ト感化院トノ關係ニ於テヤ刑事當局者カ特ニ
幼年者ニ對シテ寬大ノ方針ヲ取ルヘシトハ想像スル能ハサレモ實際ノ實益
ニ顧ミテ處刑ヲ避ケ教育ヲ利用セント努ムルニ至ルヘキハ當然ニシテ感化
法ト改正刑法案ト駢行ノ結果、十四歳乃至十六歳ノ幼年犯罪者ニ對シ其犯罪
行為ヲ間ハスシテ犯罪アルカ故ニ放逸、浮浪、惡交等ノ不良行為アルヲ推定シ
是ニ由ツテ以テ實際ノ上ニ有害ナル處罰ヲ避クルノ遁路トナスニ至ラシム
ルヲ疑ハス立法者宜シク深ク此ニ慮ル所アリ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メテ實
任年齢ノ期限ヲ滿十六歳マテニ延長スヘシ強テ十四歳説ヲ固持セント欲ス

ルトキハ上來陳述スル所アルカ如ク獨リ其延長ノ趣旨ニ矛盾スルノ譏ヲ免カレサルノミナラス實際ノ上ニ現行刑法ノ責任年齡ヲ一層甚シク短縮シテ反テ益々有害ナル幼者處罰ノ場合ヲ頻繁ナラシムルノ結果アルヲ免レスト知ルヘシ

懲治處分ヲ言渡シ得ヘキ者ノ年齡最下限ヲ以テ滿八歳トナスコトニ就テハ改正案モ現行刑法ニ異ルナク感化法モ亦之レト同一ノ規定ヲ掲ゲリ然ルニ實際ニ於テ滿八歳以下ノ幼者ニシテ其犯罪若クハ不良行為ノ程度ニ依リ公共ノ安寧及ヒ當該者將來ノ利益上之ヲ懲治處分ニ付スルノ必要ヲ見ル場合少カラス是ヲ以テ近年學者ノ定説トシテハ既ニ一般ニ最下限廢止ノ必要ヲ認ムルニ至リタルノミナラス立法ノ實例モ亦着々此定説ヲ採用スルノ方針ニ傾キタルモノ、如シ(巴丁一八八六年發布ノ法律、諾威一八九六年發布ノ感化法、普國一九〇〇年發布ノ感化法、ストリス立案一八九六年ノ瑞西刑法改正案等最下限廢止ノ希望ハ或ハ感化法ニ向ツテ之ヲ求ムルノ適當ナルカヲ認メサルニ非サレハ懲治ト云ヒ感化ト云ヒ等シク同一性質ノモノナルカ故ニ

八歳以下ノ者ニシテ犯罪行為アル場合ニ於テ之ヲ懲治處分ニ付シ得ルノ規定ハ寧ロ刑事立法ノ主管トシテ之ヲ刑法ノ内ニ包括スルコトヲ要ス即チ刑法ノ條文中十六歳ニ滿タサル者ノ行為ハ之ヲ罰セズノ下、但滿八歳以上ノ者ノ行為ノ數字ヲ削除スルヲ以テ足レリトス

刑法改正案、懲治處分ノ期間ヲハ漠然唯々十年以下ト規定シタルコトニ就テハ惜ムラク其理由ヲ説明スル所ナキカ故ニ或ハ改正ノ突飛ナルヲ怪ム者ナキニ非サルヘシト雖モ余輩竊カニ立案者ノ深意ノ存スル所ヲ察シ少クモ刑事立法ニ於ケル出色ノ進歩トシテ之ヲ稱賛スルニ躊躇セス然レモ之ヲ普通ノ懲治即チ感化教育ニ適用セント欲スルニ至ツテハ或ハ其場合ヲ誤マリタルモノニハ非サルカノ疑ナキ能ハス凡ソ普通ノ懲治教育ナル所ノ者丁年即チ二十歳若クハ二十一歳ヲ以テ終結ノ時期トナスハ各國立法ノ通則ニシテ此點ニ就テハ特ニ近年ニ至リ何等方針ノ上ニ變更アリタリト云フコトヲ認メサルノミナラス實際ノ經驗ニ由ツテ之ヲ見ルモ丁年以上ノ者ニ對シテハ殆ント一モ普通懲治教育ヲ施スノ必要ナク從テ其効果ヲ見ルニ難ク偶々以

テ、管理上ノ統一ヲ紊リ秩序ヲ害シ少數ノ爲メニ多數ノ利益ヲ犠牲ニ供セシムルノ弊アルヲ免カレズ丁年以下ノ者ナランニハ其年齡ニ依リ多少便否難易ノ差異アルヘキモ如何様ニモシテ懲治教育ノ下ニ之ヲ改竄感化スルノ望ミアルヘシト雖モ丁年以上ノ者ハ到底マダ普通懲治教育ノ主體トナルヘキ性質ノ者ニ非サルコトハ常識ヲ以テ見ルモ容易ニ之ヲ判斷スルコトヲ得ヘシ立案者ノ意蓋シ或ハ丁年即チ現行刑法二十歳ニ滿タサル期間ノ制限ハ短キニ失ス例ヘハ草案規定ノ責任年齡即チ十四歳ニ滿タサル二三月ニシテ犯罪而カモ殺人放火ト云フカ如キ危険ノ重罪ヲ犯シタル者アリトセンニ之レニ對シ最長ノ懲治處分ヲ課セントスルモ二十歳ヲ制限トスルノ結果剩マス所僅カニ六年ニ過キス六年ノ期間ハ短少ニ過キテ以テ危険ナル犯罪人格ヨリ社會ヲ保全スルノ旨趣ヲ全フスル能ハスト云フニアラン責任年齡ナルモノヲ設ケテ其無能力者ヲ懲治教育ニ付スルノ趣旨ニ違フヲ免カレスト雖モ余輩必スシモ立案者ノ動機ヲ否認セント欲スル者ニ非ス然カモ善良ナル動機モ其結果ニ至ツテハ則チ丁年者ニ對シテ滑稽無意義ノ懲治教育ヲ繼續ス

ルノ奇觀ニ陥ラザルヲ得スブルイサー (Brusa: Ferriani's, Minderjahrige Verbrechen, S. 411) 曰ク成熟期ニ至ルマテノ未成年犯罪者ヲ懲治教育ニ付スルノ必要アルハ勿論ナリト雖モ如何ナル場合ニ論ナク丁年ニ達スル時ヲ以テ懲治教育ノ終了期トナサハルヘカラストストニスハ懲治教育ノ期間ハ一年乃至六年ニテ足レリトシ列國刑事會議ノ如キモ亦丁年ヲ以テ懲治教育終了ノ時期トナスノ適當ナルヲ議決セリ是ヲ以テ之ヲ見ルモ普通懲治教育ノ適用ニ就テハ從前ノ如ク今後モ亦滿二十歳時即チ民法上ニ於テモ此ヲ以テ終了期トナスヲ適當ナリト信ス

現行刑法其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シノ規定ハ佛國刑典 *discernement* ニ淵源シタルモノニシテ各國現行刑法ノ上ニモ尙ホ其存留ヲ見ル所ナリト雖モ若シ文字ノ如クニ之ヲ解スルトキハ犯罪行爲ノ是ナルカ非ナルカラ辨別スルノ能力ト云フニ過キスシテ若シ此解釋ヨリ推テ之ヲ見レハ白痴瘋癲其他ノ精神障礙アル者ニアラサル限りハ幼年者ト雖モ多數ノ者ハ則チ之ヲ不論罪ニ處スルコト能ハサルノ結果ヲ見ルニ至ラサルヲ得ス何トナ

レハ盜ミスルコトノ非事ニシテ之レヲ犯ス者ハ處刑セラレ入監セシメラル
 、コトハ普通既ニ五六歳ノ兒童ニシテ能ク之レヲ辨別スルノ意識アルヘク
 此點ニ就テハ成年者ト未成年者ノ間ニ殆ント何等ノ差異モアラサルヘキヲ
 以テナリ立法ノ精神モ亦蓋シ此ニ存セサルヘキコト勿論ナリト雖モ文能ク
 其意ヲ表示スル能ハサルノ事情ハ獨リ敢テ我國ニ於テノミ然リト云フニ非
 ス之ヲ法文ニ表示センコト固ト困難ノコトニ屬シ且ツ實際ニ毫モ其必要ヲ
 見サルコトナルカ故ニ寧ロ之ヲ法文ニ表示セシテ其精神ノ活用ヲ個々ノ
 場合ニ對スル執法者ノ機宜ニ托スルノ得策ナルヲ認メ是非辨別云云ノ規定
 ハ斷然之ヲ法文ヨリ刪除スヘシトノ議論ヲ生シ終ニ一般ノ是認スル所トナ
 ツテ着々立法ノ上ニ之ヲ採用スルノ傾向ヲ見ルニ至レリ我カ刑法改正案モ
 亦斷然之ヲ法文ヨリ刪除スルニ至リタルコト蓋シ一般立法ノ方針ニ願ミル
 所アリタルニ依ルヘシト信セシニ其改正ノ理由トシテ説明スル所ニ依レハ
 唯タ無造作ニ之ヲ事實ニ徵スルニ是非ヲ辨別シタルト否トノ區別ヲナスハ
 頗ル困難ニシテ實際ニ於テハ殆ント總テノ幼者ヲ處罰スルノ有様ニシテ其

弊ニ堪ヘサルモノアリト言フニ過キス而カモ是非辨別ノ法文ヲ刪除シタル
 ト同時ニ併セテ又關係的責任年齡ノ全部ヲ抹却シ去ルニ至ツテハ余輩ノ大
 ニ異議ナキ能ハサル所ニシテ是ニ於テカ余輩ハ立案者カ果シテ能ク立法ノ
 方針タル是非辨別ノ法文ヲ刪除スルノ真趣旨ヲ了解シタルモノナルヤ否ヤ
 ヲ疑ハサルヲ得ス關係的責任年齡ハ必スシモ法文ノ所謂是非辨別ノ有無ニ
 關係スヘキモノニ非ス辨別有無ノ法文ハ無キモ所謂健全ナル道義的意識ノ
 有無ニ依テ責任ヲ決定スヘシトノ精神ハ則チ存ス否ナ責任年齡ノ規定ノ旨
 趣ヲ貫徹セントナラハ益々大ニ此精神ヲ存セサルヘカラサルノ必要アルヲ
 見ル蓋シ個人關係、教養關係、社會關係其他種々ノ關係ニ依リ個々相同シカラ
 サルヘキ人格ニ對シ一律以テ其責任ヲ限定スルハ固トヨリ便宜的概括行爲
 タルニ過キスシテ假リニ必要上之ヲ十四歳若クハ十六歳ト限定スルモ縱令
 ヒ割合ニ少數ナリトハ言ヘ尙ホ實際ニ於テ一定(即チ絶對的)ノ年齢ヲ超過シ
 タル者ニシテ其實身體及ヒ精神ノ發育上責任年齡以內ノ者ニ劣ル所ノ者少
 カラス既ニ一面ニ發育ノ不完全ヲ理由トシテ犯罪ノ責任ヲ免除シタルニモ

拘ハラズ他面ニハ同シク發育ノ不成熟ヲ認メツ、唯タ一定ノ年齢ヲ超過セリトノ理由ニ依リ強テ之レカ犯罪ノ責任……而カモ無効ナル……ヲ問ハント欲スルカ如キハ獨リ沒意義ノ譏ヲ免カレサルノミナラズ亦責任年齢設定ノ旨趣ニ戻ルモノナリト謂ハサルヲ得サレハナリ其是非辨別ノ法文ヲ刪除スヘシト云フハ畢竟スルニ法文ヲ以テ精確ニ立法者ノ意思ヲ表示スルノ困難ニシテ且ツ實際ニ其必要ナキカ故ニ寧ロ法文ニ之ヲ掲ケスシテ執法者ノ認定權ニ讓ルヲ可トスト言フニ過キス其有無ハ毫モ立法ノ精神ニ消長スル所アラサルコト知ルヘキナリ關係的責任年齢ノ規定ヲ全廢スヘシトノ意見ハ或ハ一個ノ私説トシテ之ヲ唱フル者モアルヘシト雖モ余輩未タ此説ノ何等「テリソリチ」タル注意ヲ惹クニ至リタルヲ耳ニセサルノミナラズ列國刑事會議獨乙部ニ於ケル責任年齢ノ調査決議ニ就テ之ヲ見ルモ將タ瑞西刑法草案ニ依ツテ之ヲ徵スルモ殊ニ瑞西草案ノ如キハ從來慣用シ來レル法文ニ代フルニ「道義的 (Sittliche) 及ヒ精神的 (Geistige) 成熟 (Reife)」ヲ審查シ云々ノ法文ヲ用ヒ何レモ關係的責任年齢ノ規定ヲ襲用セリ(瑞西刑法草案第十章第一條

第二條第三條列國刑事會議獨乙部伯林會議未成年犯罪者ノ報告第三項參照

上來陳述スル所ノ理由ニ依リ我國ニ於テモ亦將來關係的責任年齢ノ規定ヲ維持スルノ必要アルハ明ラカニシテ政正案カ全然之ヲ刪除スルニ至リタル旨斷ヲ非難セサルヲ得ス余ノ見ル所ニ依レハ關係的責任年齢ノ期間ヲ以テ宜シク十六歳乃至廿歳トナシ此期間ニ於ケル未成年者ニシテ若シ其犯罪行為カ道義的意識ノ不成熟ニ出テ且ツ其人格關係ニ依リ之ヲ處刑スルノ不利益ナルヲ認タル場合ニ於テハ懲治處分ニ付シ然ラサル者ハ即チ直チニ之ヲ處刑ス而シテ之ヲ區別スルハ個々ノ場合ニ於ケル裁判當局者ノ認定權ニ一任スルヲ要ス關係的責任年齢ノ最上限ヲ二十歳トナスハ管ニ延長ニ失スルノミナラス實際ニ於テ亦例ヘハ二十歳ニ滿サル二三ヶ月乃至六ヶ月前後ノ間ニアル者ニ對シ懲治處分ノ有効ヲ期スル能ハサルヘキ場合ヲ豫想シテ其不適當ナルヲ非難スル者アルヘシト雖モ抑モ二十歳ナル年齢ハ我カ民事關係ノ上ニ於テモ是ヲ以テ始メテ成年ニ達スルノ時期ト認ムル所ニシテ其之ヲ認ムル所以ノモノ蓋シ精神及ヒ身體ノ完熟シタル一個獨立ノ人トシテ社

會的生活ノ一員タルニ適スル能力ヲ備フルニ至ルヘシト推定シタルカ爲メニ外ナラス刑事上ノ責任ハ必スシモ民事上ノ責任ト其ノ標準ヲ同フスル能ハサルノ事情アルコト勿論ナリト雖モ既ニ復讐的刑罰觀念ノ羈絆ヲ脱シ專ラ刑事政策ノ必要ヨリ人生意識ノ發育狀態ノ事實ニ基テ責任年齡ナルモノヲ設定セントスル以上ハ自ラマタ民法上ノ關係ヲモ省察スル所ナカルヘカラサルコト明ラカニシテ民法、既ニ人ハ二十歳ニ至ラサレハ社會的生活ニ獨立スルヲ得ヘキ意識ノ完熟ヲ見ルニ至ラズト推定スル以上ハ刑事上ニ於テモ亦少クモ二十歳ニ滿タサル者ノ内ニハ犯罪ノ責任ヲダニ之ヲ問フ能ハサル程ニ意識ノ不完熟ナル者少カラサルヘキヲ推定スルヲ得ベキノミナラズ事實マタ彼レ多數ノ犯罪者ヲ出タス所ノ下層社會ノ生育關係ニ就テ之ヲ見ルモ人ニ依リテハ二十歳尙ホ普通十四五歳ノ兒童ノ發育狀態ニ劣ル者アルヲ見ルコト少カラス立法者カ漫然、唯タ抽象的推定ニ基キ十二乃至十六歳ノ絶對的責任年齡ヲ設クテ其心ニ安ニスル能ハサル所アルハ則チ之レカ爲メナリクローネ曰ク未成年犯罪者ニ對シ其處刑ニ換フルニ懲治教育ヲ以テス

ルヲ得ルノ範圍ハ成ルヘク之ヲ廣濶ナラシムルコトヲ要ス範圍廣キニ從ツテ益々能ク未成年者ヲ犯罪ヨリ防キ一般犯罪増加ノ原因ヲ絶チ且ツ又社會保全ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ而シテ關係的責任年齡ノ期間ハ二十歳若クハ二十一歳マテ之ヲ延長スルヲ適當ナリト認ム蓋シ未成年者ヲシテ成ルヘク兵役ニ就ク所ノ國民義務ヲ全フスルノ機會ヲ與ヘ且ツ嚴正ナル軍隊規律ノ下ニ彼レ浮浪放逸ノ習慣ヲ矯治セシムルノ有効ナルヲ認ムレハナリ云々 Kröhne: „Lehrbuch d. Gefängniskunde“ 1889, S. 276 ト(クローネハ一九九一年ハルニ於ケル列國刑事會議ニ於テ更ラニ痛切ナル筆法ヲ用ヒテ其持説ヲ主張セリ曰ク „Bis zum zwanzigsten Lebensjahre bin ich mit besonderer Absicht hinaufgegangen, um zu hindern, dass ein Jugendlicher zu einer Strafe verurtheilt werde, die vor dem Eintritt in das Heer ausschliesst, sodass diese Zucht ihm verschlossen bleibe. Lassen wir dem Jugendlichen die Möglichkeit, des Koenigs Rock zu tragen“ ト二十歳ノ延長必スシモ長キニ失スト謂フヘカラス而シテ其極端ノ場合即チ二十歳ニ滿タサル半年内外ニシテ犯罪シタル者ノ處分如何ト云フ問題ノ如キハ抑モ稀

有ノ場合ヲ豫想シタルモノニ過キスシテ是等ノ取捨ハ宜シク活キタル裁判官ノ權能ニ一任スルノ外ナク假リニ三四ヶ月ノ後ニ丁年ニ達スヘキ者アリトスルモ其人格ノ關係上懲治處分ノ適當ナルヲ認メ殊ニ數月ノ後ニハ兵役ニ就クヘキ者タルコトヲ豫期シ得ラルヘキ場合ニ於テハ之ヲ懲治處分ニ付スルコト決シテ妨ケアラサルナリ既ニ關係的責任年齡ヲ設定シタル以上ハ其取捨ハ一ニ之ヲ裁判官ノ權能ニ信任セサルヘカラス徒ラニ濫用ヲ恐ルカ如キハ之ヲ設定シタルノ旨趣ニ戻ルモノト謂フヘシ關係的責任年齡ノ最高限ヲ廿歳トナスヘシノ說ハ既ニ列國刑事會議等ノ是認シタル所ニシテ(一八九一年ハルレ會議學者實務家ノ之ヲ主張スル者少カラス我カ立法者モ亦流石ニ關係的責任年齡ヲ設定スル精神ノ全部ヲ抹却スルノ勇ニ乏シク僅カニ無効ナル所刑輕減ノ條件ノ上ニ成立スル關係責任ノ形骸ヲ存シ(刑法改正案第五十二條之レヲ存スルノ理由トシテ然レトモ尙ホ未タ幼者タルヲ免カレサルヲ以テ情狀ニ依リ裁判所ヲシテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得セシムルコト、爲シタリ(參考書六五頁)ト説明セリ是ニ由ツテ之ヲ見ルモ立法者カ滿二

十歳ニ至ルマテノ者ニ對シテ尙ホ未タ幼者タルヲ免カレスト認シタルコト明ラカニシテ既ニ幼者タルノ故ヲ以テ一面ニ責任年齡ノ規定ヲ設ケタルニ拘ハラス他面ニハ少クモ(例ヘハ關係年齡ヲ十八歳マテトナスカ如キ)此規定ヲ設クルノ旨趣ヲ補充スルニ足ル方法ヲダニ之ヲ講スルコトナシト云フハ不用意モ亦甚シカラズヤ但余輩ハ我カ立法者カ滿二十歳ニ至ルマテ所刑輕減ノ時期ト定メ且ツ此時期ニアル者ハ尙ホ幼者タルヲ免カレスト説明スル所ニ依ツテ少クモ余輩ガ世間二十歳以下ノ未成年者ノ内ニハ完全ナル犯罪能力ノ責任ヲ問フコト能ハサル低度ノ發育狀態ニアル者少カラサルニキヲ理由トシテ關係年齡ノ極度ヲ二十歳トナスベシトノ趣旨ニ異議ナカルヘキコトヲ推知シ心竊カニ安ソスル所アルヲ得タルハ幸ト謂フヘシ

第六章 刑罰ト未成年犯罪者ノ關係

關係的責任年齡期ニアル所ノ者ニ對シ絕對ニ其所刑ノ減輕ヲ命スルヲ可トスヘキカ(即チ我カ現行刑法ノ如ク)ノ問題ニ就テハ是レ亦一時學者ノ盛ンニ

研究スル所ナリシカ今日ニ於テハ略ホ既ニ苟クモ責任能力ノ完熟ヲ認メテ之レニ刑罰ヲ課スル以上ハ唯タ未成年者ナリトノ故ヲ以テ之ヲ輕減スルノ理由トナスニ足ラス殊ニ之ヲ輕減スルノ結果、未成年者ニ對シテ最モ有害ナル短期ノ自由刑ヲ濫用スルノ弊ニ陥ルヲ免カレサルヲ以テ寧ロ成年者ニ對スル場合ト同シク有効適實ナル刑罰ヲ科スルニ如カズトノ議論ニ傾キツ、アルモノ、如シ余ノ見ル所ヲ以テ之ヲ言ヘハ既ニ責任能力ノ完熟ヲ認メテ之レニ刑罰ヲ科スルニ於テハ唯タ未成年者ナルカ爲メニ絶對ニ之ヲ輕減セサルヘカラスト云フノ不理論ナリト雖モ然カモ未成年者ハ一般ニ其犯罪及ヒ犯罪人格ノ關係上、他ノ成年者ニ比較シテ減輕ノ必要場合ノ多カラシコトヲ豫想シ得ラルヘキヲ以テ立法上ノ注意トシテ我カ草案第五十二條ノ如キ規定ヲ設クルハ必スシモ不可ナラス之レアルモ輕減スヘカラサル場合ニ輕減スルカ如キコトアラサルヘク之レナキモ亦輕減スヘキ場合ニハ相當ノ範圍ニ於テ之レカ輕減ヲナスヲ妨ケス且ツ未成年者ニ對スル短期刑ノ適用ヲ以テ一般ニ有害ト認メマタ實驗上、其有害ナルハ爭フヘカラサル

ノ事實ナリト雖モ然カモ單純ナル理論ノ上ヨリ之ヲ見レハ短期刑其物トシテハ：數日若クハ數週間ニ過キサルモノハ姑ク擱キ：大體ノ上ヨリ敢テ主觀的ニ始メヨリ無効ノモノナリト謂フニ非ス之ヲ無効ナラシムルハ多ク客觀的ニ執行ノ方法、其宜シキヲ得サルカ爲メナリ例ヘハ若シ嚴正ナル分房制度ヲ以テ適實ニ之ヲ執行スルヲ得ハ一ヶ月ノ處刑モ既ニ以テ其効果ヲ全フスルヲ得ヘシ(ストース)ノ如キハ常ニ未成年者ニ對スル短期刑濫用ノ弊ヲ痛論スル者ナルニ拘ハラス尙ホ其起草ニ係ル瑞西改正案ニハ嚴正分房ノ條件ノ下ニ三日乃至三個月ノ刑ヲ以テ十四歳乃至十八歳ノ者ヲ處罰スヘシト規定セリ)唯タ我カ今日ノ實際ノ上ニ於テ驟カニ執行ノ完備ヲ望ムヘカラサルノ事情アルカ故ニ苟クモ未成年者ニ對シテ處罰ノ必要ヲ認メタル以上ハ之ヲシテ實際ニ有効適實ナラシムルニ足ルノ程度ニ於テ處罰スル所アルヘシト謂フニ過キス若シ執行機關ノ實況ニ顧ミテ有効適實ナリト認メタル場合ニ於テハ短期ヲ以テ處罰スルモ固トヨリ毫モ妨クル所ニ非サルナリ

未成年者ニ對スル短期刑濫用ノ弊ヲ痛論スル者ハ則チ之レアリト雖モ其長

期刑執行ノ結果如何ト云フニ至ツテハ之ヲ論スル者甚タ少キカ如シ蓋シ未
成年者ニ對スル處遇ノ一般ニ寛大ニ失スルカ爲メニ事實ニ於テ今日マデハ
長期刑濫用ノ弊ヲ見ルコトノ割合ニ少カリシニ依ルヘシト雖モ若シ將來未
成年者モ成年者ト其處罰ノ程度ヲ同フスヘシトノ原則ヲ定ムルニ於テハ從
テマタ長期刑濫用ノ弊ニ陥ルコトナキヲ得サルヘキヲ以テ立法上豫メマタ
此ニ備フルノ注意アルヲ要ス未成年者ニ對スル長期自由刑ノ弊ニ就テハ前
段既ニ開陳スル所アルカ如ク行刑ノ爲メニ却テ社會的生活ニ適セサル無能
力者ヲ産出シテ益々犯罪的危險ノ分子ヲ増加セシムルノ結果アルヲ免カレ
ス余ハ立法上、一面ニ未成年者ニ對シテ處罰スヘキ自由刑ノ最高限ヲ限定例
ハ終身刑ノ場合ニハ十五年、有期刑ノ場合ニハ十年ト云フカ如キスルト共ニ
他面ニハマタ未成年者ニ就テハ特ニ假出獄適用ノ一般法定期間ヲ短縮スル
ニ至ラシメンコトヲ望ム余ノ本來ノ希望ヨリ之ヲ言ヘハ成年ト未成年タル
トニ論ナク緊縮ナル自由剝奪ノ境涯ヨリ之ヲ自由放縱ナル社會生活ノ境遇
ニ移ス場合ニ於テハ總テ其間ニ假出獄制度ヲ利用スル所アラシメント欲ス

ルニアレモ此ニ之ヲ論スルノ機會ニ非サルヲ以テ姑ク擱キ元來假出獄ナル
所ノモノハ唯タ長期刑ノ弊ヲ防クカ爲メニ特ニ之ヲ利用スルヲ得ルノ場合
ヲ多カラシムヘシト謂フニ非ス併セテマタ之レニ依ツテ未成年者ニ對スル
所罰ノ効果ヲ一層適實ナラシムルヲ得ヘシト信ス現行刑法及ヒ刑法改正案
ニ於ケル假出獄制度全體ノ利害得失ニ就テハ此ニ姑ク之ヲ不問ニ付シ專ラ
未成年者ニ對スル假出獄ナル者ニ就テ之ヲ觀察セシニ此場合ニ於ケル假出
獄ハ全然行刑ノ範圍ニ屬シ行刑當局者ノ權能ニ屬スル行刑ノ一方法ナリト
謂フヲ得ヘク之ヲ利用スルコト益々多ク且ツ適實ナルニ從ヒ愈々著ルシク
刑ノ効果ヲ全フセシムルコトヲ得ベシ試ニ此ニ或ル犯罪ニ依リ二年ノ處刑
ヲ受ケタル者アリ之ニ對シテ刑ヲ執行スルコト一年餘謹慎悔悟其既往ノ實
況ニ顧ミテ再ヒ復タ犯罪ニ陥ルカ如キ人格ニ非サルヲ確認シ之ニ加フルニ
一方ニハマタ適當ナル保護者ノ下ニ其謹慎悔悟ノ狀態ヲ維持シ得ルノ證明
ヲ認メタル者アリタリトセシニ之レニ對スル一個年ニ滿タサルノ殘期ハ監
獄及ヒ受刑ノ當該者ニ取リテハ殆ント毫モ痛痒ヲ相感セサル程ノ無意義ノ

モノタルニ過キサレトモ若シ之ヲ假出獄ニ利用スル所アリトセハ彼レヲシテ殘期免除ノ惠ヲ剝奪セラレシコトヲ恐ルルカ爲メニ益々謹慎悔悟ノ行狀ヲ維持シ且ツ競々トシテ之ヲ維持セント努ムルノ間ニ於テ自然ニ完全ナル身心ノ發育ヲ得テ秩序アル社會生活ノ實習ニ薰陶セラレ終ニ以テ一個獨立ノ良民タル資格ヲ具有セシメラル、ヲ得ルニ至ルヘキナリ唯タ無意義ニ幾何ノ殘刑期ヲ監獄内ニ執行スルモノニ比スレハ假出獄利用ノ効果ハ蓋シ大ナルモノアリト謂フヘク縱令ヒ謹慎悔悟ノ狀態ニ於テ幾分カ缺クル所アリトスルモ是ハ殆ント未成年者ノ總ヘテニ免カレサルノ通性ナルガ故ニ成年者ニ對スル場合ト同シク是ヲ以テ假出獄制限ノ一條件トナスハ余ノ取ラサル所ニシテ唯タ犯罪人格ノ實際ニ徴シテ再犯ノ虞ナカルヘキヲ推定シ且ツ出獄後相當保護者ノ下ニ收容シ得ラルヘシトノ條件ヲ具備スレハ則チ足レリトシ多々益々多ク之ヲ適實ニ利用スルノ道ヲ得セシメンコト余ノ希望スル所ナリ我カ改正案ガ一般ノ場合ニ對シ改悛ノ狀アルトキハ有刑期ニ付テハ其刑期三分ノ一、無刑期ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政處分ヲ以テ假ニ

出獄ヲ許スコトヲ得ト(改正案第三十五條)規定シタルコト大體ニ於テ異議ナキ所ナリト雖モ余カ未成年者ニ對スル假出獄ニ就テ特別ノ規定ヲ望ムト云フノ點ハ改悛ノ狀アルトキハノ數字ヲ削ツテ之レニ代フルニ「情狀ニ依リ」ノ五字トナシ情狀ノ標準ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ示スヘキハ當然ニシテ其條件トシテハ頑惡ナル習慣者若クハ一度ヒ假出獄ノ恩典ニ浴シタルニ拘ハラヌ刑期中、再ヒ犯罪スルニ至リタル者等ヲ除外スヘキハ勿論ナリト雖モ唯タ累犯者ナリトノ理由ヲ以テ一概ニ之ヲ排斥スルコトナクマタ専ラ重キヲ監獄内ニ於ケル改悛狀態ノ如何ニ置カシムルカ如キコトナキヲ要ス蓋シ監獄ニ於ケル最良ノ囚人ハ社會ニ於ケル最モ不良若クハ不能ノ人格ナリ (ein guter Schlingling ist ein schlechter Buerger) トノ詭言ヲ試ムル者アルカ如ク殊ニ發育期中ニアル未成年者ノ如キハ單ニ監獄内ニ於ケル改悛狀態ニ依テ其人格ノ真相ヲ看破スルノ困難ナル事情アルヘキヲ以テナリ其他未成年者ヲ假出獄ニ處スル場合ニ於テハ最モ必要ノ條件ノ一トシテ適當ノ保護者ノ下ニアラシムルト云フコトヲ要ス若シ法律ヲ以テ地方公共ノ名譽職トシテ相當ノ職權ヲ

有スル保護機關(地方ノ名望家、學校教員、町村吏員等ヲ以テ之ヲ組織ス)ヲ設クルヲ得ハ頗ル妙ナリト雖モ是ハ姑ク實行ニ困難ナルモノトシテ差向キ先ツ適當ノ保護者トシテハ信用アル本人ノ家族、親族、實業家、宗教家、學校教員、感化院、免囚保護會社等ノ内ニ就テ之ヲ撰定スヘシ殊ニ其比較的弱齡ノ者ニ就テハ成ルヘク之ヲ地方感化院長ノ保護監督ノ下ニ置カシムルヲ得策トス而シテマタ假出獄者ヲ相當保護者ノ監督ニ付スル以上ハ保護者ヲシテ一定ノ條件ノ下ニ假出獄停止ノ意見ヲ提出スルコトヲ得セシムヘキハ勿論總ヘテ之レニ對シテ親權ヲ有セシムルコトヲ要ス將タ又假出獄ヲ許スヲ得ヘキ期限ニ就テハ成年囚ニ對スルト同一ニ草案規定ノ刑期三分ノ一ノ經過ヲ以テスルコトニ異議ナシト雖モ(未成年者ノ假出獄ニ就テハ二年以下ノ者ニ對シテハ刑期ノ二分ノ一ノ經過ヲ俟ツヘシ但少クモ三ヶ月以上ノ期間ヲ經過シタル者ナルヲ要ス二年以上ノ者ハ總ヘテ刑期一年間經過ノ後ニ於テ之レヲ許スコトヲ得ル)列國刑事會議ニ於ケル或ハ又未成年囚ニシテ特別ニ善良ナル行狀ヲ保テタル場合ニ於テハ刑期二分ノ一經過ノ後ニ於テ假ニ之ヲ出獄セシムル

コトヲ得但少クモ六個月以上ノ刑期ヲ經過シタル者ナルヲ要ス列國刑事會議ニ於テ年犯罪者及未成年者等ノ說アリ之レカ停止ノ條件トシテハ草案第三十六條ニ規定スル場合ノ外尙ホ保護者ヲ離レタルコト等ノ條件ヲ付加スルコト必要ナリト信ス且ツ又余ハ監獄生活ヨリ一躍シテ自由生活ニ移ルノ瞬間ハ總ヘテノ出獄者殊ニ初犯未成年ノ出獄者ニ取リテ最モ再犯ニ陥リ易キ危險ノ時機ナリトノ確信ニ依リ假令ヒ監獄ニ於ケル行狀ノ上ニ幾分ノ缺點アリト雖モ將タ殘刑期ノ極メテ短キ場合(行狀ニ欠クル所アリ刑期三分ノ一ノ經過ヲ俟ツテ直チニ假出獄ニ處スル能ハサル)ノ結果トシテナルニモ拘ハラス未成年者ニ對シテハ成ルヘク多ク假出獄ヲ利用スル所アラシメントノ希望ヲ有スル者ナルヲ以テ殊ニ一層此ニ一新施設ヲ要スルモノアリト感スルハ他ニ非ス未成年ニ對スル假出獄ノ期間ヲシテ必スシモ本刑殘餘ノ期間ト一致セシムヘカラスト云フコト即チ是レナリ既ニ再犯豫防ノ重モナル目的ヲ以テ假出獄ヲ利用スヘシト云フ以上ハ出獄者ノ最モ再犯ニ陥リ易キ時機ノ凡ソ二年マテノ間ニアルコト(クローネハ二年ト云ヒアベリユースハ

一年ト云フ我カ監獄統計ニ就テ之ヲ見ルニ明治三十四年中ニ於ケル累犯新入者ノ中、六月未滿ニシテ再入シタル者百分ノ三九九。一年未滿ノ者一三〇。二年未滿ノ者亦略ホ之レト匹敵シテ一二八ノ數ヲ保チ三年未滿ノ者ニ至ツテハ著ルシク減少シテ九一トナリ以上漸次遞減ノ傾向ヲ呈ス即チ余モクロネト同シク二年迄ヲ以テ最モ多クノ再犯者ヲ出タスノ期間ト認ムル所以ナリ争フヘカラサルノ事實ナルカ故ニ一旦假出獄ノ恩典ニ浴セシメタル所ノ者ハ其殘刑期ノ如何ニ拘ハラス少クモ出獄後二箇年ノ間ハ假出獄執行ノ時期トナシ若シ此間ニ於テ一定ノ條件ヲ缺クニ至リタルトキハ直チニ假出獄ノ處分ヲ取消シ假出獄中ノ日數ハ固トヨリ刑期ニ算入セサルコトヲ要ス此説ハ曾テ列國刑事會議ノ獨乙部ニ於テ可決セシ所ニシテ其立案ニ係ル不良少年及未成年犯罪者ノ處罰並ニ處遇法案第八十八條 („Entwurf eines Reichsgesetzes betr. die Behandlung und Bestrafung jugendlicher Verbrecher u. verwahrt. jugentl. Personen.“ §89) ニ曰ク「假出獄者ニ對スル試驗期間ハ刑期ノ滿限ニ至ルマテ繼續スルモノトス但少クモ三年間ノ繼續ヲ要スト即チ殘刑期三年ニ滿タサル

所ノ者ハ假出獄ニ依リ三年ニ至ルマテノ間ハ殘刑期ノ經過ヲ停止スルノ効力ヲ有スルモノトス試驗期三年ノ規定ハ稍々長キニ失スルノ嫌ヒアルヲ以テ之ヲ短縮シテ二年トナシタルノ理由ハ前ニ既ニ之レヲ述フル所アルカ如シ

第七章 未成年犯罪者ニ對スル處分法ノ種類

處罰狹義ノハ未成年犯罪者ニ對スル最後ノ非常手段ナリ成ルヘクハ之レカ處罰ヲ避ケテ監獄ニ遠アサカラシムル所アルヲ要ストハ余カ上來重テ陳述シタル所ニシテ未成年者處遇法改良論ノ大眼目トスル所モ亦タ此ニアリ然ルニ我カ立法者カ此要點ニ着目スルコトノ割合ニ冷淡ナルカ如キ觀アルハ余ノ最モ遺憾トスル所ニシテ時勢ノ進運ニ徴シ立法ノ方針ニ願ミル所アリト稱スル刑法改正案ナルモノニ就テ之ヲ見ルモ未成年犯罪者ニ對シテハ唯タ僅カニ責任年齡ノ上ニ多少ノ修正ヲナシタルニ過キスシテ而カモ不完全ナル他ニ殆ント何等特別ノ施設ヲ加ヘタルモノアルヲ見ス少クモ刑罰ノ種

類ヲ撰擇スルノ上ニ於テダニ成年者ト未成年者トニ依リ幾分ノ取捨ヲ異ニスヘキ等ナルニ是レ亦殆ント一モ顧ミル所アラサルモノ、如シ何レノ國カ未成年者ニ對シテ死刑ヲ科スル所カアル少クモ死刑ヲ科シ得ヘキ場合ヲ豫想スル所カアル不完全ナリト稱スル我カ現行刑法ニ於テスラモ尙ホ未成年者ニ對シテ死刑ヲ科シ得ヘキ場合ヲ豫想シ居ラサルニ非スヤ然ルニ我カ改正案ハ確カニ此點ニ向ツテ改惡ヲ加ヘ未成年者モ亦成年者ト同シク死刑ニ處セラル、場合ヲ豫想シ得ラルヘキ規定ヲ設クルニ至レリ欠點ノ著ルシキモノト謂ハサルヲ得ス未成年者矯治ノ要ハ努メテ其廉恥心ヲ喚起發達セシムルニアアルヲ勿論ニシテ一方ニ之ヲ喚起發達セシメントナラハ他方ニハマタ永キ將來ヲ有スル未成年者ニ對シテ終世抹殺スヘカラサル破廉耻不名譽ノ痕迹ヲ貽スヘキ刑ヲ科スヘカラサルコト自明ノ理ナリ况ンヤ彼レ殆ント名譽ノ何モノタルヲ解セス一モ名譽ト直接ノ利害關係ヲ有セサル者ナルニ於テヤ名譽刑ヲ以テ未成年者ニ科スヘカラストハ今日ニ於テ學者ノ定論ヲ見ル所ナルノミナラス獨乙刑法ノ如キハ既ニ此原則ニ基テ未成年者ヲ懲

役監視其他總ヘテノ名譽刑ヨリ之ヲ除外スルノ規定獨乙刑法第五十七條ヲ設テリ禁錮ト懲役トハ等シク自由刑ノ一種ナリト雖モ其實質ニ於テハ一ハ破廉耻ナラサル犯罪ニ對シテ之ヲ科シ他ハ破廉耻罪ヲ客體トナシ一ハ強制勞役ヲ科シ他ハ之ヲ科セサル等改正案第十二條及第十三條自ラ其間ニ名譽上ノ區別アルヲ以テ余ハ我國ニ於テモ亦未成年者ニ對シテハ懲役ニ換フルニ總ヘテ禁錮刑ヲ以テスルヲ適當ナリト信ス但シ強制勞役ノ名ヲ以テセサルヘシト雖モ矯治法施行ノ手段トシテ之レニ相當ノ職業其他ノ勞役ニ強制專ラ矯治ノ意義ニ於テセシムル所アルヘキハ論ヲ俟タス其他監視公權剝奪等ノ如キモ亦如何ナル場合ニ論ナク總ヘテ之ヲ未成年犯罪者ヨリ除外スヘシ獨乙ニ於テハ未成年者ニ對シ公權剝奪ヲ除外スルカ爲メニ出獄スル者ノ直チニ官職ニ就クヲ得ルノ結果トシテ近來十七八歳ノ郵便吏員等ノ内ヨリ往々犯罪者ヲ出タスノ弊アリトノ理由ニ依リ未成年者ニ對シテモ亦相當ノ期間例ヘハ一年乃至五年公權剝奪ヲ附加シ得ルノ規定ヲ新設スヘシトノ意見ヲ提出スル者ナキニ非ズト雖モ此クノ如キハ唯タ一時的九牛ノ一毛モ

管ナラサル欠點ノミニ依ツテ全體ノ利益ヲ犧牲ニ供セントスル不通論タルニ過キス官職ニ就クヲ得ル結果トシテ少數ノ犯罪者ヲ出タスノ弊ト之レニ就クヲ得ルカ爲メニ秩序アリ規律アル官吏の生活ノ間ニ其身ヲ處シ由ツテ以テ多數ノ未成年者ヲシテ益々犯罪ヨリ遠サカラシムルヲ得ルノ利益ト果シテ能ク之ヲ比較シ得ルヤ否ヤ寧ロ實際ノ上ニ官職ヲ就クヲ得ル者ノ割合ノ極メテ僅少ナルヲ憂フヘキ筈ナルニ強テ其道ヲ杜絶センコトヲ求ム愚モ亦甚シカラスヤ假リニ官職上ノ弊害ニ堪ヘサルノ事情アリトセンカ必要ニ應シテ一局部ニ於ケル官吏任用ノ資格ニ相當ノ制限ヲ加フレハ則チ足レリ毫モ絶對ニ或ル期間ノ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得ト云フカ如キ規定ヲ設クルノ必要アルヲ見サルナリ(獨乙未成年犯罪者處罰法草案第五條第九項ノ二)刑法ニ依リ公權剝奪ヲ附加スルヲ得ルノ場合ニ於テハ一年以上五年以下ノ期間官職ニ就クコトヲ禁スルノ言渡ヲナスコトヲ得ノ規定ヲ設ケタルハ余ノ贊成スル能ハサル所ナリ(現行刑法剝奪公權ノ一條件トシテ掲ケタル裁判所ニ於テ證人トナルノ權)ハ改正案ニ於テ民事訴訟法又ハ刑事訴訟法ニ規

定スベキモノトシテ之ヲ刪除シタルハ其意蓋シ證人ト爲ルノ權ヲ剝奪スルハ性質上名譽刑ヲ以テ目スヘキモノニ非スト認メタルニ依ルヘク余ノ敢テ異議ナキ所ナリト雖モ此點ニ就テモ亦未成年者ニ對シテハ特別ノ規定ヲ設ケ民事訴訟法ナリ或ハ刑事訴訟法ノ上ニ一般ノ受刑者ニ對シテ證人ト爲ルノ權ヲ禁スル場合ニアツテモ未成年者ニ就テハ例ヘハ受刑後一年以上ヲ經過シタル者ハ此限ニ非スト云フカ如キ除外例ヲ設クルニ至ラシメンコトヲ望ム。監視其物ノ利害ハ姑ク措キ拙著監獄學參照未成年者ヲ警察官ノ手ニ觸レシムルハ恰カモ火藥ヲ火氣ニ接セシムルニ同シク却テ彼レヲ犯罪ニ導クハ危險アルヲ免カレストハ實際上爭フヘカラサルノ事實ナルヲ以テ監視ノ如キモ亦其條件ノ如何ニ拘ハラズ未成年者ニ對シテハ徒ラニ害多クシテ利少キノ制度ナリト謂ハサルヲ得ス殊ニ鄙見ノ如ク若シ將來ニ於テ未成年者ニ對シ假出獄利用ノ場合ヲ頻繁ナラシムルヲ得ルニ至ラハ何レノ方面ヨリ見ルモ益々實際ノ上ニ監視ノ必要ナキヲ見ルニ至ルヘキナリ未成年者處遇ノ事ニ最モ經驗アル僚友早崎典獄ハ曾テ余ニ書ヲ寄セテ曰ク幼年囚ニ付加す

るの監視は恰かも幼年監に於ける數年の苦心を一朝にして打ち毀すが爲めの道具として設けられあるやに感せられさしにも斯業に熱心なる部下の吏員に於ても何れも監視付の幼年者は世話甲斐なしと啣ち合ひ居り申候幸ひ當地の警察署に於ては話し合ひの上何呉れと親切の取扱ひ致し呉れ便利を得居り候へども是れは唯た一部局のことたるに過ぎず普通取扱の状況は實に想像の及はざる所に有之其の一例を擧げて之を申さば出獄者は先づ監視票の下付を得るか爲めに自身警察署に出頭せざるを得ざる義に候處實父母か其他の引受人を呼出したる上ならては監視票を下付せずとの事にて若し引受人其日の内に出頭せざる時は朝から晩まで空しく稠人雜沓の警察署に待たしめたる上に更に留置場！へ留置して一夜を明かさしむるとの事に候斯くの如き實況にては幼年監の苦心も一夜の夢に消へ去ることに可有之實は懲治人に對しても假出場處分の上請を致し度き向も不認候へども現行の假出場取締規則にては何分にも警察が怖はくて浮かたと上請も致たし兼ね居り候様の次第に候何卒一日も早く子供の監視だけなりとも全廢せられた

きものに御坐候云々下實況ヲ穿テ得タルモノト謂フヘク未成年者ニ對スルハ監視ハ斷然之ヲ全廢スルコトヲ要ス

未成年者ニ對スルノ刑罰ニシテ全ク我カ刑法ノ上ニ現ハレサル所ノモノニ種類アリ苜杖及ヒ呵責即チ是レナリ苜杖刑ハ施体刑ノ一種ニシテ未開時代ニ於ケル復讐觀念ニ基キタル殘忍殺伐ノ刑罰ノ遺物タルコト論ヲ俟タス此遺物ハ文明ノ近世紀ニ至ルマテ各國到ル所ニ其餘喘ヲ保ツコトヲ得タリシモ今日ニ於テハ佛國、魯國、埃國、獨乙、瑞典、瑞西及ヒ伊太利ノ如キハ既ニ刑法ノ上ヨリ之ヲ除外シタリ其尙ホ法律ノ上ニ之ヲ存スルモノハ英國、諾威及ヒ丁抹ノ三國ニ過キスシテ專ラ未成年ノ男子ニ限リテ之ヲ適用セリ(但丁抹ノ如キハ女子ニ對シテモ亦之ヲ適用ス世界廣シト雖モ女兒ニ苜杖刑ヲ用フルノ國ハ獨リ唯タ丁抹アルノミ)モリソシカ英國ヲ指シテ苜杖國ノ筆頭ナリト謂フカ如ク英國ニアツテハ今日尙ホ毎年平均三千二百内外ノ未成年者十四歳以下ニ對シテ苜杖刑ヲ適用シツ、アルノ實況ナリト云フ(但シ等シク英國ノ内ニアツテモ愛蘭ノ如キハ之ヲ適用スルコト甚タ少ク英領植民地タルニ

ユイヨウユードウニールスノ如キハ時トシテ一年間ヲ通ツテ全ク之ヲ適用セサルコトアリト云フ慣用ノ久シキ輿論モ亦之レニ慣レテ深ク怪ム所ナキノミナラス有力ナル専門ノ団体學者實務家等ニシテ頻リニ其有効ヲ主張スル者少カラス然レトモ一面ニマタ之レニ反對スル所ノ識者アルヘキハ當然ニシテ例ヘハロイド¹イカー (Lloyd Baker; Morrison's, p. O. B. 103) ノ如キハ苦杖刑ハ簡便ニシテ且ツ廉價ナリト雖モ其効果ハ則チ極メテ乏シ肉體上ノ痛苦ハ即チ甚シカルヘシト雖モ然カモ是ハ苦杖セラル、ノ瞬間タルニ過キス是ヲ以テ之ヲ監獄拘禁ノ刑ニ比スレハ拘禁僅カニ八日乃至十四日ニ過キスト雖モ其間ニ於テ尙ホ彼レニ懲戒ト改悟ノ機會ヲ與フルヲ得ルヲ以テ苦杖ノ拘禁刑ニ劣ルハ明ラカナリト英國ニ於ケル某經驗家警察判事(ハウエトクフ² #ルド幼年監獄ノ統計ニ就テ苦杖刑ノ有害ナルヲ證明シテ曰ク再犯ノ百分ノ三〇ハ單純ナル禁錮刑ニ處セラレタル者ニシテ同六〇ハ禁錮ト苦杖刑トニ併科セラレタル所ニ依ツテ之ヲ見ルモ苦杖カ未成年者ヲ矯治スルノ効ニ乏キヲ知ルヘシト未成年者ニ對スル苦杖ノ刑ヲ再興スヘシトノ議論ハ歐洲

殊ニ獨乙等ニアツテ近年往々學者政治家等ノ口ヨリ耳ニスル所ニシテ之レニ關スル著書類ノ出版セラル、モノ少カラス然レトモ多クハ皆、一時的現象ニ激成セラレタル感情論タルニ過キスシテ殆ント一顧ノ價直ヲ有セス英國ニ於テ苦杖刑ヲ主張スルハ之ヲ以テ成ルヘク禁錮刑ニ換ヘ未成年者ヲシテ努メテ監獄ニ接觸スルノ機會ヲ少カラシメント欲スルニアリ然ルニ獨乙等ニ於テ近年ノ流行問題トシテ喧スシキ苦杖刑再興論ノ趣旨ハ兇惡殘忍ノ未成年者ニ對スル禁錮刑ハ其應報的効力ニ於テ不十分ナルヲ免カレサルカ故ニ彼レカ痛苦ヲ加重セシムルカ爲メニ之ヲ適用スヘシト云フニアリ同シク苦杖論ナリト云フト雖モ余輩ハ英國流ノ論旨ニ顧ミルノ必要アルヲ見ルモ斷シテ獨乙流ノ空論ニ聽クノ耳ヲ有セサルナリ一九〇〇年二月九日普國國會ニ於テ偶々刑事制度改良問題ノ日程ニ上リタルニ際シ一議員(Weihe)ノ苦杖再興說ヲ提出スル者アリ時ノ法相シューインステッド(Schonstedt)ハ一時ノ感情ノ爲メニ容易ニ現行刑事制度ノ基礎ヲ動カシ難シト答辯シ議員ゼンケル(Stenger)ハ苦杖再興ニ反對スルノ趣旨ヲ痛論シテ曰ク論者ハ風教維持ノ

必要ヨリ中古時代ニ於ケル拷問制度ノ遺物タル苦杖ノ刑ヲ再興スヘシト云フ苦杖ノ行ハレタル當時ニアツテハ果シテ能ク社會ノ風教ヲ維持セザレタリト信スルカ我國文明今日ノ風教ハ果シテ苦杖ノ行ハレタル當時ノ風教ニ劣ルモノアリト信スルカ英國ニ於テ今尙ホ苦杖刑ノ行ハル、ハ人ノ善ク知ル所ナリ英國ニ於ケル社會風教ノ状態ハ果シテ我カ獨乙ニ優サルモノアリト信ズルカ英國ハ果シテ之レニ依ツテ残忍ナル未成年犯罪者ヲ出タスノ割合ニ於テ我カ獨乙ヨリ少數ナリトノ事實アリヤ余ノ見ル所ニ依レハ苦杖刑ナルモノハ獨リ未成年者ノ矯治ニ少補スル所ナキノミナラス之ヲ行フ者ヲ残忍ニ導キ之ヲ受クル者ヲシテ益々其心性ヲ惡感醜化セシムルニ至ル結果アルヲ免カレス云々ト多年慣用シ來レルモノヲ一朝ニシテ廢止スルハ困難ナリト雖モ幸ニ我國ニ於テハ之ヲ廢止スルノ日既ニ久シク多年ノ實驗ニ依ツテ之ヲ見ルモ毫モ之ヲ再興スルノ必要ヲ認メサルノミナラス未タ好事家ノ之レニ向ツテ空想ヲ試ミント欲スル者ダニ之レアルヲ見サルハ幸ト謂フヘシ余ハ斷シテ苦杖ノ未成年者ニ適當シタル刑ノ種類ニ非サルコトヲ確信

スル者ナリ現下必要ナキニ拘ハラス尙ホ數言ヲ費ス所以ノモノハ豫メ獨乙流ノ新説ノ輸入ニ備フル所アラント欲スレハナリ

呵責ハ立法上他ニ多ク其類例ヲ見サル所ニシテ獨逸刑法ノ十二歳乃至十八歳ノ未成年者カ輕罪又ハ違警罪ヲ犯シタル場合ニ於テ情狀ニ依リ科スルコトヲ得ヘキ一種ノ刑ニ屬スルモノ即チ是レナリ(獨乙刑法第五十七條第四獨乙刑法ニテハ「フェルウアイス」Verweisト稱シ魯國一八八五年發布ノ治安刑法(Gesetz ueber d. von d. Friedensrichtern zu verhaengd. Strafen v. Y. 1885)ニハ訓戒即チ獨譯シテ「エルマーニング」Ermahnungナル文字ヲ用フ呵責ト云ヒ訓戒ト云ヒ其性質ニ於テハ毫モ相異ル所アルヲ見ス呵責ハ唯タ普通道德的制裁ノ一種タルニ過キスシテ刑罰タル要素ヲ具備セスト云フ者アリト雖モ名譽カ刑罰ノ目的物タルヲ得ルカ如ク感情モ亦精神的主領物(Geistiges Vermoegen)ノ一種ナルカ故ニ之ヲ強制スルコトニ依ツテ或ル反應反省悔悟ヲ起サシムルコトヲ得ルトナラハ呵責ヲ以テ刑罰ノ一種トナスニ於テ何ハ不可カ之レアラ、況ンヤ懲戒罰令等ノ上ニハ幾ント之レカ適用ヲ見サルナキニ於テ

ヲヤ但シ呵責ハ其効ニ乏シト云フノ非難ニ至ツテハ余モ亦其感ヲ同フスル所ナリト雖モ是ハ呵責其物ノ罪ニ非スシテ畢竟スルニ之ヲ適用スル場合ト方法トニ其宜シキヲ得サルモノアルカ爲メナリト信ス獨乙ニ於ケル呵責適用ノ實況ニ就テ之ヲ見ルニ別ニ規定ノ據ルヘキモノナキカ故ニ普通一般ノ刑ヲ執行スルノ手續ニ準シ裁判所書記ノ作製スヘキ執行證ヲ備ヘ公證アル判決文ノ謄本ニ依リ區裁判所判事若クハ檢事局ニ於テ之ヲ執行スルモノ、如ク獨リ裁判ト執行ト其人ヲ同マセサルノミナラス其間ニマタ多少ノ時日ヲ經過シ甚シキハ則チ既ニ遺忘シタル頃ニ至ツテ始メテ一片ノ形式的判決文書カ當該者ノ手許ニ到達スルニ過キスト云フカ如キ實況ナリ此クノ如クニシテ呵責ノ効アラシメントスルノ困難ナルハ勿論ニシテ呵責ノ無効ヲ非難スル者アルノ偶然ナラサルヲ知ルヘシ之レニ反シ若シ呵責ナルモノ吾人ノ普通所謂叱リナル意義ニ之ヲ解シ吾人カ日常子弟ニ對シ其不行儀不法ノ行爲アル瞬間ニ直チニ父兄タル人格ニ於テ之ヲ叱責戒飾スル所アルカ如ク少クモ裁判所ニ於テモ亦親シク本人ニ就テ其犯罪事實ヲ審問糺治スル所

ハ裁判官其人カ有罪ヲ確メ且ツ呵責ノ適當ナルヲ認メタル場合ニ當リ時ヲ移サス審問即判決ナリ訓戒ナリト云フ程ノ意味ヲ以テ而カモ威嚴アル裁判官タル人格ニ於テ直チニ之ヲ面責セシムルノ方法ヲ利用シ得ルニ至ラハ人ニ依リテ呵責ノ効ヲ見ルコト蓋シ至大ナルヘシ由ツテ以テ多數ノ未成年者ヲ有害ナル監獄拘禁刑ノ弊ヨリ免カレシムルコトヲ得ヘキナリ(著者曾テシカゴニ遊ヒ裁判所ニ就テ幼年犯罪者審理ノ實況ヲ觀ル當該判事ハ幼年ノ擔當ニ專任スルコト二十年餘年齢六十四五幼年者ニ對スルコト恰カモ師父ノ子弟ヲ待ツカ如ク徒ラニ法官ノ態度ヲ取ツテ形式的審問ノ弊ニ陥ルカ如キコトナク冒頭彼レノ名ヲ呼ビ彼レノ生育ヲ告ケ彼レノ行狀ヲ語り既ニ彼レノ總ヘテノ關係ヲ詳悉セルモノノ如クニシテ先ツ彼レノ信賴ヲ惹キ一言一句盡ク皆彼レノ小サキ胸ノ内ニ伏在セル至真ノ琴線ニ觸ル、ノ審問ニ非サルハナキガ如キ法廷ニアル者ヲシテ恰カモ嚴格ナル家庭ニアルノ想ヒアラシメ審問其物カ幼年者ニ對シテ既ニ形式的諸般ノ刑罰ニ優サルノ効果アルヘキヲ認ムルニ至ラシメタリ)ゾイフェルト(H. Seuffert)ハ裁判官ト適用方法

ト兩ツナカラ其宜シキヲ得ルニ於テハ呵責ハ幼年者ニ對スルノ刑トシテ最モ有効ナルモノナリト云ヒ著者カ同氏ニ就キ刑事訴訟法ノ講義ヲ聽ク時ニ際シテ直接耳ニセシ所ノ記憶ニ依ル幼年研究家トシテ經驗アル有力家唯其見スルヲ得サルカ爲メニ此ニシテ其出所ヲ穿鑿スルモ急ニ之ヲ發ノ説ニ曰ク「普通生育關係ノ下ニ犯罪シタル幼年者ハ初回ハ先ツ之ヲ呵責セヨ二回モ亦嚴重ニ之ヲ呵責セヨ三回モ亦更ラニ嚴重ナル呵責ヲ加ヘテ以テ其驗否ヲ試ミヨ四回以上ニ涉ル場合ニ於テ始メテ普通ノ刑罰ナリ或ハ懲治教育ナリヲ加フルモ晚カラス」ト言少シク奇矯ニ失スルノ嫌ヒナキニ非スト雖モ深ク呵責ノ効果ヲ信認スルノ意ハ則チ見ルヘキナリアベリニス (A. O. S. 104) ハ呵責ヲ有効ナラシムルカ爲メニ審問ト判決及ヒ執行トヲ直接聯結セシムルヲ必要トシ向ホ若シ當該者ニシテ學校ニ通學シ若クハ感化院ニ在院スル者ナルノ場合ニ於テハ呵責ニ付加スルニ學校懲戒ヲ以テスベシト提議セリ學校懲戒 *Schulzucht* ニ付スルハ強テ異議ナキ所ナリト雖モ之ヲ付加スルトセザルトハ個々ノ狀況關係ニ依リ學校當局者ノ決定スヘキ所ニシテ必スシモ當

局者ノ職權ヲ率制スルニ及ハサルヘシト信ス故ニ余ハ此提議ニ基ク獨乙幼年犯罪者處罰法草案第五條第七第二項呵責ニ處セラレタル者ニシテ公立小學校ニ通學スル者ナル場合ニ於テハ之ヲ學校懲戒ニ付スルノ言渡ヲナスコトヲ得懲治教育ノ下ニアル者亦之レニ準スル規定ニ對シテハ異議ナキヲ得サル所ナリ呵責ヲ有効ナラシムルノ方法ニ就テハ余ノ既ニ陳述スル所アルカ如ク殊ニ幼年者ニ對シテハ成ルヘク老練ナル裁判官ヲ撰拔シテ之レニ擔當ヲ專任セシムルノ方法ニ依ラシメンコトヲ望ム斯クノ如クニシテ我カ刑法ノ上ニ呵責ヲ採用スルノ結果ハ必ラス多數ノ未成年者ヲ懲治禁錮其他ノ刑罰ヨリ之ヲ免カレシムルコトヲ得テ而カモ簡便ニ且ツ廉價ニ能ク累犯豫防ノ趣旨ヲ全フスルノ一助タラシムルコトヲ得ヘシ魯國刑法草案(第三十八條第三及ヒ最近瑞西刑法草案第九章及ヒ第十章)ノ如キモ未成年者ニ對スル刑ノ一種トシテ新タニ呵責ヲ採用シタル所ニ依ツテ之ヲ見ルモ自ラ立法ノ方針ノ此ニアルヲ知ルヘキナリ

罰金ノ刑カ未成年者ニ對スル適當ノ刑ト認ムヘキヤ否ヤノ問題ニ就テハ學

者ノ間ニ區々ノ議論アルヲ免カレサル所ナリ之ヲ否認スル者ノ多クハ則チ
 曰ク罰金ヲ未成年者ニ科スルノ結果ハ勢ヒ其負擔ヲ父兄又ハ親族ニ移スニ
 至ルヘキヲ以テ恰カモ犯罪當該者ノ代ハリニ關係ナキ第三者ヲ罰スルノ變
 態ヲ生スヘク變態尙ホ忍ブヘシトスルモ多クノ場合ニ於テハ則チ換刑處分
 トナリ複雑ナル手數ノ下ニ無用ナル迂路ヲ取ツテ同シク監獄拘禁ニ其運命
 ヲ終了セシメサルヲ得ス換刑處分ノ多キハ成年者ニシテ尙々然リ況ンヤ未
 成年者ニ於テヲヤ寧ロ始メヨリ監獄拘禁ノ刑ヲ科シテ以テ適實ニ犯罪當該
 ノ責任者ニ限リテ之ヲ處罰スルノ趣旨ヲ全フスル所アルヲ要スト多數ノ未
 成年者カ罰金ヲ拂フニ足ルノ資力ヲ有セサルハ事實ナリ然カモ父兄ヲシテ
 之ヲ代償セシムルニ於テ何ノ不可カ之レアラシヤ獨リ父兄ノミナラス親族
 ナリ雇主ナリ將タ平生彼レニ同情アル所ノ總ヘテノ第三者ニ於テ彼レノ爲
 メニ代償ノ惠ヲ與フルコト毫モ差支ヘアラサルノミナラス彼レノ監獄ニ送
 ラル、ノ不幸ヲ避ケシメンカ爲メニ父兄ノ代ツテ之レカ辨償ノ任ニ當ラン
 ト欲スルカ如キハ人間至情ノ當然ニシテマタ大ニ乘シテ以テ之ヲ利用スヘ

キ緊要ノ動機ナリ未成年ノ犯罪者ヲ出タスコトヲ以テ必ズシモ盡ク之ヲ父
 兄ノ責ニ歸セシムヘシト云フニ非サルモ間接上幾分ノ責任アルヲ免カレサ
 ルハ勿論ニシテ少クモ子弟ノ失敗ニ鑑ミテ已レテ責メ彼レヲ將來ニ警戒ス
 ルノ責任ヲ辭スヘカラス代償ハ則チ此責任ヲ盡サシムル所以ニシテ父兄ハ
 由ツテ以テ子弟ニ對スル義務觀念ヲ喚起スヘク子弟即チ犯罪當該者モ亦累
 ヲ父兄ニ及ホシタルコトニ依テ深ク自ラ反省悔悟スル所アルヘク反省悔悟
 ハ同時ニマタ父兄ニ信頼ヲ厚フスルノ素因タラシムルコトヲ得ヘシ代償ハ
 寧ロ一舉兩得ノ効果アリト謂フモ可ナリ又論者ハ犯罪ニ直接關係ナキ第三
 者ニ影響セシムルヲ以テ刑ノ本則ニ戾ルモノナリト言フト雖モ如何ナル刑
 カ其影響ヲ第三者ニ及ホサルモノカアル成年者ニ對スルノ罰金ハ果シテ
 皆當該者一個ノ資力ニ依テ辨償セラル、モノナリト信スルカ少クモ之ヲ辨
 償スルノ結果カ累ヲ妻子又ハ債權者ニ及ホサルヘシト信スルカ余カ地方
 監獄當局者ノ實驗ニ就テ聞ク所ニ據レハ附加罰金ニ對スル不納換刑ノ言渡
 ヲ受ケタル在監者ニシテ換刑執行前全納シ若クハ執行後幾分ヲ納付シテ出

監スル所ノ者ノ殆ント全部ハ實際、父兄、親族、朋友、隣佑、鄉黨等ノ力ニ籍ルモノナリト云フ本年六月、官命ヲ帶ヒテ九州地方ヲ巡回スルニ際シ、偶々長崎監獄ニ於テ某輕禁錮囚ノ換刑取消命令ニ接シテ出監セシメラル、者アリ當該者年齡卅餘、父母ナク妻子ナクシマタ兄弟ノ所在ヲ詳カニセス固トヨリ赤貧拂フカ如ク僅カニ勞働ニ依テ其日ヲ糊口スルニ過キス余試ミニ本人ニ就テ如何ニシテ罰金ヲ納メ得タリヤト問フニ曰ク余固トヨリ一錢ノ貯ヘアルニ非ス余ノ罰金カ何人ニ依リ又如何ナル事情ノ下ニ完納セラレタルヤハ余ノ毫モ與リ知ル所ニ非スト答ヘ更ニ然ラハ汝ハ汝ノ爲ニ何人ニ依リテ完納セラレタル罰金十四圓ノ罰金不納ニ對シ二日ノ換刑處分ヲ受ケタリニ辨濟スルノ見込アリヤト問フニ彼レハ冷笑一番、唯タ永久辨濟ノ見込ナシトノ一言ヲ以テ之レニ答フル所アリシニ過キス自由刑ハ刑ノ結果ヲ犯罪當該者ニ限局スルノ効アリト謂フト雖モ試ミニ家長ノ身分ニ在ル所ノ者カ一朝ニシテ監獄拘禁ノ身トナリタリト假定セヨ果シテ彼レカ妻子眷族ニ拘禁ノ影響ヲ受ケサラシムルコトヲ得ヘシト信ズルカ妻子ハ罪ナクシテ夫タリ

父タル者ノ罪ハ汚名ヲ分ツハミテ、其饑餓ニ苦ムハ、苦ハ本人カ拘禁ニ苦ムハ、苦ニ優サルノ實況ナルニ非スヤ、未成年者ニ對スル罰金負擔ノ責ヲ以テ間接ニ之ヲ父兄ニ稼セシムルモノニ比シ其影響ノ輕重ニ差異アルコト極メテ著明ナリト謂フヘシ罰金刑カ何人ニ對スル場合タルニ論ナク概シテ動モスレハ輒チ換刑ニ終ハリヤスキヲ免カレサルハ實際ノ事實ニシテ殊ニ我國ノ如キハ最モ其弊ニ堪ヘサルノ實驗ヲナシツ、アル所ニシテ成年者ニ對シテスラ既ニ此クノ如クナリトセハ未成年者ニ對シテ之ヲ適用スルノ前途ハ豫メ其不結果ニ終ハルヘキヲ想像スルニ難カラス然ラハ未成年者ニ對スル罰金ノ刑ヲ否認スヘキカト云フニ余ハ罰金制度ヲシテ縱令今日ノ不完全ナル状態ノ下ニアラシムルモ尙ホ未成年者ニ對シテ大ニ適用ノ範圍ヲ擴メ普通金刑ヲ許サルル犯罪ニ就テモ其未成年者ニ依ツテ犯サレタル場合ニハ特ニ個人關係ヲ省察シテ之レニ金刑ヲ科スルヲ得ルノ道ヲ開クニ至ラシメンコトヲ希望スル者ナリ始メヨリ換刑ニ終ハルヘシト想像シ得ラルヘキ者ニ對シテ金刑ヲ言渡スカ如キハ抑モ「ノンセンス」ノ極ト謂フヘシ善ク個人ノ

關係ニ顧ミル所アラハ本人若クハ父兄親族ニ於テ相當ノ資力ヲ有シ且ツ此ニ由ツテ彼レヲ警戒スルノ大ニ時宜ニ適シ本人ヲ犯罪ヨリ遠フサカラシムルニ有効ナリト認ムルノ場合必ラス多々アルヘク若シ斯、ル狀況ニ處シテ金刑ヲ利用スル所アラハ決シテ換刑ニ終ハルカ如キ恐レナカルヘキハ必然ニシテ余ハ徒弟職工傭人等トナツテ相當保護者ノ下ニ既ニ一定ノ業務ニ従事スル所ノ者若シハ平生相當ノ家庭ニ起居スル子弟ノ偶發性輕微ノ犯罪者ニ對シテ之ヲ利用スルノ最モ適切ナルヲ信ス(著者頃日歸省シテ〇〇ノ〇〇ニ在リ偶々同地監獄ニ就テ聞キ得タル實事談ヲ掲ケンニ同地停車場ニ日々菓餅(鹽煎餅)ヲ行商スル所ノ少年アリ一日不幸ニシテ顧客ヲ得ス黄昏ニ至ルモ尙ホ過半ヲ賣殘シ得ル所幾何モナシ空シク歸ヘランカ主人ノ叱責ヲ免カレス躊躇去就ヲ決セサルノ間ニ空腹ハ容赦ナク彼レノ手ヲ強制シテ終ニ數顆ノ菓餅ニ觸レシム偶々知ル所ノ一少年ニ邂逅ス擬製豆腐ノ營業者ニ傭使セラル、所ノ者ニシテ年齢相同シク共ニ未タ十六歳ニ滿タス後若ク時盛夏ニ際シテ余カ家ノ業務頗フル閑ナリ夜歸ヘル晚キモ毫モ主人ノ叱責スル

所トナラス是レヨリ相伴フテ夜遊ヲ試ムルモ亦可ナラスヤト困頓ノ極深ク失望ノ淵ニ沈ミタルノ前者ハ恰カモ百萬ノ敵ヲ得タルノ想ヒテナシ心機頓カニ一變何ノ辨ヒモナク剩マス所ノ餅菓ヲ分ツテ相食シ共ニ携ヘテ市中ヲ彷徨ス興盡キテ將サニ袂ヲ別タントスルノ時ハ既ニ夜半ヲ過ク後者マタ歸棲ノ機ヲ過マリ終ニ共ニ某倉庫ノ軒下ニ眠ル夜明ケテ二者共ニ饑餓ニ堪ヘス何レノ發議トモナク忽チ一計ヲ案シテ桑田ニ入り切株ノ殘葉ヲ搔キ集メ來ツテ(土俗切株ノ殘葉ヲ採ルハ下層社會ノ常業トシテ殆ソド之ヲ默許ニ付スト云フ)之ヲ賣リ以テ朝餉一椀ノ資ニ供セントスル刹那ニ發覺セラレ終ニ警吏ノ捕フル所トナツテ裁判審理ノ結果憐レムヘキ二個ノ偶發的輕微ノ犯罪少年(?)ハ共ニ重禁錮一ヶ月ノ處分ヲ受ケ事定ツテ後時ヲ久フシテ始メテ兩主人ノ知ル所トナリ百方救濟ニ奔走スルモ終ニ赭衣ノ二少年ヲ如何トモスルコト能ハサリシト云フ是レ則チ我國今日ノ刑事制度ニ於ケル未成年處遇ノ活動寫真ナリ罰金ヲ未成年者ニ科スルニ就テ其個人關係殊ニ年齢罪質家庭關係業務關係財產關係等ヲ省察スルノ必要アルハ勿論ナリト雖モ代償

ハ固トヨリ豫期スル所トシテ殊ニ其父親タルヘキ者ノ收入關係ニ就テ精査ヲ遂クル所アルヲ要ス例ヘハ父親ノ收入ニシテ一ヶ月十圓内外ニ過キサレ所ノ者ハ其十五圓以上ノ收入アル父親ヲ有スル者ヨリ低ク見積リ同額ノ收入アル者ト雖モ一人ノ幼者ニ過キサレ者ト一家數口ヲ有スル者トハ其間ニ金額ノ等差ヲ立テサルヘカラサルノ類是レナリ之ヲ要スルニ未成年者ニ對スルノ罰金ノ額ハ成ルヘク其準律ノ低カラントヲ努メサルヘカラス刑法上特ニ未成年ニ科スヘキ低率ノ罰金價格ヲ規定スルニ至ルヲ得ハ更ニ妙ナリ

當該者ヲシテ成ルヘク完納ノ義務ヲ全フセシメントナラハ努メテ納付ノ方法ヲ簡易ナラシムルコトヲ要ス即チ其收入ノ實況ニ顧ミテ便宜日賦又ハ月賦ノ分納ヲ許ルス如キ是レナリ未成年者ノ如キハ固トヨリ何程ノ貯蓄ヲモ有スルモノニ非ス又假令ヒ少額ナリトモ完納ヲ豫期シテ一定ノ期日マテニ所定ノ全額ヲ貯蓄セシメ得ヘキニ非ス又親トシテ其子ノ監獄ニ送ラル、コトヲ好マサルカ爲メニ如何ニモシテ代償ノ義務ヲ盡サント欲スル者ト雖モ

一時完納ノ實際ニ困難ナルカ爲メニ涕ヲ吞ンテ其不幸ヲ救フ能ハサルニ至ルヘキハ蓋シ自然ノ勢ノミクロトネ曰ク罰金ハ一定ノ額ヲ宣告シテ一時ニ之ヲ納完セシムルカ如キコトアルヘカラス宜シク階級稅及ヒ所得稅ノ月額ニ準シテ之ヲ科シ其此等ノ納稅義務ナキ者ニ付テハ地方又ハ町村稅ノ負擔額ニ基キテ之ヲ料リ全ク納稅ノ義務ナキ者ニ對シテハ最モ僅少ナル月額ヲ定メテ之ヲ科スヘシ而シテ其一時ニ完納スル能ハサル者アル場合ニ於テハ徵稅ト同時ニ若クハ徵稅法ニ準スル方法ヲ以テ分割納付ノ途ヲ開ク所アルヲ要ス云々ト (Krohne: a. O. S. 236) 極メテ穩健着實ノ意見ナリト雖モ是ハ成年者若クハ代償者ノ場合ニ限リテ之ヲ適用スルコトヲ得ベク未成年者ニ對スル場合ニ就テハ別ニ其分納ノ方法ヲ講セサルヘカラス憾ムラクハ余ニ於テ未タ成案ノ示スニ足ルヘキモノナシト雖モ既ニ分納ノ必要ヲ認メタル以上ハ之レニ適當スル方法ヲ發見スルコト必スシモ至難ニ非スモリソ (Mortenson: a. O. S. 96) ノ案出セル郵便貯金法ニ依ル分納法ノ如キモ或ハ其宜シキヲ得タルモノナランカ當該者ハ即チ隨時若クハ一定ノ期日ニ便宜所在ノ郵便

局ニ就テ納入ヲ爲スヲ得ルカ爲メニ遠路而カモ複雑ナル手數ヲ經テ一々裁判所ニ就テ納付スルノ煩勞ト時間トヲ省クヲ得ルノミナラス併セテ又彼レニ貯蓄ノ觀念ヲ養成セシメ得ルモノト謂フヘシ

我カ現行法ノ規定ニ依レハ罰金ハ裁判確定後一定ノ期限内ニ之ヲ完納セシムルモノトシ完納セサル場合ハ輕禁錮ヲ以テ之ニ換罰ス換罰ノ標準ハ一日ヲ以テ一圓トシ其一圓ニ滿タサル者仍ホ一日ヲ以テ計算ス(刑法第二十七條)科料モ亦之レニ準シ而カモ其納付ノ期間ヲ限局シテ裁判確定ノ日ヨリ十日以内トナス(刑法第三十條)刑法改正案ニ於テハ財産刑ヲ以テ之ヲ自由刑ニ換フルノ現制ヲ排斥シ罰金不完納者ハ勞役場ニ留置シテ便宜勞役ニ從事セシメ其利得?ヲ以テ金刑ノ幾分ニ充テシムルコト、セリ一片單純ノ理想トシテハ毫モ間然スル所ナシト雖モ實際ニ於テ果シテ能ク財産刑ノ目的ヲ達シ得ヘキヤ否ヤハ頗ル疑ナキ能ハス拙者刑法改正案ノ二眼目ニ六頁以下ニ詳論スル所アルヲ以テ參看ヲ要ス)獨乙刑法ニ依レハ科料罰金共ニ一(マルク)乃至十五(マルク)ヲ以テ一日ノ自由刑ニ折算スルノ規定ナリ之ヲ要スルニ折算

額ノ標準ノ如何ハ換罰處分ノ増減ハ上ニ至大ノ關係ヲ有スル者ニシテ假令分割納付ノ便法ヲ開クトスルモ折算額ノ標準ニシテ其宜シキヲ得サルトキハ分納モ亦結局其効ナキニ終ハラサルヲ得ス蓋シ當該者ハ二者其一ヲ撰フノ場合ニ於テ必ス實際上ノ利害ヲ打算シテ成ルヘク其目前ノ實利ニ就カントスルヲ免カレサレハナリ試ミニ此ニ一日五十錢ノ賃銀ニ衣食スル勞働者ニ對シテ五圓ノ罰金若クハ一圓九十五錢ノ科料ヲ科スルト假定センニ五圓ノ金額ハ勞働十日以上ニ渉ルニ非サレハ則チ之ヲ得ル能ハス然ルニ僅カニ拘禁ノ苦ヲ忍ベバ五日間ノ坐食ヲ以テ代償シ得ラルヘク四日間ノ勞働ニ依ツテ辛フシテ收入シ得ル所ノ負債額ハ二日間ノ骨休ミヲ以テ之ヲ帳消シトナスヲ得ヘシト云フ誰レカ粒々辛苦ノ賃銀ヲ剩マシ得タル所ノモノヲ以テ完納ノ義務ヲ盡スカ如キ愚策ニ就カントスル者アラシヤ滔々自ラ好シテ換罰ヲ請フニ至ル者ノ多キハ怪ムニ足ラサルナリ(余一日友人ノ外遊スル者ヲ送ランカ爲メニ車夫ヲ僱フテ新橋ニ赴キ事ヲ終ヘテ歸途ニ就カントスレハ車夫ノ踪跡ヲ失ス暫クシテ車夫ノ巡查交番所ニアルヲ見出シ就テ其事情ヲ

質セハ人力車取締規則違反ノ廉用無番號ノ提灯ヲ爲ニテ取調ヲ受クルナリト
 事極メテ簡説諭ニ止メントナラハ將來此クノ如キヲ勿レト言ヘハ即チ可、二
 三分時間ヲ費セハ即チ足レリ處分セントナラハ其氏名住所ヲ詳カニスルヲ
 得ハマタ他ヲ問フニ及ハス是レマタ幾何ノ時間ヲ徒費スルノ必要ナシ然ル
 ニ説諭トモナク取調トモナク喃々贅言ヲ弄ブコ凡ソ三十分餘、車夫ノ交番所
 ニ在ルノ間ハ前後一時間以上ニ涉リタリト云フ後ニ聞ク所ニ依レハ其翌日
 ニ至ツテ取締規則第何條ニ依リ科料五十錢ニ處スルノ宣告書、車夫ノ許ニ到
 達セリト且ツ車夫ノ語ル所ヲ聞クニ科料宣告書、二枚ヤ三枚ハ車夫ノ多ク
 ハ皆之ヲ常有セサルハナシ十日間内ニ一日ヤ二日ノ骨休ミヲナスノ必要ア
 ルヲ以テ此機會ヲ警察留置場ノ坐食ニ利用スル亦頗ル妙ナリト未成年者ニ
 對スル罰金ノ結果カ換罰處分ニ終ハル者ノ一層多カルヘキハ當然ニシテ果
 シテ若シ成ルヘク彼レヲ監獄ヨリ遠フサカラシムルノ必要ヨリ彼レニ對シ
 テ大ニ金刑利用ノ範圍ヲ擴張スヘシトナラハ個人關係ヲ顧ミ又成ルヘク賦
 課ノ定率ヲ低カラシムルト共ニ併セテ換罰處分ノ増減ト至大ノ關係ヲ有ス

ル、折、算、金、額、ノ、標、準、ニ、就、テ、モ、亦、特、ニ、斟、酌、ヲ、加、フル、所、ナ、カ、ル、可、ラ、ス、獨、乙、未、成、年
 犯、罪、者、處、罰、法、案、ノ、規、定、ス、ル、所、ニ、依、レ、ハ、(草案第五條第八輕罪即チ罰金ノ場合
 ニハ一「マ」ク「マ」デ、科料即チ違警罪ノ場合ニハ五十「ベ」ンニツヒ「マ」デ之ヲ一日
 ノ拘留又ハ禁錮ニ折算スルヲ得ルコトナセリ)成年者ニ就テハ一日「マ」ク「マ」乃
 至十五「マ」ク「マ」ヲ以テ一日ニ折算スルコト前掲ノ如シ)蓋シ未成年者カ其所得ニ
 由ツテ自ラ辨償スルモノト見做スモ多クハ一日ノ所得五十「ベ」ンニヒ「マ」乃至一
 「マ」ク「マ」ノ間ニ過キスト認メタルニ依ルヘシ我國ノ實況ニ就テ之ヲ見ルモ比
 較的最モ多クノ未成年男女ヲ傭使スト稱セララルル、燐寸、煙草、燐寸、軸木、麥、稈、真
 田、製糸、綿絲紡績莫大小等ニ於ケル賃銀ハ種類ニ依リ甚シキハ(麥稈真田、燐寸
 小函製造業ノ如キ)最低四、五錢位ヨリ多キモ二十錢ヲ超フル能ハサル如キア
 リテ一樣ニ之ヲ論スルコト能ハスト雖モ假リニ最モ多クノ婦女及ヒ幼少者ノ
 從事スル綿絲紡績業ニ就テ之ヲ見ルニ男工平均約三十錢女工ニアツテハ平
 均約二十錢ナリト云ヘバ(農商務省商工局調査ノ職工事情ニ依ル)男女ヲ通シ
 未成年者ノ賃錢ハ女工ニ同ク約二十錢ト見ルモ大差ナカラシカ尤モ是等

ノ業務ニ自活スル所ノ未成年者ハ其全體ニ取リテハ實ニ僅少ナル割合タルニ過キスシテ徒弟、丁稚手傳給仕等トナツテ衣食スル多數ノ者ノ賃銀ノ(假令ヒ一定ノ賃錢トシテ支拂ハサルモ)遙カニ此定率ヨリ低下セサルヲ得サルヘキヲ以テ大凡余ノ推定スル所ヲ以テ之ヲ見レハ我カ未成年者ノ勞力價直ハ平均約十五錢内外ノ間ニアリト認ムルコトヲ得ヘシ若シ此推定ニシテ大差ナシトセハ未成年者ニ科スヘキ所ノ金刑ハ罰金凡ソ三十錢科料凡ソ十五錢ヲ以テ換罰一日ノ最低折算額ノ標準トナスニ適當ナリト信ス斯ク折算額ノ標準ヲ低下シテ略ホ一日ノ自由勞働ニ依テ得ヘキ收入額トノ權衡ヲ保ツニ至ラシメハ自ラ實際ノ利害ヨリ打算シテ換刑ヲ避クルノ得策ナルヲ自覺セシムルヲ得ヘク之レニ加フルニ便宜分割納付ノ方法ヲ許スニ於テハ一層著ルシク換罰處分ノ弊ヲ減少シ得ヘキヲ豫期スヘキナリ

適用ノ場合及ヒ執行ノ方法ノ宜シキヲ得ルニ於テハ換罰處分ノ弊ヲ少カラシメ得ヘキコト上來陳述スル所ノ如シト雖モ然カモ是ニ依ツテ全ク其弊ナカラシムルヲ得ヘシト謂フベカラサルハ勿論ニシテ豫メマタ此ニ備フル所

ナカルヘカラス未成年ニ對スル換罰處分ノ方法ヲ講究スルノ必要アル所以ナリ成年ト未成年ニ論ナク一般ニ自由刑ニ換フルニ勞役場留置ヲ以テセントスルハ刑法改正案第十九條ノ採ル所ノ方法ナリト雖モ此方法ノ實益ナクシテ反テ現制ニ劣ルモノアルヲ免カレザルノ理由ハ拙著刑法改正案ノ二眼目ニ詳述スル所アルヲ以テ之ヲ省キ此ニハ唯タ一般ニ對シテ實益ナキ方法ハ未成年者ニ對スルノ場合ニモ亦不適當ナリト云フヲ以テ足レリトスヘシ其他之レト略ホ同一ノ考案ニ基キ強制勞働者トシテ幼者ヲ公共事業例ヘハ公園ノ手入、道路ノ掃除、山林ノ草取等ニ使役スヘシトノ說ヲ唱アル者アリト雖モ是レ亦一片ノ理想タルニ過キスシテ到底實行ニ適スルノ方法ニ非サルノミナラス幼者ニ對シテ努メテ廉耻心ヲ保護スルノ趣旨ニ戾ルモノナリト謂フヘシ要スルニ換罰ノ方法トシテ今日マテニ知ラル、所ノモノハ自由刑ト強制勞役トノ二種強制勞役ニ監禁ト通勤トノ區別アリニ過キサ、モノ、如シ余モ亦結局此二種ノ何レカニ依ルノ外別ニ適當ナル方法ヲ案出スルヲ能ハスト雖モ先ツ未成年者ニ就テハ特ニ法律ノ上ニ換罰トシテ勞役及ヒ自

由刑ノ二種ニ就キ實際ノ狀況ヲ顧ミテ裁判官ヲシテ擇一的處分ノ言渡ヲナ
サシムルヲ適當ナリト信ス其所謂勞役ナル所ノモノハ毎日一定ノ時間ヲ設
ケテ自宅ヨリ通勤セシムルコトヲナシ成ルヘク官衙殊ニ兵營ノ如キ會社病
院學校工場若クハ信用アル一個人ノ下ニ雜役(例ヘバ草取庭掃除水撒洗濯用
達運搬等ノ類)又ハ相當ノ業務ニ從事セシメント欲スルニアリテ彼ノ勞役場
ニ留置シ若クハ公衆ノ前ニ公園又ハ道路ノ勞役ニ服セシムルモノトハ全く
其旨趣ヲ異ニスハ實行ニ困難ナルカ如シト雖モ若シ裁判所ニ於テ豫メ各
官衙ニ交渉ヲ遂ケ又ハ所在地方ノ保護會社事業家等ト協商ヲ盡ス所アラハ
之レカ實行ヲ見ルコト必スシモ至難ニ非サルベク殊ニ大都會ニ非サル地方
等ニアツテハ未成年犯罪者ノ割合モ甚タ多カラズ且ツ保護的精神ヲ以テ彼
レノ勞力ヲ利用セントスル有志者ヲ見出スルコト左マテ困難ナラザルベキ
ヲ以テ殊ニ養蠶收穫草取茶摘等ノ季節ニ於テ意外ニ其實行ノ容易ナルヲ感
スルニ至ルヘント信ス而シテ其始メヨリ勞役ニ適セスト認メタル所ノ者若
クハ一旦勞役ヲ言渡シテ其取締規則ニ違背シタル所ノ者ハ之レニ自由刑ノ

換罰ヲ以テスルヨリ外ナキナリ固トヨリ最終手段トシテ之レニ依ルノ注意
アルヲ要スルコト勿論ナリト雖モ自由刑ノ換罰必スシモ深ク以テ憂ヒトナ
スニ足ラス比較的組織ノ完全セル未成年監獄ニ拘禁スルニ於テハ今日ノ監
獄又ハ將來ニ豫想シ得ラルヘキ勞役場等ニ執行スルモノニ比スレハ其利害
決シテ同日ノ論ニ非サルナリ

罰金刑カ普通輕微ノ犯罪アル未成年者ニ對シテ最モ有効ノモノナリトノ說
ハ一般學者實務家ノ是認スル所ニシテ各國司法ノ實際ニ於テモ亦着々此方
針ニ傾クモノ、如ク殊ニ英國ニアツテハ年々益々罰金刑利用ノ範圍ヲ擴張
スルノミナラス(總ヘテ)裁判ニ於テ年々罰金件數ノ割合ノ増加ヲ見ル中ニ
就キ通常裁判所ニ於ケル調査ニ依レハ一八八三年ニアツテ處刑者總數ニ對
スル罰金處刑ノ割合百分ノ二二六ナリシ所ノ者十年後ノ一八九三年ニハ百
分ノ二七マデニ増加スルニ至レリト云フ)司法當局者ハ努メテ社會ノ實況ニ
適スル程度ニ基キ成ルヘク罰金額ノ標準ヲ低ムルノ方針ヲ取ルニ至リタル
カ故ニ換罰處分ノ如キモ亦年々著ルシク減少ヲ見ルノ實況ナリト云フモリ

ソノ如キハ英國ニ於ケル監獄在監人ノ減少ヲ以テ金刑適用範圍ノ擴充ヨリ來ル所ノモノ多シト言ハリ (Glücklicherweise tritt die Geldbusse immer häufiger an die Stelle der Gefängnisstrafe. Speziell in England ist dieser erfreulichen Thatsache die stetige und auffallend starke Abnahme der Gefängnisbevölkerung zu verdanken¹⁾)

條件付裁判若クハ行刑猶豫制度ノ利害ニ就テハ今尙ホ區々ノ異論アルヲ免カレサル所ナリト雖モ少クモ之ヲ未成年犯罪者ニ試ミテ効果アルヘシト謂フノ點ニ至ツテハ略ホ定論ノ動カスベカラサルモノアルカ如ク余ノ如キモ曾テ本問題ニ對スル研究ノ結果ヲ公ケニシタルノ時ニ當リ「假リニ特別法ヲ以テ若クハ獨乙ノ如ク赦免權ノ範圍ニ於テ之ヲ未成年者ニ限りテ適用ヲ試ムルモ亦不可トセス」(刑法改正案ノ二眼目四五頁)ナル文字ヲ用ヒ多少其間ニ疑義ノ意ヲ表シタリト雖モ未成年問題ニ就テ尙ホ深ク研究スル所アルノ結果未成年者處罰ノ方法トシテ斷然之ヲ採用スルノ必要ヲ確認スルニ至レリ之レカ必要ヲ感ズル所以ノ理由ハ上來既ニ未成年者ニ對シテ呵責罰金(假出

獄等ヲ採用シ利用セント欲スル理由ニ就テ述ヘタル所ノモノニ同シク要ハ則チ未成年者ニ對シテハ成ルヘク執法官ヲシテ多クノ種類ノ處罰法ニ就キ個人的關係ニ顧ミテ廣ク取捨選擇ノ自由ヲ得ル所アラシメ由ツテ以テ努メテ未成年者ヲ監獄拘禁ノ危害ヨリ遠フサカラシムルノ旨趣ヲ全フセント欲スルニ外ナラス行刑猶豫ハ實刑ト呵責ノ中間階級ニアル所ノモノナルカ故ニ前ニ呵責ノ必要ヲ認メ後ニ實刑ノ一部タル罰金ノ利用ヲ希望スル以上ハ獨リ其間ニ於ケル行刑猶豫ヲ非認シ能ハサルコト勿論ニシテ方法若シ其宜シキヲ得ルニ於テハ呵責罰金等ト同シク必ラス其效果ノ著シキモノアルヘキヲ信シテ疑ハス獨乙ニ於テハ一八九五年以來專ラ未成年者ニ對シテ此制度ヲ試行スル所アリ一九〇一年政府カ聯邦議會ニ報告シタル文書ニ依テ之ヲ見ルニ („Zusammenstellung betr. die Ergebnisse d. Y. 1899 u. 1900 b. d. Anwendung d. in d. Bundesstaaten f. d. bedingte Begnadigung gelt. Vorschriften“)各聯邦ニ於ケル本法施行ノ範圍ハ年々擴張ノ傾向ヲ示シ施行以來五年間一八九五乃至一九〇〇年ニ於テ行刑猶豫ノ處分ニ付セシ者總ヘテ三二四七一人、毎年平均六

四九四人、一八九九年ニハ七〇〇〇人、翌一九〇〇年ニハ七七一七六人即チ平均數ニ超過シテ年々増加スルノ實況ヲ見ルヘシ且ツ其成績モ亦頗フル良好ナルモノノ如ク一九〇〇年ノ年末ニ至ルマテノ間ニ於テ猶豫處分者ヲ特赦シタル者既ニ各聯邦ヲ通シテ平均百分ノ七一・二(ハンプルヒノ如キハ百分ノ八三・二)ノ多キニ達セリ即チ總數ニ對スル約三分ノ二及ヒ四分ノ三マテ一定ノ期間内、方正ナル行狀ヲ保チ豫期ノ條件ヲ充タシタルカ爲メニ刑ノ執行ヨリ免除セラレタル者ヲ出タシタルノ實況ナリ(猶豫試查ノ期間ハ聯邦ニ依リ長短相同シカラス普國其他二三ノ聯邦ニ於テハ通例、試查ノ期限ヲ二年トシ場合ニ依リテハ一年以内ニ既ニ終結處分ヲナスコトアルニ反シ巴丁ノ如キハ五年以内ヲ以テ標準トシ容易ニ特赦處分ヲナササル等ノ事情アルニ依リ此ニ揭ケタル五年間ノ成績調査ノ未タ以テ其實相ヲ寫シタルモノトハ認め難シ想フニ實際ニ於テハ百分ノ七一以上ノ好結果ヲ奏シツ、アルコトナリト信ス)是ヲ以テ之ヲ見ルモ此制度ヲ我カ未成年犯罪者ニ適用スルノ結果ハ蓋シ略ホ同一ノ好成绩ヲ見ルニ至ルコトヲ豫期シ得ヘキナリ余カ曾テ我カ刑

法改正案採用スル所ノ行刑猶豫法ニ就テ研究ヲ公ケニシタル所ノモノハ直チニ移シテ以テ未成年犯罪者ニ對スル場合ニモ適用シ得ヘキカ故ニ此ニ之ヲ複説スルノ煩ヲ省キ唯タ二三、余カ本法ノ組織及ヒ施行ニ關スル希望ノ要點ヲ略説スルニ止ムヘシ

刑期、犯數等ニ依ツテ制限ヲ立ツルコト大體ニ於テ敢テ異議ナキ所ナリト雖モ未成年者ノ如キハ罪質重キカ故ニ必スシモ人格ノ醜惡ニシテ社會ニ危害ヲ及ボスノ大ナルモノナリトハ謂フヘカラス幼年犯罪者ノ研究家トシテ有名ナルロー (Raux) „als allgemeiner Grundsatz muss gelten, dass die Kinder, deren Verhalten einen bedenklichen Charakter annehmen, weniger Lasterhaft sind als unsere Gewohnheitsbunnen.“)ガ「危險ノ犯罪ヲナス幼年者ハ大體ニ於テ習慣性浮浪少年ニ比シ却テ其罪惡ノ大ニ寬恕スヘキモノアルヲ見ル」ト謂ヘルカ如ク放火殺傷等ノ行爲(外國ニアツテハ殺傷行爲ノ未成年者ニ依ツテ犯サル、ノ場合甚々多シト雖モ幸ニ我國ニ於テハ其實例ヲ見ルノ割合極メテ少シ是レ或ハ我國固有ノ性情ニ基クモノナルベキカ放火ノ割合ハ甚々多ク幼年者ノ犯罪ハ盜

罪ニ非サレハ放火ナリト云フテ得ル程ノ實況ニシテ是レ亦我國特種ノ社會關係ニ基クモノナリト信ス尤モ其所謂放火ナル所ノモノ多クハ則チ些々タル怨恨、慾望又ハ單純ナル一時ノ好奇心ニ出デタルモノニシテ實際被害ノ程度モ亦極メテ僅小ナリ市谷未成年監ニ就テ調査スル所ニ依レハ未成年者十二歳以上二十歳現員本年八月廿四日調三一一人ノ内殺傷罪三人十六歳以上放火罪一二人アリガ往々思ヒ掛クナキ普通ノ少年ニ由ツテ犯サル、ノ實例ヲ見ル所以ニシテ是レ蓋シ意識ノ不成熟ナルカ爲メニ一時ノ感情ニ制セラレ易キ未成年者ノ固有性ニ基クモノナリト謂フヘク(一時ノ感情ニ制セラレテ大膽ナル非行ヲ試ミント欲スルノ場合ニ遭遇セルコトハ恐クハ何人モ皆其幼年時代ニ願ミテ身ニ經驗アル所ナルヘク之ヲ欲スルト之ヲ行フト其間僅カニ一髮ノミ吾人カ幸ニ之ヲ行フマテニ至ラサルヲ得タルハ眞ニ唯タ偶然ノ僥倖ニ過キスト謂フモ可ナリ)單純ナル復讐觀念若クハ犯罪事實ノミニ依ツテ處罰ヲナスニ非スト云フ以上ハ人格ノ如何ヲ願ミス唯タ罪質重ク刑期長キカ故ニ絶對ニ之ヲ行刑猶豫ヨリ除外セサルヘカラストハ謂フヘカラ

ス況ンヤ我國ノ實況ニ照ラシテ之ヲ見ルモ所謂放火犯ナル罪名ノ下ニ一年以上ノ處刑ヲ受クル者ノ内ニ於テハ往々情狀ノ極メテ憫諒スヘク又人格關係ノ頗ル將來ニ有望ナルモノアルノ實例ヲ見ルニ於テヲヤ刑期ヲ以テ適用ノ制限條件トナスノ規定(改正案ハ禁錮一年以下懲役六月以下ニ限定セリ)ハ余ノ贊成スル能ハサル所ナリ將タ又制限ノ一條件タル犯數ノ如キニ至ツテモ初犯必スシモ初犯ニ非ス再犯必スシモ累犯ニ非ス累犯亦必スシモ慣習犯ニ非サルノ事實ハ殊ニ未成年者ニ就テ明カニ證明シ得ル所ニシテ實驗上亦都會兒ノ所謂初犯ナルモノハ其罪惡浸染ノ度ニ於テ反テ田舎少年ノ所謂累犯者ニ比シテ遙カニ其甚シキモノアルヲ見ル前ニ毆打シタル者ニシテ後ニ竊盜シタル者モ累犯ニシテ處刑後十年以上ヲ經過シタル者モ亦名ノ上ニハ累犯者タルヲ免カレス然カモ實際ノ上ニハ其間ニ於テ毫モ意識上ノ連鎖アルニ非ス若シ再犯以上ノ者ニ對シテハ絶對ニ行刑猶豫ノ適用ヨリ除外セサルヘカラストセハ偶發的累犯者ニシテ境遇ノ如何ニ依リテハ將來ニ改良ノ望ミアルヘシト認メタル多數ノ田舎少年刑罰濫用懲治制不備等ノ結果トシ

テ今日ニ於テハ殆ンド官的作用ヲ以テ幼年累犯者ヲ製造シツ、アルノ實況ナリト評スルモ可ナリ此時代ニ當ツテ新タニ行刑猶豫ノ實施ヲ試ミント欲セハ宜シク深ク是等ノ實況ヲ顧ル所ナカルヘカラスヲシテ新制度ノ惠ニ浴セシメ能ハサルヘキハ勿論例ヘハ此ニ腐敗溷濁ナル境遇ノ下ニアツテ犯罪ニ陥リ受刑ノ後直チニ善良ナル境遇ニ移リタルニモ拘ハラス積年ノ情性ニ驅ラレテ間モナクマタ重テ輕微ナル犯罪ヲ爲スニ至リタル者アリ現在ノ境遇ハ確カニ彼レヲ再犯ヨリ豫防シ得ルニ足リ幼者ノ人格モ亦將來ニ其境遇ノ感化ニ適スルノ稟質アルヲ信認シ得ヘキ場合アリト假定センニ此場合ノ如キハ最モ行刑猶豫ノ利用ニ適切ナルニモ拘ハラス必要ヲ認メツ、終ニ之ヲ利用スル能ハサルノ不便ヲ忍ハサルヲ得ス執法當局者ノ堪ヘ難キ所ナリト謂フヘシ之ヲ要スルニ刑期及ヒ犯數ヲ以テ制限條件ノ一トナスハ徒ラニ未成年者ノ個人關係ニ適切ナル利用ノ範圍ヲ減縮スルニ過キサルモノナルカ故ニ寧ロ之ヲ解放シテ實際ノ場合ニ於ケル裁判官適宜ノ活用ニ一任スルヲ得策ナリト信ス

(五) 本年七月三十一日放火初犯懲治一年六月ノ處分ヲ受ケテ川越幼年監ニ入監シタルE.H.ナル少年アリ其ノ生育及ヒ犯罪ノ關係ヲ調査シタルモノ、報告ニ曰ク本人ハ埼玉縣大里郡某村平民農ノ傍ラ菓子氷ナト商ヘルA.H.ノ養子ニシテ實ハAト姉ト其夫E.H.ノ間ニ生レタル子ナレトE死亡ニ依リ離婚復籍ノ爲メニ其子ヲモ連レ歸ヘリAノ養子トナセシナリ(此時本人三歳ナリ)中略八歳ノ頃ヨリ農家ニ子守奉公ニ雇ハレシカ赤兒死亡シテ暇ヲ取り次ハ理髮店ニ子守奉公セシカ其主人酒ヲ好ミテ狂人ノ如ク本人過チテ白粉ヲコボセシチ主人怒リテ剃刀ヲ以テ本人ノ手頭ヲ斬リタリトテ今ニ其痕ヲ存セリ次ハ旅人宿ニ子守奉公ニ雇ハレシカ赤兒餘リニ大キクシテオアウコト能ハス爲メニ暇ヲ取り次ハ寺院ニ行キシニ方角惡クシテ疾病起リ最後ハ酒屋ニ一年程奉公中、或時火事アリ人々數多出テ立ち騒クヲ見テ面白ク感ゼシヨリ更ニ火事ヲ起サント欲シテ放火ヲシタリトナリト中略本人ハ十歳ノ頃、腹部ノ病ニ罹リテ醫藥ヲ受ケシコトアリ又時々頭痛及眩暈ヲ覺フル旨ヲ訴フ曾テ學校教育ヲ受ケタルコトモナケレハ心身兩ナカラ發育不完全ナリ本人ハ懲治處分ヲ受ケタル時、年齢僅カニ十歳ト九ヶ月廿三日、現在ノ懲治人中第一ノ幼者ニシテ最モ無邪氣ナリ分監ノ職員カ本人受取ノ爲メ熊谷分監ニ到リ本人ニ面會シタル時ノ問答ニ曰ク

問(職員) オツカサシハド一シテ居ルカ

答(本人) 嘘ノオトツサント百姓シテ居ルヨ

問 ナ前ハ家ニ居タノカ

答 否余所ニイツテ居タノ

問 何チシテ居タカ

答 守兒ト草薺

問 ナセ火チツケタカ

答 面白イカラ

問 コレカラ私ノ方ヘ連レテ行ツテ學校ニ入レテ善キ人ニシテヤルカラチト

ナシクスルノダヨ

答 アー

養家ハ月主以下拾人家内ニシテ老父母アリ妻アリ長男十八歳ヲ初メトシテ長女十五歳次女十一歳三女六歳ノ子供アリソレニ出展ノ姉トママツガ連子アリ子女ノ養育教育ナド自然、心ニ任カセサルコト多カルベシ云々

試査期限ハ一年以上三年ヲ以テ足レリトス五年以上マテ之ヲ伸長スルノ立法例ナキニ非スト雖モ斯クノ如キハ餘リニ長キニ失シ管タニ實際ノ必要ニ

適セサルノミナラス徒ラニ恩惠ノ効力ヲ薄弱ナラシメ且ツ反テ彼レヲ獨立自營ノ機會ヨリ遠サカラシムルノ弊アルテ免カレス但刑名ニ依リ時効期限ニ達スル場合ニ於テハ是ヲ以テ試査期限ノ終了ト見做スヘキコト勿論ナリ試査期限ヲ以テ一年乃至三年トナスノ理由ハ略々假出獄ノ試査期限ニ就テ陳述シタル所ニ同シ、試査期間ニアル所ノ者ハ假出獄者ト同シク之ヲ相當保護機關ノ監督ニ付シ且ツ再犯ヲ以テ唯一ノ行刑條件トナスノミナラス浮浪放逸其他ノ不品行等ニシテ苟モ再犯ノ虞アリト認ムルニ足ル行爲アル場合ニ於テハ總テ執行猶豫ノ處分ヲ取消スニ至ラシメサルヘカラス行刑猶豫ノ適用ヲ禁錮以上ノ自由刑ニ限ラント欲スルカ如キハ抑モ新タニ此制度ヲ設ケントスル所以ノ趣旨ニ戾ルノ甚シキモノナリト謂フヘシ余ハ換罰禁錮ノ場合ハ言フニ及ハス進ンテ罰金拘留科料等ノ總ヘテノ場合ニモ亦之ヲ適用センコトヲ希望スル者ナリ前掲獨乙聯邦ニ於ケル條件付赦免制度ノ報告ニ就テ之ヲ見ルモ條件付赦免ノ處分ヲ受ケタル者ノ總數ニ對シ其確定赦免ノ惠ヲ得タル者ノ割合ハ重罪百分ノ七〇(一八九九年)同七五(一九〇〇年)輕罪百

分ノ七八(一八九九年)同八三(一九〇〇年)ナルニ對シ違警罪ハ百分ノ八三(一八九九年)同八六(一九〇〇年)ノ好成绩ヲ見ルニ至リタリト謂フ未成年者ニ對スル拘留刑ノ危険ハ禁錮刑固有ノ危険ヨリモ尙ホ一層甚シキモノアツテ存ス彼ノ都會地ノ警察署等ニアツテ浮浪罪處分ナル名ノ下ニ十五六ニ滿タサル多クノ少年ヲ拘禁スルノ實況ヲ見ヨ其所謂留置場ナル所ノモノ外觀既ニ醜陋ヲ極メ内容ノ醜ハ外觀ノ醜ナルモノヨリモ尙ホ甚シク惡漢無賴ノ群ニ投シテ以テ其寢食ヲ共ニセシムルノ實況ナルニ非スヤ拘留刑ナルモノ多クハ則チ此魔窟ニ於テ執行セサルヘカラサルモノナリトセハ豫メ先ツ未成年者ヲシテ之レニ遠サカラシムルノ道ヲ講スルコト最モ急務ナルニ非スヤ行刑猶豫ヨリ拘留ヲ除外セント欲スルカ如キハ抑モ事ノ緩急ヲ辨ヘサルノ甚シキモノナリト重テ此ニ苦言セサルヲ得ス

北米紐育其他二三ノ聯邦ニ於テ無定期拘禁即チ *indefinite* 或ハ *undeterminate sentences* ノ名ヲ以テ未成年者若クハ成年ノ初期ニアル者ニ對シ特種ノ懲治的教育ヲ實行シツ、アルノ事實ハ世人ノ詳悉スル所ニシテ(此制度ハエトル

大學教授フロンシスウエーランド Francis Wayland ノ創見ニ出デタルモノニ係リ一八七六年始メテ感化監獄ナルモノヲ紐育ノエルマイラニ建設シ翌一八七七年ノ法律ニ基キ終ニ實務家 Brockvy ノカニ依ツテ成効ヲ見ルニ至レリ余モ亦曾テ其實際ニ就テ調査ヲ遂ケ其一班ノ事況ハ拙著獄事談ノ内ニ(二八六頁以下)之ヲ開陳セリ余ヲシテ若シ有體ニ余ノ心事ヲ語ラシメハ余ハ其當時未タ深ク此制度ノ性質及ヒ目的ヲ研究シ了解スルニ至ラス或ハ狹義ノ行刑法ニ付スルニ強テ懲治的教育ノ名ヲ以テシタルニ非サルナキヤヲ疑ヒ行刑トシテハ如何ニモ不節制不眞面目ナルカノ感ヲ起シ實ハ之レニ向ツテ賛意ヲ表スルニ躊躇スルノ情ナキ能ハサリシナリ然ルニ近來未成年犯罪者問題ニ就テ研究ヲ盡ス所アルノ結果此制度ノ必要ヲ感スルト共ニ自ラ又其眞意義モ了解セラレ終ニ余ヲシテ之ヲ我カ未成年者及ヒ成年ノ初期ニアル者米國法ニテハ三十年ヲ以テ限度トス余ハ之ヲ二十五年マデニ限局スルヲ適當ナリト信スニ對シテ實行ヲ試ミントスルノ希望ヲ起スニ至ラシメタリ蓋シ此制度ハ刑罰ト普通ノ感化教育トヲ折衷シタルカ如キ

所ノモノニシテ能ク感化教育ノ及ヒ能ハサル所ヲ補ヒ又普通刑罰ノ爲シ能ハサル所ヲ爲スノ力ヲ有スル者ナリト謂フテ得ヘシ多數未成年者ノ内ニハ殊ニ十六七歳以上既ニ生殖機關ノ成熟ヲ見ルニ至リタル所ノ者ハ割合ニ其意識ノ不完熟ナルニモ拘ハラヌ之ニ普通ノ感化教育ヲ施スコトニ由ツテ其効果ヲ見ルコト甚タ難シサリトテ又之ヲ普通ノ刑罰ニモ處分シ能ハサル事情アル者少カラズ之ヲ懲治ニ付メンカ其効果ノ有無ニ拘ハラヌ丁年齡ニ達スレハ則チ之ヲ解放セサルヘカラス之ヲ刑罰ニ處センカ刑期滿ツレハ則チ未タ丁年ニ達セサルノ前ニ於テ若クハ丁年ヲ超過スルモ僅カニ一二年ノ後ニ其再犯ヲ豫期シツ、之ヲ自由ノ境遇ニ放還セサルヘカラス實際ニ於テモ亦クロイネガ壯年有爲ノ時期ハ同時ニマタ犯罪ノ傾向ヲ有スル最モ危険ノ時期ナリト云ヒ (Krohn: a. O. S. 211) 又モリソンカ人生成熟ノ初期ハ最モ多ク犯罪ニ陥リ易キ時期ナリト (Morrison: a. O. S. 31) 云フカ如ク二十歳乃至三十歳殊ニ二十歳乃至二十五歳ノ期間ハ左ニ各國ノ實例ニ就テ之レヲ表示スル所アルカ如ク一般ニ犯罪者ヲ出タスコトノ最モ多キ危険ノ場合ナルカ故

ニ殊ニ犯罪種族ニ屬スル者等ニ對シテハ深ク此ニ警戒ヲ加フルコト蓋シ刑事政策ノ當サニ努ムヘキ所ナリト謂フヘク若シ十六七歳以上ノ未成年犯罪者ニシテ其人格上懲治又ハ普通ノ處罰ニ適セス強テ之ヲ懲治又ハ處罰ニ付スルノ結果ハ見ス々々再犯ノ虞ヲ豫想シテ而カモ最モ再犯ノ危険アル成年初期ニ於テ放還セサルヲ得サル者等ノアル場合ニ當リ此種ノ者ニ對シ相當ノ期間引續キ尙ホ社會ヨリ之ヲ隔離シテ特種ノ懲治教育ヲ施スコトヲ得ハ當タニ當該者前途ノ利益ノ爲メノミナラス社會保全ノ爲メニモ亦其効果ノ著ルシカルヘキハ蓋シ期シテ待ツヘキナリエルマイラ感化獄ノ在監者中、年齢二十歳乃至二十五歳ノ者ノ數ハ總員ニ對スル約百分ノ三四、コンコルド(マサチユセツ)感化獄ニ於ケル在監者平均年齢ハ二十二、ミネソタノ感化獄ニアツテモ亦平均廿二歳ノ年齢ヲ見ルノ實況ナリト云フ若シ此制度ヲ實施スルコトナシトセバ此ニ在監スル者ノ多數ハ蓋シ社會ニアツテ犯罪ノ危害ヲ逞フスルヲ免レサルハ必然ニシテ假令ヒ積極的效果ノ見ルヘキモノナシトスルモ其消極的效果ノ著ルシキモノアルヘキハ論ヲ俟タズ况ンヤエルマ

イラニ於ケル成績ニ就テ之ヲ見ルニ出監者ノ總數ニ對スル(一八九八年ノ報告百分ノ八八二ノ改良者ヲ出タノ實況ナリト云フニ於テヤ當局其人ヲ得ルノ難易ハ姑ク措キ假リニ特別懲治ノ名ノ下ニ十六歲以上二十五以下ノ犯罪者ヲ三十歲ニ至ルマテハ間情狀ニ依リ此處分ニ付スルヲ得ルハ規定ヲ設ケ先ツ模範的一二ノ特別懲治監ヲ設ケテ其實施ヲ試ムルニ至ラシムコトヲ望ム

(六) ○新受刑囚人ノ年齡 (司法省監獄局第三回統計年鑑)

年齡	新受刑囚人			
	三十四年	三十三年	三十二年	三十四年
十六歲未滿	四、〇四七	三、四八三	三、五八六	二、四
二十歲未滿	一九、三一四	一八、四〇四	一七、五八六	一一、三
計	二二、三六一	二一、八八七	二一、一七二	一三、七
廿五歲未滿	三六、九〇〇	三四、一五六	三二、三四九	二一、七
三十歲未滿	三二、四七三	三一、七一七	二九、四九九	一九、一
四十歲未滿	三九、八五四	三六、五〇一	三四、四〇六	二二、八
五十歲未滿	二四、一五四	二二、九四五	二一、九五二	二二、四
計	一四、〇四七	一三、七二二	一三、五八六	一一、五
合計	一八、三二四	一七、八八七	一七、一七二	一三、七
合計	一七〇、一八七	一六〇、二三五	一五一、三八六	一〇〇、〇
合計	一七〇、一八七	一六〇、二三五	一五一、三八六	一〇〇、〇

年齡	三十四年	三十三年	三十二年	三十四年	三十三年	三十二年
六十歲未滿	一〇、三四一	九、九七四	九、二四三	六、一	六、二	六、一
六十歲以上	三、〇九八	三、〇五五	二、七六六	一、八	一、九	一、八
計	一四六、八二一	一三八、三四八	一三〇、二一四	八六、三	八六、三	八六、〇
合計	一七〇、一八七	一六〇、二三五	一五一、三八六	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇

獨乙犯罪統計表ノ示ス所ニ依レハ(クロネ)ノ調査ニ依ル同年齡ノ人口十萬人ニ對シ未成年期(十二歲乃至二十一歲)八七四人、成年期(二十一歲乃至四十歲)一四四七人、熟年期(四十歲乃至六十歲)八六四人、老年期(六十歲以上)二七八人ノ犯罪者アルノ割合ニ該當ス尙ホ其年齡ト犯罪ノ關係ヲ細別シテ表シスレハ左ノ如シ

年齡	處刑者總數ニ對スル百分ノ比例	十二歲以上ノ人口ニ對スル百分ノ比例
十二歲乃至十五	三、二	八、七
十五乃至十八	六、三	八、三
十八乃至二十一	一一、六	七、五
二十一乃至二十五	一四、〇	八、七

二十五乃至三十	一六、六	一〇、八
三十乃至四十	二二、九	一八、一
四十乃至五十	一五、二	一五、二
五十乃至六十	七、一	二、一
六十乃至七十	二、七	七、八
七十以上	〇、五	三、八

モリソン曰ク歐洲ニアツテハ二十歳乃至三十歳ヲ以テ最も多數ノ犯罪者ノ出タスノ時期トナスコト各國犯罪統計ノ一致スル所ニシテ北米合衆國及ヒチローストリアモ亦此事實ニ符合スルモノ、如シ若シ監獄在監ノ犯罪者ニ就テ調査スルトキハ北米合衆國ノ如キハ二十歳乃至二十四歳ヲ以テ最も危険ノ時期ナリト断定スルヲ得ヘシ即チ米國ニ於ケル一八九〇ノ人口統計ニ依レハ囚人十四歳以下ノ者、七一人、十五歳乃至十九歳ノ者八九八四人、二十歳乃至二十四歳ノ者一九七〇五人、二十五歳乃至二十九歳ノ者一六三四八人ニシテ其以上年齢ノ進ムニ從ヒ漸次遞減ヲ見ルノ實況ナ

リ英國ニ於ケル一八九四年ノ調査ニ依レハ處刑者總數十二歳以下ノ者二四五〇人、十二歳乃至十六歳ノ者一〇一六一人、十六歳乃至二十一歳ノ者三一三九人、二十一歳乃至三十歳ノ者六九二八〇人以上漸次遞減ヲ見ル十六歳乃至二十一歳ノ五年間ナルニ對シ廿一歳乃至三十歳ハ十年ノ間ナルヲ以テ後者ノ前者ヨリ多數ナルハ當然ナルカ如シト雖モ之ヲ人口ニ對シテ比較スルニ前者ノ數ハ人口百分ノ二、後者ハ百分ノ三ニ該當スルノ割合ニシテ即チ英國ニアツテモ二十歳乃至三十歳ノ年齢カ最も危険ノ時期ナルノ事實ヲ證明スルヲ得ベシト (Morrison a. O. S. 32)

未成年者ニ對シ其人格關係ニ依リ必要ト認メタル場合ニ於テ處罰(自由刑)及ヒ懲治教育ヲ併科スヘシトノ說ハ往々學者ノ主張スル所ナルノミナラス (Liszt; Zeitschrift XII, Föhring; Handbuch d. Gefasengutwesens; v. Jagemann: Bl. f. Gef.-Kunde XXIV, S. 11.) 實際ニタニ三ノ立法例ノ上ニモ之ヲ採用スルモノアルヲ見ル所ナリ (ラルデンブルヒ、リユーベツク、ハンブルヒ等) リスト曰ク「處罰ト懲治トハ全ク其性質ヲ同フスルモノニ非ス此相異ル所ノモノヲ併科セントス

ルハ恰カモ復讐説ヲ是認スルカ如キ嫌ヒナキニ非スト雖モ實際ニ於テ其必要アルヲ見ルカ故ニ多少ノ非難アルニ拘ラス斷然併科ノ適用ヲ主張セサルヲ得ス蓋シ裁判官ハ個々ノ場合ニ遭遇シテ處罰ト懲治ト何レカ適當ナリヤヲ判定スルニ苦ムコトアルヘキノミナラス一旦先ツ處罰シテ罪惡應報ノ的實ナルヲ感知セシメタル後ニ於テ專ラ懲治的教育ヲ施スノ有効ナルヲ認メ若クハ懲治ノ目的ヲ達セサルニ先タツテ丁年期經過ノ爲メ放還セサルヲ得サル場合ニ處刑ヲ以テ之ヲ補フノ必要ヲ見ルコトアルヘキヲ以テナリ云々ト列國刑事會議ノ如キモ亦之ヲ是認シ其立案ニ係ル未成年處罰法草案ノ内ニ併科ノ規定ヲ採用スルニ至レリ(第四條)ハソブルヒ法ノ規定ニ曰ク

未成年者ニシテ其犯罪ニ依リ處刑ヲ執行セラレ又ハ執行ヲ猶豫若クハ赦免セラレタル者ハ其罪質、年齡、行狀其他ノ生活關係及ヒ兩親又ハ扶養義務者ノ人格關係ニ依リ當該者將來ノ放浪ヲ防キ且ツ其悔改ノ目的ヲ達スルニ必要ナリト認メタル場合ニ於テハ尙ホ之レニ懲治處分ノ言渡ヲナスコトヲ得

即チ懲治ヲ處罰ノ前後ニ併科スルノ場合ヲ豫期シタルモノトス刑事會議ノ草案ニ依レハ

處罰ト懲治ト併科スル場合ニ於テ其何レヲ先キニ執行スヘキヤハ宣告ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

懲治ヲ以テ所罰ノ足ラサルヲ補ヒ所謂ニ依ツテ懲治ノ至ラサルヲ充タサントスルハ理想トシテ毫モ間然スル所ナキカ如シト雖モ其果シテ實効ヲ舉シルニ適スルヤ否ヤハ余ノ大ニ疑ヒナキ能ハサル所ナリ假リニ併科ノ必要アリト認メ先ツ懲治ヲ科シテ以テ後チニ處罰ニ及ホサシムヘシトセンカ懲治ニ由ツテ既ニ改良ノ目的ヲ達シタル者ニ對スル事後ノ處罰ハ全ク無意義ノモノタルヲ免レサルノミナラス普通懲治者ト同シク後ニ處罰セラレヘキ肩書アル特別懲治者ヲ處遇スルノ結果ハ彼我ノ感化ノ上ニ惡影響アルヲ免カレサルハ必然ニシテ結局少數ノ爲メニ全體ノ利益ヲ犧牲トナスニ至ラサルヲ得ス處罰ノ後チニ懲治ヲ科スルノ弊モ亦之レニ等シ處罰ニ依ツテ先ツ罪惡應報ノ的實ナルヲ感知セシメント言フカ如キハ畢竟一片ノ空想タルニ過

キスシテ其實彼レヲ刑ニ親ミ監獄ニ馴レシムルノ因トナリ益々其心性ヲ醜化シテ愈々之レカ改良ヲ困難ナラシムルニ至ラサルヲ得ス先ツ處罰シテ而シテ後チニ懲治セント欲スルカ如キハ自ラ求メテ懲治ノ効果ヲ薄弱ナラシムルモノト謂フヘク懲治全體ノ施設上ニ於テモ之レカ爲メ少カラサル困難ヲ荷重セシメラルハニ至ルヘキハ必然ニシテ既ニ英國ノ如キハ多年實驗ノ弊ニ顧ミ從前慣用シ來レル處刑ノ後感化院ニ送付スルノ制度ヲ改メ直チニ之ヲ感化處分ニ付スルコトヲナスニ至レリ(一八九八年)リストカ所謂實際ニ必要アル場合ト云フニ對スルノ措置トシテハ宜シク余カ前ニ提議スル所ノ特別懲治法ヲ利用スル所アルヲ要ス不合理且不適當ナル併科處分ノ如キハ斷シテ余ノ贊成スル能ハサル所ナリ

未成年者ニ對スル處罰法ノ一種トシテ家宅拘禁(Hausarrest)地域拘禁(Oreisarest)地域制限(Verbot an bestimmten Orten sich aufzuhalten)酒舖劇場祭典公園其他ノ盛り場ニ出入スルヲ禁止スルノ類ナリ懲罰的通學(Strafschulbesuch)懲罰的勞役(Strafarbeit)普通ノ學校又ハ授産場ニ於テ一定ノ勞役ニ從事セシムル

モノ懲罰殖民(Strafcolonien)農業殖民(Ackerbaucolonien)等ヲ以テスヘシトノ説ヲ唱フル者アリト雖モ多クハ實行ニ困難ナルノ事情アルノミナラス特ニ未成年者ニ對スル一種ノ處罰法トシテ存立セシムルノ必要ナク殊ニ中ニハ處罰若クハ懲治教育ノ執行方法ニ由ツテ能ク其旨趣ヲ貫徹セシムルヲ得ルモノアルヲ以テ此ニ之レカ利害ヲ論スルノ必要ナシト信ス但一般刑事制度ノ改良ヲ研究スルノ場合ニ當リ殊ニ今日ニ於ケルカ如キ自由刑濫用ノ弊ヲ防クノ手段トシテ是等諸種ノ處罰法ニ就テ大ニ參考スル所ナカルヘカラザルハ勿論ニシテ採擇利用若シ其宜シキヲ得ルニ於テハ今日ノ如ク一モ二モナク唯タ無意義ニ自由刑而カモ短期刑ヲ濫用スルノ結果トシテ徒ラニ累犯増加ノ危険ヲ多カラシムルノ弊ヲ救フニ益スル所アルヲ得ヘシ

第八章 未成年者ニ對スル犯罪審理ノ手續

要スルニ廣義ニ於ケル未成年者處罰ノ方法ハ之ヲ別ツテ戒諭教育及ヒ刑罰ノ三種トナスヲ得ヘク裁判官ハ個々ノ場合ニ對シ其關係ニ適當スヘキ方法

ヲ撰擇スベキコト上來詳述スル所ニ由ツテ明ラカナリ將來未成年者ニ對スル裁判官ノ責任ハ一層ノ重キヲ加フルニ至ルヘキヲ勿論ニシテ勢ヒ余ノ提案ノ如ク老練ナル裁判官ヲ撰ンテ之レニ專任セシムルノ必要ヲ見ルニ至ルヘシト雖モ果シテ限リアル裁判官ノ獨力ヲ以テ複雜ナル多數未成年者ノ個人的關係ヲ詳悉シテ能ク其真相ヲ看破セシメ得ヘキヤ否ヤニ就テハ頗ル疑ヒナキ能ハサル所ニシテ或ハ徒ラニ裁判官ノ職權ヲ擴張スルノ結果反テ濫用ノ弊ニ陥ルナキヲ得サルノ懸念ヲ抱ク者ナキヲ期スヘカラス蓋シ理由アルノ懸念ニシテ少クモ裁判官ノ獨力ニ依頼スルハ徒ラニ難キヲ求ムルノ嫌ヒナキニ非ス殊ニ未成年犯罪者處遇法ノ改良ヲ計ル所以ノ旨趣モ畢竟スルニ幼者保護ノ精神タルニ過キスシテ幼者保護ハ社會政策ノ緊要題目ノ一ニ屬スヘキモノナルカ故ニ宜シク又一般社會事業トシテ此ニ其力ヲ貢獻スル所ナカルヘカラス外國ノ事例ニ就テ之ヲ見ルニ佛國ニハ巴黎幼年保護會社ナルモノアリ虐待ヲ受ケ若クハ浮浪遊逸ニ放擲セラル、幼年者ヲ保護スルヲ目的トシ未成年者ノ犯罪ニ依リ起訴セラル、等ノ場合アルニ當リ法庭ニ

於ケル辯護個人關係ノ調査ノ補助處分決定ハ協議等ニ任スルヲ其事業トナス(ガストンノ著書ニ詳カナリ)白耳義ニモ亦同一ノ目的ヲ以テ設立セル二個ノ會社アリ一ハ實質上ノ保護ニ任シ他ハ專ラ法律關係殊ニ辯護ノ事業ヲ管掌ス同國ニアツテハ若シ十六歳以下ノ幼者ニシテ起訴セラル、者アルトキハ裁判所ニ於テ先ツ當該者及其兩親ノ氏名住所及ヒ犯罪件名ヲ記シタル小票ヲ作製シテ之ヲ二個ノ會社ニ送付ス會社ハ進ンテ尙ホ其個人的及ヒ社會的關係ノ精査ヲ遂ケ審問ノ開庭ヲ俟ツテ本人ノ代理又ハ辯護ニ任シ且ツ裁判官ヲ助ケテ處分決定ノ協議ニ參加スルモノトス(リユツチヒ大學教授チリ) *They* カ第四回列國刑事人類學會議ニ報告シタル所ニ依ル余カ明治三十四年ノ夏ブルツセルニ滞在ノ當時同地辯護士協會ノ事業トシテ未成年犯罪者ノ保護殊ニ未決拘留ノ必要アル場合ニ際シ協會ノ保證ヲ以テ其指定ニ係ル一個人又ハ相當ノ保護會社ヘ責付ヲ斡旋スルノ任務ヲ執ルヘキコトヲ決議シ直チ之レカ實行ニ着手シタル由ヲ聞ケリ概シテ白耳義ニアツテハ裁判所ト民間事業ト能ク相照應關聯シテ未成年犯罪者ノ處遇ニ對シ頗ル

周到慎重ナル注意ヲ加フル所アルモノ、如シ北米合衆國ノミチガンニ於テハ各地方ニ一人ノ未成年者監督委員ナル者ヲ置キ十六歳以下ノ男子及七歳以下ノ女子ニシテ裁判所ニ起訴セラレタル者アル場合ニ於テハ該委員ヲシテ當該者ノ總ヘテノ實況ヲ調査セシメ裁判所ハ其意見ニ聽テ或ハ之ヲ親元ニ放還シ或ハ之ヲ懲治又ハ刑罰ニ處分スルモノトス(ラندگان Randallノ記述ニ依ル英國ニ於ケル學務委員(Die Beamten des Schulrates)ノ職務ハミチガンニ所謂未成年者監督委員ナルモノニ類似スル所アリ殊ニリパプールニアツテハ未成年犯罪者ノ處遇ニ關シ該委員ノ貢獻スル力ノ極メテ有効ナルモノアルヲ見ルト云フ)以上外國ノ事例トシテ記スル所ノモノハ多クモリソノ幼年犯罪者論ニ據ル(A.O.S.88)所謂不良少年ナル者カ年齢ノ割合ニ意外ニ奸智ニ長ク詐謀ニ富ミ巧ミニ他ヲ憑着シテ其罪惡ヲ隱蔽スルノ傾キアルヲ免カレサルノ事實ハ前ニ既ニ陳述スル所ノ如クナリト雖モ犯罪ノ起訴ヲ受クル所ノ者必スシモ盡ク不良少年ノミニ非スシテ其實際無辜ノ爲メニ起訴セララル、者モ亦少カラザルヘク此種ノ者ハ到底自ラ其無罪ヲ辨疏スルノ能

力ナキヲ以テ若シ不幸ニシテ他ニ彼レヲ辯護スル者ナシトセハ勢ヒ涕ヲ飲ンテ冤罪ニ屈服セシメラレサルヲ得ス(4)刑事訴訟法幼年者ニ對シ官選辯護ノ規定現行刑事訴訟法第一七九條ノ二アルハ則チ之カ爲メナリ然レモ此規定ニ依レハ被告人自ラ辯護人ヲ選定セサルトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ付スルヲ得トアルカ故ニ裁判所ニ於テ必要ヲ認メス又ハ檢事ノ申立ナキ限りハ辯護ノ惠ニ浴セシムルヲ得ス且ツ十五歳以上ノ者及ヒ即決裁判ニ付セラル、如キ所ノ者而カモ未成年犯罪者ノ大部分ハ即決裁判ニ依ルノ實況ナリハ當然總ヘテ自ラ辯護人ヲ選定セサル限り辯護ノ惠ニ除外セラレサルヲ得ス獨リ幼年保護ノ要義ニ戻ルノミナラス彼レニ適實ナル處分ヲ與フルノ旨趣ニ反スルモノナリト謂フヘシ余ハ總ヘテ未成年者ニ對シテ(即チ二十歳以下)當然官選辯護ヲ付セサルヘカラサルノ規定ヲ設クルト共ニ一方ニハ官半民の幼年保護機關ノ創設ヲ促シ少クモ未成年者ノ起訴セララル、者アルニ當リ其個人的關係ノ調査ニ任シ且ツ其處分法ニ關スル意見ヲ開陳シ進ンテハマタ未決勾留ノ必要アル場合ニ當リ

成ルヘク其斡旋ニ由ツテ相當ノ信樣アル監督者ノ下ニ責付シ得ルノ道ヲ講
 セシムル所アラントコトヲ希望ス且ツ又未成年者ニ對スル辯護士ハ職務ハ普
 通所謂辯護ノ職務ト大ニ其性質ヲ異ニセサルヘカラサルモノアリト謂フハ
 他ニ非ス辯護即チ幼者保護ノ意タルニ外ナラサルヘキヲ以テ辯護士モ亦單
 ニ幼者ヲ有罪ノ處分ヨリ救ハント努ムルノミナラス能ク其個人的總ヘテノ
 關係ヲ詳悉シ之レニ適切ナル保護ノ方法ヲ講スルヲ主眼トシ假令ハ裁判官
 ニ於テ宥恕不問ニ付シ若クハ輕キ一時ノ戒諭的處分ニ止メント欲スル場合
 ニ於テモ苟クモ實際ノ關係上本人ヲ罪惡ヨリ遠サカラシムルニ必要ナリト
 認ムヘキ理由アルニ於テハ進ンテ本人將來ノ利益ノ爲メ處罰ナリ懲治教育
 ナリ長ク本人ヲ罪惡關係ヨリ離隔シテ其遷善ノ目的ヲ達スルニ足ルヘキ方
 法ニ處分セラレノコトヲ請求セサルヘカラス輕キ事件ニ就キ殊ニ區裁判又
 ハ警察署等ニアツテ將來未成年者ニ對スル場合ニ於テハ其輕キ違警罪ニ係
 ルモノト雖モ之レカ處分ヲ警察官ニ一任セサルコト最モ必要ナリハ一々適
 當ナル辯護士ヲ選定スルコト困難ナルヘキカ故ニ一個人殊ニ學校教員市町

村名譽吏員僧侶親族又ハ隣佑ニシテ能ク本人ノ平生ヲ詳悉スル所ノ者若ク
 ハ其他ノ有志者ニシテ幼者保護ノ事業ニ同情ヲ有スル所ノ者ヲ選定シテ之
 レニ辯護ノ事務ヲ委托スルコトヲ要ス若シ幸ニシテ幼者保護會社等ノ創設
 ヲ見ルニ至ラハ辯護人選定等ノコトハ其事業ニ一任スルヲ得ヘキハ勿論余
 カ幼年ノ假出獄ニ對シテ提出セル保護機關及ヒ將來感化制度ノ實施ニ伴ヒ
 假免處分其他ノ場合ニ於テ自然ニ必要ヲ感スヘキ補助機關ノ如キモ或ハ別
 ニ之ヲ特設スルニ及ハスシテ該會社ノ事業ノ内ニ包括セシムルノ便利アル
 ヲ得ヘシ假リニ若シ急ニ幼者保護會社ノ開設ヲ見ルノ困難ナル事情アリト
 ナラハ差向キ先ツ未成年者ノ辯護及ヒ其身上關係ノ調査ニ關スル任務ヲ以
 テ之ヲ幼年假出獄者ノ保護機關又ハ感化事業ノ補助機關ニ委托スルヲ要ス
 アシロント (Aschrott: „Die Behandlung d. verurhl. u. verbrech. Jugend“ S. 38 及
 Die Zwangsziehung Minderjahriger“ S. 27) ハ幼年監察員 (Jugendauwalter) ナル者ヲ特
 設シテ之レニ托スルニ不良少年若クハ幼年犯罪者ノ戒諭告發辯護身上關係
 ノ調査處分法ニ關スル意見ノ提出等ノ任務ヲ以テスヘシト主張セリ現ニ北

米マサチユセツツニ於テ既ニ一八六九年以來實施スル所ノState Agencyノ制度、近年佛國ニ於テ實行シタルAvocat des Enfantsノ方法、白耳義現任司法大臣ル、シエマヌLe Jeuneノ考案ニ成ル幼年調査員ノ組織及ヒ先年ヴァン、ハートルVan Hamelニ依テ創設セラレタル和蘭幼年保護協會(Pro Inventufo)ノ目的トスル事業ノ如キ何レモアシロツトノ所謂「ユーゲンダアンワルト」ナルモノト略々其理想ヲ同フスル所ノモノナリト雖モ僅カニ限定セル一個人ノ力ニ托スルニ此複雜困難ナル任務ヲ以テスルコトノ果シテ能ク豫期ノ目的ヲ達シ得ベキヤハ頗アル疑ヒナキノミナラス告發ト辯護トヲ以テ之ヲ一人ノ力ニ專任セント欲スルカ如キハ必ス事實ノ上ニ種々ノ杆格アルヲ免レサルコトナリト信ス幼年個人關係ノ調査ノコトハ之ヲ警察機關ニ托スレハ則チ足レリト謂フモノアルヘシト雖モ是ハ警察殊ニ我國今日ノ警察ノ實況ヲ詳カニセサル所ノ架空的想像タルニ過キスシテ余カ曾テ犯罪者ノ個人關係ヲ詳悉センカ爲メニ警察機關ニ對シ徒ラニ往復照會ノ煩勞ヲ費シテ得タル所ノ情報ハ不正不實ニ非レハ一片儀式的ノ冷灰的空文字タルニ過キス恰カモ白

痴癡癡ヲ以テ組織シタル偵察隊ノ情報ニ信ヲ置テ作戰ノ計畫ヲ立ツルカ如シト痛評スル所アリシカ如ク(刑法改正案ノ二眼目三五頁)余輩ハ監獄行刑事務ニ於ケル多年ノ實驗ニ徴シ到底地方警察機關ノ力ニ由ツテ適正確實ナル情況調査ノ目的ヲ達スルコトノ絶對的不可能ナルヲ斷言シテ憚ラズ試ミニ監獄行刑ノ實際ニ就テ之レヲ見ヨ警察ニ於ケル個人關係ノ調査ノ粗漏ニシテ毫モ信ヲ置クニ足ラサルハ姑ク擱キ當該者前科ノ有無スラ豫メ之ヲ看破スル能ハサルノ結果トシテ(獨リ其實ヲ警察ノミニ歸スヘカラサルノ事情アルヘキモ)再三再四犯罪ヲ累ネ幾度カ監獄警察ノ門ヲ出入シタル所ノ惡漢ニシテ而カモ尙ホ初犯ノ名ノ下ニ處刑セララル、者殆ント過半ハ皆是レナリト謂フモ誣言ニ非ス頃日余カ川越幼年監獄ノ實驗ニ聞キ得タル所ノ一例ニ依レハ年齡未タ十三ニ滿タサル某ナル少年アリ東京深川某町ニ兩親ヲ有シ且ツ其下ニアツテ勞働以テ家計ヲ助ク一日偶々浮浪少年ト伍シテ某公園ニ徘徊シタリト云フノ廉ニ依リ某警察署ニ捕ハレテ終ニ浮浪罪拘留ノ處分ニ付セラレ彼レ固トヨリ浮浪罪ノ何物タルヲ解セス唯タ事ノ家庭ニ知ラレンコ

トヲ恐ル、カ爲メニ固ク其父母ノ名トテ隠蔽シ、警察官モ亦深ク之ヲ訊問スルコトヲナサス終ニ幾日間ヲ警察留置場ニ過コスノ間ニ於テ忽チ同棲セル惡漢ノ誘惑スル所トナリ拘留ノ期滿チテ解放セラレ未タ家門ニ歸着セサル前ニ既ニマタ輕微ノ竊盜ヲ犯シ此クノ如クシテ處刑ヲ重ヌルコト既ニ三回ニ及ヒ終ニ重禁錮四ヶ月ノ判決ヲ得テ川越幼年監獄ニ送付セラル書類ノ以テ其家族關係ヲ徵スルモノナキニ拘ハラシ監獄ハ容易ニ本人ノ口ヨリ其兩親及ヒ住所ヲ詳カニスルコトヲ得就テ之カ調査ヲ遂クルノ結果兩親ハ既ニ久シク本人ノ踪跡ヲ得ルニ苦心シツ、アリシヲ以テ深ク監獄ノ厚意ヲ謝スルト共ニ喜ンテ彼レノ放免歸來ヲ迎ヘテ今尙ホ厚ク家庭ノ保護教養ヲ加ヘツ、アリト云フ固トヨリ偶然ニ得タル所ノ一例タルニ過キスト雖モ警察爲ス所ノ筆法ノ一斑ヲ窺ヒ知ルノ證左トナスヲ得ヘシ英國ニ於ケル警察ノ如キハ是等ノ點ニ就テ割合ニ信頼ヲ置シニ足ルト稱セラル、ニ拘ハラシ幼者個人關係ノ調査ハ到底警察機關ニ信頼スルヲ得ストハモリソシ始メ一般實驗家ノ確認スル所ナリ

(七) 八月一日東京監獄ヨリ入監、放火及竊盜犯懲治一年五(明治廿五年四月五日生ノ十二歳)ニシテ東京府北多摩郡某村農工、長男ナリ本人ハ實父母ノ手ニ養育セラレ今尙兩親トモ存在スレト遂ニ學校教育ヲ受ケタルコトナク九歳ニシテ十日間許蠶事ノ忙シキ時自宅ヨリ通ヒテ他家ニ子守奉公セシテ初メトシ十歳ニシテ一年許菓子屋ニ子守奉公セシカ中途、學校ニ入ル爲メニ暇ヲ取ルコト、ナリ心嬉シク思ヒ居リシ處、又々親類ノ又親類ノ農家ヨリ子守奉公ニ來リ吳レヨト強ラレ其方ニ備ハレテ終ニ學校ニ登ルコトヲ得サリキ斯クテ十二歳ナル今年五月中本人被雇先ノ隣家ニ火事アリ本人カ放火シタルモノト認定セラレ尙外ニモ竊盜ノ惡行アリトシテ終ニ今回ノ處分ヲ受ケルニ至リタルモノナリト云フ然ルニ本人ノ言フ所ニ依レハ本人ハ決シテ放火シタルニ非ス刑事巡查ニ連レラレテ巡查駐在所ニ到リ放火シタルト白サ、ル間ハ家ニ返ヘサスト脅サレ心ナラスモ放火シタル旨偽リ白シタリトノ、其他常ニ出入セル隣家ノ主人J.K.ヨリ其弟ノ惣吉カ物置ノ二階アタリニ居ルヘキカ故ニ呼ヒテ吳レヨト頼マレ其二階ニ上リシ處惣吉ハ其處ニ居ラス梯子ヲ上リタル處ニ金八十錢腹帯ニ入レタルマ、アリシ故持チ歸リテ主人ニ見セタルニソレハ惣吉ノ物ナルヘケレハ直ニ返セト主人ニ言ハレ其儘返シタルコトハアレド今マテ他人ノ物ヲ取リシコトナドハ決シテアラ

スト昔ヒ居レリ本人ノ父母ハ子ヲ思フノ情切ナルモノト相見ヘ本月八日妻ノ兄ト共ニ懇々面會ニ來リシ由分監長ノ言フ所ニ依レハ兩親ハ何レモ溫和篤實ノ人物ト見受ケラレ本人ノ犯行ニ就テハ唯々意外ニ驚クノ外ナク雇主ニ於テモ本人ハ決シテ放火竊盜ナドノ犯行アルベキ小供ニ非ストテ是レ亦意外ノ感ヲ以テ同情ヲ表シ吳レ居ル旨申立テタル由本人ノ家ハ同胞總テ七人家内ト見ヘタリ云々(早崎典獄ヨリ川越幼年監ニ於ケル新入者身上關係ニ就テ報告セラレタリ近信ニ依ル)

(八)本年七月廿一日以後八月廿八日ニ至ルマテノ間ニ川越幼年監ニ收容シタル者十人アリ其内

七月廿三日横濱監獄ヨリ入監竊盜初犯懲治二年六月T.S.明治廿三年三月生ノ十四歳静岡市…傘職S.S.ノ四男ナリ本人ハ實父母共ニ存シ七歳ノ時小學校ニ入リ尋常二學年ヲ卒ヘテ三學年學習中退學セリ退學後同シク傘屋ニ奉公スルコト三年ニ及ヒシカ其間職業上必要ナル小刀(自費ニテ買フ習慣ナリト云フ)ヲ買タメ兄弟子ニ拾錢餘ノ金錢ヲ借リ其返済ニ窮シテ火鉢ノ引出シニアリシ主人ノ金二十錢ヲ竊取シ解雇セラレテ家ニ歸ヘリ父兄ヲ助ケテ傘ノ骨ヲ削リ居リシ處本年七月七日徳次郎ト云フ今年八歳ナル實弟カ學校ヨリ歸リ本人ノ傍ニ來リテ職業用

ノ小刀類ヲ勝手ニ使用セシヨリ互ニ喧嘩ヲ始メ拳ヲ振上ケテ弟ノ背ヲ打チシカハ父ヨリ痛ク譴責セラレ腹立タシサノ餘リ其夜無斷家出セリ家出セシ翌晚或菓子屋ニ忍入り八圓餘ノ金ヲ盜ミテ横濱ナル從兄(青物商)ノ許ニ到ラント志シ九日ノ夜九時頃横濱ニ逃レ來リシカ初メテノ土地ト云ヒ殊ニ夜中ノコトトテ直ニ從兄ノ許ニ到ルコト能ハス停車場ニ彷徨中、巡查ニ見咎メラレ警察署ニ引致セラレテ拘留五日!ニ處セラレ、續テ裁判ニ付セラレテ今回ノ處分ヲ受クルニ至リシト云フ本人ノ家庭ハ父母ヲ始メトシ同胞等合セテ九人家内ニシテ隨分多人數ノ上ニ尙ホ家貧ナルカ如クナレモ親子ノ情愛ハ最モ深キモノト相見ヘ、本人モ痛ク父母ヲ慕ヒ居リ實父カ分監長ニ答ヘタル書面ニ依ルモ父母カ如何ニ我子ヲ親愛スルカヲ見ルニ足ルヘシ其書面ノ要ニ曰ク云々御通知ニ接シ驚入候同人儀は豫て傘職として手許に働かせ居り會て窃盜など致し候事無之の處本月七日の夜聊かの事にて突然家出致し其儘行衛不明に相成り同心配夫々手配搜索罷在候折柄に御座候早速面會の爲め出頭致度存候へども何分にも平素貧困にして差當旅費も無之出頭仕兼候間其内精々調金の都合致し父兄の内にて出頭可致候何卒本人獄則!相守り違犯の廉無之様神所罷在候何れ出頭の節万事陳情可致候云々)

幼者ヲシテ成ルヘシ監獄ヨリ遠サカラシメント欲スルハ殆ント幼年處遇論

ノ全體ヲ一貫スル所ノ大骨子ナリト謂フモ可ナリ然ルニ若シ犯罪ニ依リ起
 訴セラレタル未成年者アルニ當リ今日現ニ實行シツ、アルカ如ク一モ二モ
 ナク直チニ之ヲ警察ニ繫キ若クハ監獄ニ送付スルノ手續ヲ取ルモノナリト
 スレハ折角彼レニ對スル總ヘテノ保護的施設モ此ニ既ニ第一着ヲ過マラ
 、モノト謂フヘク少クモ事後ノ經營ヲシテ求メテ自ラ困難ナラシムルノ弊
 アルヲ免カレサルハ自然ノ理ナリ余曾テ埃國プラトグノ幼年監獄ヲ視察セ
 ル當時當局者ニ就テ聽キ得タル所ノ一斑ヲ記シテ曰ク其處の幼年部を預つ
 て居る當局者の申しましたことに此處に來る幼年囚か裁判所監獄(即ち未決
 監)を經過しなかつたならば一層顯著の成績を呈することか出來るであらう
 と思はれるし又此處に居る幼年囚か時として何か餘罪の取調の爲めに裁判
 所に引出されて其監獄に拘禁されることがあるが其處へ行くと僅か二日か
 三日居る間に又元とに戻つて否一層甚しく悪くなつて此處で長い間折角苦
 心改良した其者が全く別物になつて即ち以前入監した時よりも尙ほ一層惡
 い者になつて歸て來る云々拙著獄事談四八七頁ト未決監殊ニ警察留置場又

ハ區裁判所々在地ニ於ケル小監獄ノ不完全ニシテ從テ又其弊害ノ一層著ル
 シキモノアルノ事實ハ何人モ能ク之ヲ承認スル所ナルヲ以テ既ニ監獄ノ弊
 ヲ認メテ成ルヘク之レニ接近セサラシメンコトヲ努ムル以上ハ一面未決監
 ノ組織ヲ改良スルノ必要アルハ勿論ナリト雖モ一面先決問題トシテ先ツ成
 ルヘク幼者ヲ未決監ニ拘禁スルコトナクシテ之ヲ審問糺治シ得ルノ方法ヲ
 講スル所ナクンハアルヘカラス個人關係ノ調査ヲ容易ナラシムルコト保釋
 又ハ責付ノ責任者ヲ得ルノ方法ヲ講スルコト等ノ如キハ差向キ未決拘禁ノ
 場合ヲ制限スルニ必要ナル手段ニシテ便宜或ハ裁判所々在地ノ學校寺院官
 廳養育院孤兒院感化院免囚保護會社等ヲ撰ンテ此ニ未決審問中ノ幼者ノ保
 管ヲ托スルモ亦一策ナリト謂フヘシ如何ナル場合ニ論ナク幼者ヲ警察留置
 場ニ拘禁スルカ如キトハ絶對ニ之ヲ禁止セシメサルヘカラス幼者保護協會
 ノ施設ハ此ニ至ツテ一層益々其必要アルヲ感スヘク國家モ亦宜シク相當ノ
 費用ヲ支出シテ以テ其成立維持ヲ助成スル所ナカルヘカラス余ハ白耳義等
 ノ例ニ倣ヒ監獄協會又ハ辯護士協會ノ事業トシテ試ミニ先ツ或ル種類例ハ

ハ十六歳以下ノ幼者ニシテ起訴セラレタル者アル場合ニ當リ豫メ裁判當事者ト交渉ヲ遂ケ當該者ノ身元引受及ヒ身上關係ノ調査ニ擔任スル所アラシコトヲ切ニ勸告セントスルモノナリ若シ止ムヲ得スシテ一時未決拘留ニ付スルノ場合ニ於テハ總ヘテ晝夜區割シタル一房内ニ分禁シ如何ナル場合ニ論ナク囚人又ハ他ノ被告人ト相接觸スルノ機會ヲ與ヘシメサルコトヲ要ス監獄設備ノ不全ナルヲ理由トシテ之レカ除外例ヲ寬容スルカ如キコトナク苟クモ法律ノ規定スル所飽クマテ之ヲ勵行セシメサルヘカラス設備果シテ法律ノ勵行ヲ全フスルコト能ハストナラハ監獄當局者ハ唯タ簡單ニ收容ヲ拒スレハ則チ足レリ反テ未決拘留ノ濫用少クモ其適用ノ場合ヲ制限スルニ裨補スル所アルヘキナリ

幼年者ヲ犯罪ヨリ豫防スル必要手段トシテ一般未成年者ノ裁判傍聽ノ名ノ下ニ法庭ニ出入スルヲ禁スルコト及ヒ未成年者ニ對スル犯罪ノ審理ハ總ヘテ之ヲ密行スヘキコト此二點ハ幼年犯罪者ノ處遇問題ヲ研究スル者ノ殆ント一人ノ異議ナキ所ニシテ輿論モ亦一般ニ其必要ヲ認ムルニ至リタルモノ

、如ク各國必ラス近キ未來ニ於テ之レカ立法上ノ實行ヲ見ルニ至ルヘキヲ豫期シテ疑ハサル所ナリフエリ。Ferrariノ如キハ未成年者ニ刑事事件ノ裁判傍聽ヲ許可スルノ弊ニ對シテ神聖ナル正義ノ法庭ヲシテ罪惡ヲ獎勵助長スル所ノ觀劇場タラシムルモノナリト痛論セリ穂積博士カ一般ニ畏敬賞賛又ハ羨望ノ目的タルモノカ摸倣中心ト爲リタルトキハ其傳播力極メテ強大ナリト謂ヘルカ如ク總ベテノ人殊ニ犯罪種族若クハ犯罪ノ傾向アル者ニ取リテハ犯罪其物ガ既ニ好奇心ヲ惹ク所ノ新奇ナル事項ニ屬シ一般ニ或ル意味犯罪種族ニ取りテハ寧ロ普通ノ意味ト謂フモ可ナリノ畏敬賞賛又ハ羨望ノ目的タルヲ得ヘキモノナルカ故ニ所謂摸倣ノ中心ナルモノト爲ツテ其害惡ノ傳播力ヲ逞フスルコトハ大ナルハ論ヲ俟タス況ンヤ摸倣ノ主體タルモノハ未成年者ニシテ未成年者ハ即チ博士ノ所謂最モ感受性ニ富ム所ノ者ニシテ而カモ地理的及ヒ心理的ニ最モ有力ナル摸倣中心ニ觸接スルニ於テヤ穂積博士著摸倣性ト豫防警察ト未成年者裁判傍聽ノ弊ハ殆ント是ヲ以テ論シ盡セリト謂フモ可ナリ裁判傍聽ノ弊ニ就テハリノフエリヤニInno Ferriani

著獨譯 Minderjährige Verbrecher¹⁾ 幼年犯罪論 一三〇六頁以下ニ詳論スル所アリ就テ参照ヲ要ス將タ又未成年者ニ對スル裁判公開ノ結果ハ獨リ彼レノ廉耻心ヲ破壊スルノ弊アルノミナラス反テ彼レヲシテ公衆ノ前ニ虛勢ヲ張リ詐謀ヲ逞フシ一旦豫審其他ノ取調ノ場合ニ陳述セシ所ノ事實ニ向テ或ハ全ク之ヲ否認シ若クハ其大部分ヲ更改セシムルニ至ルノ弊アルヲ免カレス而シテ其之ヲ否認若クハ更改スルヤ中ニハ公衆ノ前ニ事實ヲ陳述スルニ憚カルノ情ヨリ出ツル者モアルヘシト雖モ多クハ則チ一種ノ功名心ニ基クモノニシテ之ヲ喚起セシムルハ即チ法庭公開ニ伴フ自然ノ通弊ナリト謂フヘク之ヲ矯ムルコト蓋シ幼年感化ノ要義ナルカ故ニ何レノ點ヨリ之ヲ見ルモ幼年犯罪者ニ對スルハ審理ハ凡ヘテ密行ヲ以テ本則トナスヲ要ス但兩親後見者扶養義務者其他裁判所ニ於テ必要ト認メタル者ノ立會ヲ許可スヘキハ勿論ナリ幸ニシテ我國ノ今日ニ於テハ特ニ人目ヲ惹クヘキ重大又ハ新奇ノ出來事ニ非サル以上ハ徒ラニ多數ノ無關係者殊ニ未成年者ヲ法庭ニ吸集スルカ如キ弊ナキヲ得ルト雖モ早晚必ラス外國ト同一ノ弊ヲ見ルニ至ルヘキハ

必然ナルヲ以テ豫メ今日ニ於テ之ヲ未前ニ防クノ注意ヲ加フルコト最モ緊要ナリト謂フヘシ

第九章 未成年者ニ對スル犯罪豫防ノ手段

未成年者ノ犯罪及ヒ總ヘテノ不良行爲ヲ既發ニ救フノ必要ナルハ勿論ナリト雖モ同時ニ亦之ヲ未發ニ豫防スルノ道ヲ講スルコト最モ急務ナリト謂フヘシ幼年保護問題カ社會問題一社會政策問題ノ主タル客體物タラサルヘカラサルハ即チ之レカ爲メナリ犯罪ヲ未發ニ豫防セントナラハ先ツ之ヲ生スルニ至ラシムル原因ニ就テ研究スル所ナカルヘカラサルノ理由ハ上來説明スル所ニシテ其原因ヲ大別シテ社會的及ヒ個人的ノ二種トナスコトモ亦既ニ之ヲ開陳セリ如何カ是レ犯罪ノ原因トシテ認ムヘキ社會的及ヒ個人的關係ナルカヲ列擧センコトハ恰カモ大河ノ泉流ニ遡ツテ一々之ヲ探檢指示セントスルニ同シク其到底不可能ナルコト勿論ナリト雖モ余ハ此ニ試ミニ未成年者ニ對スル犯罪ノ原因ト認ムヘキ重モナル項目ヲ略説シ社會的方面ヨリ

協心戮力シテ以テ之ヲ豫防制遏スルハ必要アル所以ヲ觀察スヘシ
 小説新聞紙ノ類カ人ヲ感化スルノ勢力ノ大ナルコトハ何人モ否認スル能ハ
 サル所ノ事實ニシテ之ヲ善導スルノ裏面ニハ之ヲ惡化スル力ノ大ナルモノ
 アルベキハ亦自然ノ理ナリ小説新聞ノ一國風教ノ消長ニ至大ノ關係ヲ有ス
 ル所以ニシテ識者ノ一般ニ既ニ確認スル所ナルヲ以テ今復タ此ニ之ヲ詳説
 スルノ必要アルヲ見ス然ルニ今日ノ新聞ニ所謂三面記事ナル所ノモノハ果
 シテ能ク一國ノ風教殊ニ兒童ノ感化ニ何等ノ惡影響ナシト云フヲ得ルカ家
 庭團欒ノ間ニ採ツテ一讀ニ堪ヘサルノ記事少カラサルニモ拘ハラス幼者ノ
 耽讀スル所ハ即チ此ニアリテ新聞ノ目的トスル所亦專ラ幼童婦女子ニアル
 カノ感ナキニ非ス新奇又ハ醜惡ナル出來事殊ニ舞文羅織セル總ヘテノ犯罪
 事件ニ關スル所謂三面記事ナル所ノモノカ如何ニ惡感化ヲ一般ノ犯罪者特
 ニ未成年犯罪者ノ上ニ及ホシツ、アルヤノ事實ハ余輩行刑當局者ノ日々ニ
 實驗スル所ニシテ少クモ何々事件ト稱シ新聞ノ小説又ハ三面記事ノ上ニ掲
 ゲラレテ稍々人目ヲ惹キシ所ノモノカ驚クヘキ記憶ヲ以テ不成熟ナル幼年

犯罪者ノ腦裏ニ存スルノ事實ハ如何ニ彼レニ犯罪ノ動機ヲ與ヘハアルカ
 ノ一斑ヲ證明シ得ルニ足レリト信スチエノール (L'egrand Du Saullie: De l'imit-
 ation—S. 536/36) ハ其著摸倣論ノ内ニ新聞記事ノ弊ヲ痛論シテ曰ク世人カ彼
 レノ誘惑ニ依ツテ歸着スル所ハ監獄ニ非サレハ即チ屍室(自殺屍室)ニ非サレ
 ハ即チ癡狂院ナリト稻妻事件カ相續テ各地方ニ後繼者ヲ出タスニ至リタル
 カ如キ倫敦ニ於ケル「ホワイト、チャペル」ノ慘殺事件カ(一八八一年)一タビ新聞
 ノ好材料トナツテ盛ンニ歡迎セラレタルノ結果ハ事後一年以内ニ同一ノ犯
 罪ヲ見ルコト八件ノ多キニ至リタリト云フカ如キ近クハ華嚴事件ノ頻發續
 生ヲ見ルカ如キ新聞記事ノ勢力ノ犯罪其他總ベテノ非社會的行爲ノ挑發ニ
 對シテ如何ニ至大ノ關係ヲ有スルヤハ既ニ常識ノ能ク之ヲ想像スルニ難カ
 ラサル所ナリ(穂積博士著摸倣ト豫防警察殊ニ一五頁以下拙著刑法改正案ノ
 二眼目九一及ヒ九九頁)余曾テ犯罪ト新聞ノ關係ヲ論シ新聞ニ對スルノ希望
 ヲ述ヘテ曰ク「近來我國ニ於テモ所謂大新聞ト小新聞タルトニ論ナク動モス
 レバ輒チ單ニ其購讀範圍ヲ擴張スルノ目的ヨリ頻リニ世ノ好奇心ヲ利用シ

テ唯タ譯モナク犯罪及ヒ行刑等ニ關スル記事ヲ揭クントスルノ傾向アルハ一國風教ノ爲メニ最モ憂フヘキノ現象ナリト謂フヘシ中略余ハ世ノ新聞ナルモノニ對シテ大ニ此ニ警省スル所アラントヲ切望セサルヲ得ス蓋シ新聞紙ノ記事ハ一般ノ公衆殊ニ未成年者又ハ犯罪種族ノ者ヲシテ雷ニ摸倣的性情ヲ挑發馴致スルノ恐れアルノミナラス犯罪ノ工夫苟免ノ手段等ヲモ研究成效セシムルノ虞ヒアレハナリ云々ト未成年者ニ對シテ新聞ノ看讀ヲ禁止スヘシトノ説ヲ爲ス者アルノミナラス既ニ尋常中學生ニ新聞禁止ノ核規ヲ設クルノ實例ナキニ非スト雖モ是ハ一面ノ弊害ニ局シテ有効ノ半面ヲ顧ミサルノ偏見タルヲ免カレシテ假リニ有害ヲ認メテ禁止勵行ノ目的ヲ達シ得ルトスルモ其及フ所ノ範圍ハ極メテ一小部分ニ制限セラレタルモノナリト謂ハサルヲ得ス余ハ獨リ禁止ノ必要ヲ認メサルハミナラス進ンテ之レカ看讀ノ獎勵ヲ希望スル者ナリト雖モ同時ニマタ新聞ニ對シテ深ク其記事ニ注意ヲ加ヘ犯罪自殺裁判行刑其他常識ヲ以テ風教ニ害アリト認メ得ラルヘキ記事ノ如キハ趣味ノ厚薄如何ニ拘ハラヌ努メテ之レカ掲載ヲ避クルニ

至ラシメンコトヲ切望セサルヲ得ス英國ニ於テハ近年大ニ此ニ顧ミル所アリ新聞同盟ナルモノヲ組織シ當業者間ニ於テ互ニ相警戒ヲ加ヘ努メテ風教ニ害アリト認ムヘキ記事殊ニ犯罪事件法庭傍聽筆記等ノ掲載ヲ制限スルノ方針ヲ取リツ、アリト云フ社會事業トシテ犯罪豫防ニ貢獻スル所アル緊切ノ要點ナリト謂フヘシ圖書演劇寄席其他兒童ヲ目的トスル種々ノ見セ物ノ類ガ兒童ノ風教感化ノ上ニ少カラサル直接ノ影響ヲ及ホスノ事實モ亦此ニ同シク一面政府トシテ此ニ相當ノ取締ヲ加フル所アルト共ニ一面マタ社會的ニ之レカ制裁ヲ施スノ道ヲ講スル所ナカルヘカラス學校生徒ノ劇場寄席舞踏場其他ノ興行場ニ出入スルヲ禁スルノコトハ既ニ各國立法ノ實例ニ見ル所ニシテ此點ニ就テハ我國ノ如キハ餘リニ取締ノ放慢ニ失スルノ嫌ヒナキ能ハサルモノ、如シ兒童ノ遊里ニ出入スルヲ假令ヒ登樓セサルニモセヨ又丁年者ノ同伴スル者アルニモセヨ看過スルカ如キハ最モ放慢ノ甚シキモノナリト謂フヘシ

早年ノ幼者ヲ自活ニ餘義ナクセシムルノコトハ彼レヲ早熟セシムル所以ニ

シテ早熟ハ未成年犯罪者ノ主タル原因ヲナス所ノ者ナリ營業取締上年齡ノ上ニ制限ヲ設クルノ必要ハ即チ此ニ存ス彼ノ嗜ヲヨボクレ、輕業、玉乘、獅子舞、法界節、樂隊、花賣、牛乳又ハ新聞配達等トシテ幼年者ヲ虐使スルノ有害ナルハ言フニ及ハス之ヲ職工トシテ各種ノ工場ニ備役セシムルカ如キコトモ亦之ヲ嚴禁セサルヘカラス我カ工場法案ノ要領ナルモノニ就テ之ヲ見レハ十歳未満ノ幼者ハ總ヘテ職工徒弟トシテ備使スルヲ得サラシムヘシト云フ大體ニ於テ敢テ余ノ異議ナキ所ナリト雖モ余ハ尙ホ進ンテ少クモ義務教育ノ年齡期ト一致スルニ至ラシメンコトヲ望ム余ハ將來ニ於テ我カ教育制度ガ其義務教育年齡ヲ十四歳マテニ延長スルニ至ルノ時機アルヘキヲ信シテ疑ハサル所ノモノナリ放逸遊惰カ幼者ヲ罪惡ニ誘クノ弊アルカ如ク勞働自活モ亦彼レヲ罪惡ニ誘クノ弊極メテ大ナリ單純ナル放逸ニ依ツテ罪惡ニ陥リタル所ノ者ハ之レニ教育ヲ授ケ之レニ職業ヲ與ヘ又之レカ境遇ヲ移スコトニ由ツテ能ク改良感化スルヲ得ルノ望ミアリト雖モ既ニ早年ニシテ幾分か自活放縱ノ味ヒヲ嘗メ且ツ一旦過度ノ勞働ニ懲リタル所ノ者ハ再ヒ之レ

ニ職業ノ趣味ヲ感シ勉勵ノ慣習ニ馴致セシムルコト甚タ困難ナルカ故ニ從ツテ改良感化ノ望ミモ亦甚タ乏シキノ事實ハ是レマタ實際ノ經驗ニ徴シテ明カナル所ナリ之ヲ要スルニ早年ノ幼者ヲ勞働自活ニ餘義ナクセシムルノ結果ハ却テ彼レヲ放逸遊惰ニ導クノ弊アルノミナラス其精神及ヒ身體ノ發育ヲ阻止シ益々勞働及職業ヲ嫌惡スルノ念ヲ熾ンナラシムルガ爲メニ終ニ彼レヲシテ終世救フヘカラサル社會平和ノ讎敵タラシムルニ至ルヲ免カレス少年ハ未來ノ國民ニシテ一國富強ノ消長ハ一ニ繫ツテ彼レノ双肩ニアリ彼レノ膏血ニ衣食セントスル少數事業家ノ利害ノ如キハ深ク之ヲ顧慮スルニ足ラス各國佛國一八九〇年及ヒ一八九二年瑞典一八八九年和蘭一八八九年、白耳義一八八九年、及一八九〇年、魯國一八九〇年、葡國一八九一年、獨乙一八九一年、一八九〇年頃更ニ一層緊縮ナル制諸威一八九二年、瑞西一八九三年、英國一八八九年及ヒ一八九一年、米國一八九〇年、刑法第五章第二二三條第三章第二八七乃至八九條、第二九〇條乃至第二九三條到ル所ニ既ニ立法ノ實例ヲ見サルハナシ我國ニ於テモ亦一日モ早ク幼者保護ニ關スル營業取締法ト少

クモ所謂工場法案ナルモノノ發布ヲ見ルニ至ラシコトヲ切望スルト共ニ差向キ先ツ彼ノ乞食ニ類似セル所謂遊藝稼業ナルモノハ手ヨリ憐レムヘキ幼者ヲ奪ヒ來ツテ之レニ適當ナル保護教養ヲ加フルニ至ラシメシコトヲ希望セサルヲ得ス

未成年者ニ對シ禁酒禁烟ノ必要アリトノ説ニ就テハ余ノ敢テ否認セント欲スル所ニ非サシトモ幼者犯罪ノ原因トシテハ實驗上寧ロ重キヲ食物殊ニ餅菓類ノ嗜好ニ置クハ必要アリト信ス諺ニ飢テ死スル者ハ少クシテ飽クカ爲メニ倒ル者多シトアルカ如ク又食慾ノ人ヲ殺スハ劍ノ人ヲ斬ルヨリモ多シト云フカ如ク何人モ食慾ヲ有セサルハナシト雖モ殊ニ此慾情ノ旺ンナル者幼者ヨリ甚シキハナクサラヌダニ節制力ニ乏シキノ彼レハ食慾ニ對シテハ殆ト全ク之ヲ節制スル所ヲ知ラス良家ノ子弟ニシテ尙ホ然リ況ンヤ常ニ欠乏ノ間ニ生育スル所ノ下層社會ノ幼者ニ於テテヤ幼年犯罪者トシテ入監スル者ノ實況ニ就テ之ヲ調査スルニ殆ト十中ノ七八マテハ單ニ食慾ヲ充タサントスルノ動機ヨリ犯罪スルニ至リタルノ事實ニシテ甚シキハ則チ一

類ノ握飯ヲ得ンカ爲メニ火ヲ放チ一個ノ饅頭ヲ買フノ資ヲ得ンカ爲メニ人ヲ殺スニ至リタルカ如キ者ノ例ニ乏シカラス是ヲ以テ或ハ單純ニ困苦窮乏ノ原因ニ歸スル者アリト雖モ余輩ノ實驗スル所ニ就テ之ヲ見レハ獨リ窮乏困苦カ其直接原因タルノミナラス他ニマタ彼レヲシテ此ニ至ラシムル所以ノ有力ナル原因アツテ存スト云フハ他ニ非ス所謂買喰ノ惡慣習ナルモノ即チ是レナリ世人動モスレハ兒童ノ請フカマニ多少ノ銅錢ヲ投シテ以テ之ヲ菓舗ニ走ラシム兒童ハ此ニ始メテ錢ノ貴キヲ知り幾度ヒカ之ヲ得テ常ニ其慾望ヲ充タスカ爲メニ彼レハ終ニ節制ノ何物タル觀念ヲ起スノ遑マナク斯クテ稍々長シテ益々食慾ノ旺ンナルニ從ヒ多クノ親ハ即チ其誅求ノ急ニ堪フル能ハス三回ニ一回十回ニ五回ハ之ヲ拒絕セサルヲ得ス拒絕セラルノ彼レハ唯タ如何ニモシテ其慾望ヲ充タサントスルニ專ラニシテ亦他ヲ顧ミルニ遑マアラス或ハ直チニ露店ニ入ツテ菓餅ヲ掠メ或ハ先ツ退テ錢ヲ得ルノ手段ヲ講ス竊食、掏摸、竊盜、搔ッ拂ヒ等ガ此動機ヨリ生スル所以ノ偶然ナラサルヲ知ルヘキナリ結局買喰ヒナル所ハモハハ幼者ハ食慾ヲ助長シ彼レ

ヲ總ヘテノ非行ニ導クノ誘因タルヲ免カレサルハ争フヘカラサルノ事實ニシテ昔シ士人ノ子弟ニ犯罪者ヲ出タスコト少ク今日現ニ都會地方ニ多數ノ幼年犯罪者ヲ出タス所以ノ重モナル原因ハ即チ此ニ在リ教育當局者ノ等閑視シヘカラサル所ナルハ勿論家庭教養ノ上ニ一般社會カ大ニ警戒ヲ加ヘサルヘカラサル所ノ要點ナリト謂フヘシ未成年者ノ總ヘテノ飲食店ニ出入スルヲ禁スルハ勿論或ル一定ノ年齢ニ達スルマテノ幼者例ヘハ十歳未満ノ者ニ飲食物ノ販賣ヲ禁止スルカ如キハ寧ロ未成年者ノ飲酒喫煙等ヲ禁止スルモノニ比シテ遙カニ幼者風教ノ維持ノ上ニ効果アルヘキヲ信ス

都會ノ地ハ人ノ健康ニ適セサルカ如クニマタ最モ人ノ精神ヲ腐壞スルノ魔力ニ富ム文運進歩人口増加ニ伴フ自然ノ結果ナリト雖モ社會政策ノ上ヨリ之ヲ見レハ國家百年ノ基礎ヲ壞亂スルノ危機ハ即チ此ニ存スルヲ以テ成ルヘク人カヲ以テ及ヒ得ラルヘキ程度マテ之ヲ制限スルコトヲ努メサルヘカラス近年盛ニニ地方分業即チ工場等ヲ新設スルニ當ツテ成ルヘク都會地ヲ避ケテ人口稀薄ノ地方ヲ撰定スヘシトノ說ヲ唱フル者アルカ如キハ即チ之

レカ爲メナリ (Die planmässige Dezentralisierung d. Industrie) 中央集權ハ都會ノ發達トナリ都會ノ發達ハ地方總ヘテノ力ヲ吸集スルト共ニ又幾多ノ未成年者ヲ此ニ流注セシムルノ弊アルヲ免カレス一タヒ郷關ヲ辭シテ都會ニ來ル所ノ者恰カモ籠鳥ノ一朝ニシテ放タレタルカ如ク家庭ナク親族ナクマタ郷黨ノ彼レヲ制裁監視スル者アルニ非ス四面皆彼レヲ誘惑スルノ惡魔ニアラザルハナク忽チ都會華奢ノ生活ニ馴レ容易ニ彼レノ不健全ナル社交的情慾ヲ驅ツテ酒色ノ奴隸タルニ至ラシム浪費放逸ノ前途ハ犯罪ニ非サレハ即チ自殺自殺ニ非サレハ即チ無賴ノ壯士是レノミ地方健全ノ子弟カ都會ニ於テ墮落スルノ逕路ハ皆此クノ如キナリ健全有爲ノ少年ヲシテ努メテ其足ヲ地方ニ留メシムルノ策ヲ講スヘシトハ夙ニ既ニアダムスミスノ吾人ニ警戒スル所ナルニモ拘ハラス少年ノ都會ニ流注スルノ弊ハ今尙ホ昔ノ如クナルノミナラス否ナ年ヲ追フテ益々其弊ヲ加フルモノアルノ實況ナリ經世家ノ看過スヘカラサル所ナリト謂フヘク宜シク速カニ工業制度教育制度等ノ上ヨリ獨リ地方ノ少年ヲ地方ニ止メシムルノミナラズ進ンデ又都會ノ少年ヲシ

テ健全ナル地方ニ移植セシムルノ策ヲ講スル所アルヲ要ス都會ノ富榮ハ人
 ノ健康ト生命トヲ犠牲ニ供シタル結果ニ外ナラス死亡比例我國東京郡部
 百ニ對スル都會一二四英國地方ノ百ニ對スル都會一一七ノ證明スル所ニシ
 テ富榮ノ進ムニ從ツテ益々人ノ健康ヲ毀傷シ人ノ生命ヲ短縮スルモノト謂
 フヘシ此クノ如クニシテ如何ソ能ク將來ノ大國民タルコトヲ期待シ得ヘケ
 シヤ少年ハ即チ未來ノ大國民ヲ組織スルノ要素ナリ彼レヲ都會ニ生活セシ
 ムルノ結果ハ徒ラニ唯タ一都會ノ富榮ヲ製造スルノ器械トシテ空シク其血
 ヲ絞リ其骨ヲ削ラシムルニ過キス一日モ早ク之ヲ健全ナル地方ニ移スノ道
 ヲ講スルコト蓋シ社會改革ノ急務トナス所ナルニ非スヤ

人口増加ハ生存競争ノ激甚ヲ餘義ナクシ生存競争ノ激甚ナルノ結果ハ益々
 社會貧富ノ懸隔ヲ擴大シ一方ニ劣敗沈淪ノ貧民ヲ増加スルト共ニ他方ニマ
 タ之レヲシテ自暴自棄社會ヲ敵視スルノ罪惡行爲ニ陥ラシムルヲ免カレサ
 ルハ蓋シ自然ノ數ニシテ都會繁華ノ地ニ犯罪者ヲ出ダスコト多ク人口増加
 ヲ以テ單純ナル犯罪増加ノ原因ト認ムル能ハサルコト勿論ナリト雖モ通例

一英方里内ニ五百人ノ人口ヲ有スル地方ハ同範圍内ニ例ヘハ二千人口
 アル地方ヨリモ犯罪者ヲ出タスコト少ク又一方里内ニ二千人口ノ人口ヲ有ス
 ルノ地方ハ一萬人ノ地方ニ比シテ遙カニ其ノ割合ノ僅少ナルヲ見ルハ實際
 ノ事實ナリ又犯罪ナルモノ殆ント下層貧民社會ノ專有物ナルカノ如キ觀ア
 ル所以ノモノハ即チ之レカ爲メナリ明治三十四年ノ調査ニ依レハ同年間ニ
 於ケル受刑者總數一七〇一八七人此内全ク資産ヲ有セサル者合計一五二七
 六一人其稍資産アリト稱スル者一五〇三〇三〇資産アル者ニ至ツテハ僅カニ二
 三九六人ノ少數ニ過キス司法省監獄局第三回監獄統計年鑑各國統計表ノ示ス所亦略々其軌
 ヲ同フス本稿ヲ草スルニ當リ偶々接手スル所ノ獨逸監獄協會雜誌第三十七
 卷第三及第四號所掲ノマルコウツヒノ論 (Anton Marcovich: Gutachten zur Ve
 reinvermahlung in Stutt Gart 1903 S. 278)ニ依レハ奧國ニ於ケル最近十年間ノ
 輕重罪受刑者總數ハ三五一一〇〇人ニシテ此内僅少ノ資産アリト認ムヘキ
 者四九〇〇〇人資産ヲ有スル者僅カニ二一〇〇人其赤貧ナル者ニ至ツテハ
 實ニ三〇〇〇〇〇人ノ多數ヲ占ムル實況ナリト云フ貧困即チ經濟上ノ欠乏

ナル所ノモノカ下層社會ノ民衆ヲ驅ツテ犯罪ニ墮落セシムルニ至ル主要ノ原因タルコトハ是ヲ以テ見ルモ極メテ明瞭ナル所ニシテ救貧制度ノ一日モ忽諸ニ付スヘカラサル必要アル所以ヲ知ルヲ得ヘシ英國ハ救貧制度ノ適實且ツ普及ヲ以テ世界ニ冠タルノ名譽ヲ有スルノ國ナリ一八九二年ノ調査ニ依レハ英國及ヒウエールスニ於ケル被救助者ノ割合ハ平均人口百人ニ對スル約二人六二ニ該當ス然ルニ犯罪ト貧富ノ關係ニ就テ調査スル所ニ依レハ平均數以下ノ被救助者ヲ有スルノ地方換言スレハ貧民ノ割合ニ少カルヘキ地方例ヘハランカスターチエスターノルスアンベルランドチリアウヰツク、ウヰツドルセツクス、ダルハム等ニ犯罪者—幼年犯罪者ヲ出タスコト多數ニシテ反ツテ其他ノ平均數以上ノ被救助者ヲ有スルノ地方ニ之ヲ出タスコトノ少數百分ノ四ノ貧民ヲ有スルニ對シ犯罪ノ割合ハ百分ノ二ニ過キスナルノ變象事實ヲ發見スルニ至レリ是レ果シテ變象事實トシテ認ムルヲ得ヘキモノナルカモリソン(A.O.I.S)ハ救貧制度施行ノ手加減ニ基ク所ノ當然ノ現象ニシテ偶々以テ適實ナル救貧制度ノ普及ニ依ツテ貧民ヲ其欠乏ヨリ救濟ス

ルコトノ如何ニ犯罪豫防ノ上ニ著ルシキ効果ヲ奏スルカヲ證明スルニ足ルモノナリト言ヘリ救貧制度ノ事我國今日ノ實況ニ於テハ不備ト言ハシヨリモ寧ロ皆無ナリト謂フモ可ナリ社會的犯罪豫防ノ道ヲ講セントナラハ須ラク先ツ健全適實ナル救貧制度ヲ制定施行スルニ至ラシムルコト焦眉ノ急務ナリト謂フヘシ

社會經濟關係ノ發達カ個人的生活關係ノ狀態ヲ一變セシムルニ至リタルコト殊ニ又幼年犯罪者ノ増加ヲ助長スルノ一原因ナリト認メサルヲ得ス昔者下層勞働社會ノ者ト雖モ夫ハ外ニ出テ、勞働シ婦ハ終日止ツテ家事ヲ處理シ或ハ兒童ノ鞠養ヲ主管スルノ傍ラニ僅カニ其餘暇ヲ利用シテ内職ニ従事スル位ノコトニ過キス夫モ亦晝ニ晩ニ家ニ食シテ能ク婦ヲ助ケテ其子ヲ保護監督スル所アリ然ルニ今ハ則チ全ク其關係ヲ一變シ夫婦相携テ終日外ニ勞働スルモ尙ホ以テ其一口タニ糊スルノ資ヲ得ルニ足ラス偶々其兒ヲ愛育セント欲スル者ナキニ非スト雖モ到底力能ク之レニ堪フル能ハス多クハ則チ其兒ヲ見ルコト唯タ足手纏ヒノ厄介物タルニ過キス終日之ヲ孤棲ニ放任

シテ而シテ願ルコト(偶々彼レヲ保護スル所ノモノアリト謂フモ其モ亦同シク放養ニ遺棄セラル、所ノ幼少ナル兄又ハ姉ナルニ過キス)ナク機會アレハ則チ未タ其教育年齢ニ達セサル前ニ當ツテ既ニ之レカ勞力ヲ虐使シ若クハ之ヲ驅ツテ浮浪自活ノ群ニ入ラシム而シテ彼レノ所謂家庭ナルモノヲ見ルニ僅カニ九尺二間ノ陋屋ニ於テ親子兄弟ノ共棲ヲ見ルノ間ハ唯タ夜中僅少ノ時間タルニ過キスシテソレスラモ亦平和ノ間ニ共棲ヲ見ルノ場合ハ稀有ニシテ多クノ父ハ則チ勞働ノ歸途酒舖ニ泥酔シテ夜半ヲ過クルモ尙ホ家ニ歸ラス母モ亦少女ト共ニ市中ヲ徘徊シテ多ク家ニ在ラス彼レノ耳ニ入り彼レノ眼ニ映スル所ノモノハ一トシテ罵罵争鬪醜猥怨嗟失望墮落ノ聲容ニアラサルハナク彼レノ直接身ニ受クル所ノ者ハ常ニ唯タ飢渴ト虐待トノ二ツアルノミニ過キス之ヲ要スルニ彼レノ家庭若クハ境遇ナル所ノモノハ總ヘテノ罪惡ノ魔窟タル下層貧民社會ノ生活狀態ニ外ナラスシテ貧民窟ノ光景ヲ詳カニスルヲ得レハ即チ彼レカ如何ナル關係ノ下ニ放養セラレ生育セラレツ、アルカヲ推知スルコトヲ得ヘキナリ我カ下層社會ハ實況ヲ記述セル

モノ、一節ニ曰ク九尺二間ノ陋屋廣キハ六疊大抵四疊ノ一小廊ニ夫婦子供同居者ヲ加ヘテ五六人ノ人數住メリ(著者曰ク伊國ノ貧民窟ハ平均七〇乃至八〇立方メートルノ廣サニ過キササル陋屋ニ八人乃至十人ノ者カ共住スルノ實況ナリト云ヒ倫敦ノ貧民窟ハ一人ノ占ムル所平均約三三四立法メートルノ廣サニ該當スヘシト云フ)之ヲ一ノ家庭トシ言ヘハ一ノ家庭ニ相異ナケレト僅ニ四疊六疊ノ間ニ二三ノ家庭ヲ含ム婆アリ血氣盛リノ若者アリ三十ヲ出テタル女アリ寄留者多キハ蓋シ貧民窟ノ一現象ナルヘシ而シテ一家夫婦ナリト稱スル者ヲ見ルニ正式ニ媒介者ヲ得テ夫婦トナリタルハ極メテ少シ實際ヲ探レハ一ツノ路次數十軒眞實ノ夫婦ハ二三ニ過キサラン中略貧窟ニ國籍ナキ兒童多キハ蓋シ野合シテ私生兒産レ中途ニシテ婦女ノ逃走スル者多キヨリ生ス而シテ夫婦喧嘩ハ貧民ノ家庭最モ多ク見ル所或ハ生活ノ苦悶ヲ夫婦喧嘩ノ上ニ示セルモノナキニ非サレトモ亦何等ノ理由モナク衝突シテ罪ナキ子供ニアタリ晝食ノ用意ナキニモ拘ハラズ仕事ニ出テサルモアリ内助タル女房モ亦互ニ親切ヲ盡シテ其生活ノ負擔ヲ輕ニスルコトヲセスシ

テ内職ヨリ得タル金ヲ所天ニ隠シ窃ニ飲食ニ棄ツルモアリ闇黒ノ方面ヲ見
 來レハ眞個一幅ノ修羅場ナリ云々(横山源之助氏著日本ノ下層社會四〇頁一
 幅ノ修羅場トシテハ聊カ筆力ノ足ラサル所アルヤノ感ナキニ非スト雖モ兎
 ニ角九尺二間ノ陋屋内四疊乃至六疊ノ一小廓ニ夫婦小供同居者ヲ加ヘテ五
 六人ノ人数住メリト云フノ一事ヲ以テモ其慘タル光景ノ一斑ヲ推知スルニ
 足ルヘシ又同氏カ曾テ貧民ノ正月ヲ記サンカ爲メニ明治廿八年一月二日鮫
 河橋谷町二丁目ヲ彷徨シ一人ノ婦女カ啣テルト云フ實話ヲ寫シテ曰ク……
 あゝ世の中が厭になツちまツたと敷居に腰掛け髪も亂れて見る影もなき一
 個の婦女、手を懷に入れ悄然として身の上を語りつゝなほ言葉を續けんとす
 る時、母アちやん最ふ午砲になるよ父様はお前ぐてんぐに酔ッぱらつて來
 て母アちやん居ないつて怒ッて居るよとバタ／＼路次の踏板を鳴らしなが
 ら七歳位の子供は婦女の前に來りぬ(左様かいと顔を澁め飲み助には眞實に
 困ツちまうと咬き更に此方々を向きてこの餓兒が居るばかりであんな奴と夫
 婦になツて居るんだねと言ひ／＼淋しく笑ひながら二足三足去りしと思へ

は如何にししものぞ子供の泣き叫べる聲聞えぬ云々人ハ境遇ノ動物ナリト
 謂フカ如ク健全ナル意識ヲ有スル一個獨立ノ士人ト雖モ動モスレハ輒チ境
 遇ノ惡感化ヲ蒙ルルノ恐レナキヲ得ス況ンヤ生レナカラニシテ常ニ斯ル
 腐敗、瀾濁ノ惡境遇ニ放養セラレ、幼年者ノ前途ニ於テヤ酒々相率ヒテ罪
 惡ノ轉歸ヲ取ルニ至ルヘキハ蓋シ自然ノ數ニシテ寧ロ其全部ヲ擧ツテ盡シ
 犯罪ニ陷レシメザルヲ得ルノ僥倖ヲ怪ムヘキニ非スヤ然ラハ之レニ對スル
 社會的豫防救濟ノ法如何ト云フニ一般貧民ノ生活狀態ヲ改良スルノ必要ア
 ルコト勿論ナリト雖モ之レカ改良ヲ計ルノ前ニ於テ先ツ其乳ノ代ハリニ溺
 ヲ飲ミ若クハ梅毒的又ハ酒毒的母乳ニ養ハル所ノ乳兒ヲ始メトシテ腐敗
 瀾濁ナル境遇ニ放養セラレ虐使セラレ、所ノ幾多ノ幼年者ヲ拉シ來ツテ之
 レニ適當ナル保育及ヒ教養ヲ加ヘ其獨立自營スルニ足ルノ人格ヲ備フルニ
 至ルヲ俟ツテ之ヲ放還スルニ至ラシムルノ道ヲ講スル所アルヲ要ス孤兒院
 棄兒院貧兒院等ノ設立ヲ必要トスル所以ハ即チ之レカ爲メナリ既ニ其必要
 ヲ認メテ之ヲ設立スル以上ハ成ルヘシ惠澤普及ノ範圍ヲ擴張シ遺棄放養ノ

事實ノ未タ現ハレサルニ先ダツテ進ンテ自ラ之ヲ探求發見シ來ルノ覺悟ナ
 カルヘカラス、世間貧民施療院ノ必要ヲ唱フル者アリ實際ニ於テモ亦間々其
 設立セルモノアルヲ見サルニ非ス然カモ此ニ收容スル所ノ者多クハ即チ不
 治若クハ頻死ノ病者ニ非サルハナク療養ニ由ツテ回復ノ見込ミアルヘキ疾
 病ノ爲メニ空シク長ク苦悶スル所ノ病者ハ則チ毫モ其惠澤ニ浴スル能ハサ
 ルノ實況ナリ貧民施療院ヲ設立スル所以ノ旨趣果シテ能ク是ヲ以テ貫徹シ
 得タリト謂フヲ得ヘキカ所謂孤兒院貧兒院等ノ實況ニ就テ之ヲ見ルモ往々
 ニシテ世ノ所謂施療院ナルモノト其趣ヲ同フスルノ觀ナキニ非ス此クノ如
 クンハ則チ寧ロ始メヨリ之ヲ設立セサルニ如カス英佛獨瑞西北米合衆國等
 到ル所既ニ立法ノ實例ニ乏シカラス殊ニ佛國ニ於ケル一八七四年發布ノ幼
 者保護法 (Théophile Roussel) ノ立案ニ係ルノ如キハ最モ參考ノ價直アリ政府
 ハ宜シク此ニ鑑ミテ一日モ早ク幼者保護殊ニ孤兒貧兒ノ收容保護ニ關スル
 適切ノ法律ヲ制定シ國家自衛ノ目的ヲ全フスルニ至ラシメンコトヲ望ム
 所謂犯罪ノ個人的原因ナル所ノ者ハ年齡體質性情男女ノ關係等ヲ指シテ之

ヲ稱ス一般犯罪カ男ニ多クシテ女ニ少キカ如ク未成年犯罪者ニ就テモ亦男
 女ノ關係ニ依テ其間ニ著ルシキ相異ノ事實アルヲ見ル是レ蓋シ自然ノ體質
 性情等ニ依ルコト勿論ナリト雖モ然カモ其間ニ社會的關係ノ勢力ノ大ナル
 モノアルヲ否認スル能ハス若シ女子ニ對シテモ亦男子ト同一ノ教育ヲ與ヘ
 且ツ之ヲ男子ト同一ナル地位ニ立タシムルモノト假定セハ其犯罪者ヲ出タ
 ス割合ニ就テモ亦甚シキ差異ヲ見ルニ至ラサルヘキハ現ニ今日女子ノ境遇
 ノ變化ト共ニ年々犯罪ノ割合ヲ増加シツ、アル現象ニ依ツテモ能ク之ヲ證
 明スルコトヲ得ヘキナリ年齡性情體格等ニ就テハ前ニ既ニ陳述スル所アリ
 タルカ如ク概シテ營養不良體質虛弱若クハ機能ノ不備ハ殆ント幼年犯罪者
 ノ特有ナリト謂フヲ得ヘク從テ其性情モ亦普通兒童ニ異ル所ノモノアルヲ
 推知スルニ難カラサルナリ然レトモ是ヲ以テ果シテ社會的原因ト相對峙シ
 テ一ノ獨立の原因ト認ムヘキヤ否ヤハ余ノ大ニ疑ヒナキ能ハサル所ニシテ
 體質ノ虛弱ト云ヒ性情ノ偏僻ト言ヒ其境遇ヨリ享受シタルモノハ言フニ及
 ハス假令ヒ遺傳ニ由ツテ稟有シタルモノト雖モ其基ク所多クハ即チ社會的

關係ニアリト謂フヲ得ルノ場合多キモノアルヲ信ス營養不良ハ缺乏セル生活關係ニ免カレ能ハサル自然ノ現象ニシテ酒毒病毒ニ沈湎シ若クハ己レノ子弟ヲスラ扶養スル能ハサル程ノ社會下層ノ低能者ニ普通一般ニ見ルカ如キ健全ナル聖キ兒童ヲ生セシメ能ハサルヘキハ當然ノ理ナリ若シ社會關係ヲシテ適正ナルヲ得ルニ至ラシメハ彼レモ亦神使ヲ得テ永ク其家ニ福ヒスルノ惠ニ浴スルコトヲ得ヘシ余輩固トヨリ嚴正ナル學術的意義ニ於テ犯罪起生ノ原因ヲ別ツテ社會的及ヒ個人的ノ二種トナスノ說ヲ否認セント欲スル者ニ非スト雖モ少クモ幼年問題ニ就テハ殊ニ重キヲ社會的原因ニ置クハ理由及ヒ必要アルヲ信シケトレノ所謂犯罪ヲナス者ハ犯罪者其人ナリト雖モ犯罪者ヲシテ犯罪スルニ至ラシムルモノハ社會即チ是レナリ *Quelle:* „Der Verbrecher fñhrt das Verbrechen aus, aber die Gesellschaft bereitet es vor.“ トノ說ヲ全然是認シテ幼年保護即チ未成年犯罪者處遇問題ノ骨子タラシメンコトヲ希望スル者ナリト斷言スルニ躊躇セサルナリ

第十章 感化教育

感化教育トハ未成年者ニ對シ親權者ノ意思ニ依リ又ハ其意思ニ反シテ法律ノ規定ニ基キ國家カ直接ニ其機關ヲ以テ執行セシメ又ハ國家ノ監督ノ下ニ適當ナル個人家族若クハ營造物(公私立感化院)ニ於テ執行セシムル所ノ強制教育法ヲ指シテ之ヲ稱スフエーリントン(Fehring: „Die Zwangserziehung...“ in Handbuch d. Gefangnis, berg von Holzendorf u. Jagemann II Bd, S. 1.)ノ定義ニ依レハ教育年齢ニアル未成年者ニ對シ國家ノ權能ニ依リ司法及ヒ行政機關ヲシテ命令執行セシムル所ノ教育法ヲ指シテ感化教育ト稱スト云フニアレ也此解釋ハ狹隘ニ失シ十分其實質ヲ明瞭スルニ足ラサルモノト信ス其他學者ニ依リ種々ノ說ヲナス者アリト雖モ結局感化教育ナルモノ、性質及ヒ各國現行ノ立法例ニ就テ之ヲ研究スルトキハ余ノ前ニ下シタル所ノ定義ヲ以テ最モ適當セルモノナリト認メサルヲ得ス我カ現行制度ニ依レハ民法(八八二條)ニ之ヲ懲戒ト云ヒ刑法(七九八〇條)ニ之ヲ懲治ト稱シ感化法(五條二及三項)ニハ他ノ種類ノ者ト共ニ懲戒及ヒ懲治ニ付セラレタル者ニ感化ヲ施スノ規

定ヲ有ス恰カモ唯タ執行ノ場所ニ由ツテ其名稱ヲ區別スルニ過キササルモノ
 如シ其處分ノ性質ニ至ツテハ則チ等シク感化教育タルニ外ナラサルヘキ
 ハ論ヲ俟タス懲治又ハ懲戒ナル名稱ニ就テハ學者ノ間ニ往々異議アル所ニ
 シテ動モスレハ輒チ保護教養ノ意義ヲ無視シ若クハ少クモ攪亂スルニ至ラ
 シムルノ弊アルヲ免カレザルカ故ニ將來ニ於テハ成ルヘク之ヲ感化教育ト
 云フカ如キ名稱ノ下ニ統一スルニ至ラシメンコトヲ望ム現ニ獨乙ノ如キモ
 是レマテ感化教育ニ對シテ通例強制教育即チ Zwangserziehung ナル文字ヲ慣
 用シ來リシモ一九〇〇年六月發布ノ感化法ニハ Die Fuersorgerziehung Minder-
 jaehriger 即チ直譯シテ未成者保護教育ナル命題ヲ採用スルニ至レリ
 親ハ子ヲ支配スルノ權利ヲ有スルト共ニマタ之ヲ扶養教育スルノ義務ヲ有
 ス各國立法ノ原則トスル所ニシテ我カ民法モ亦之ヲ認メテ親權ヲ行フ父又
 ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フノ規定(八七
 九條)ヲ掲ケリ然ルニ羅馬法カ獨リ Patria Potestas ノ權利タルヲ認メテ Pater
 familias ニ何等ノ義務ヲモ負ハシメサリシカ如ク總ヘテ古代ニ於ケル法的觀

念ナル所ノモノハ親ハ子ニ對シテ唯タ權利アルノミニシテ義務ナシト云フ
 ニアリシヲ以テ因襲ノ久シキ假令ヒ法律ノ規定アルニ拘ハラス一般ノ民想
 トシテハ今日尙ホ極メテ義務ノ觀念ニ乏シク立法其レ自身モ亦深ク之レニ
 立入ルコトヲ憚リ若クハ躊躇スルノ傾キナキニ非サルモノ、如シ所謂教育
 ナルモノ、意義ニ就テ説明スル所ヲ聞クニ親權者ハ當ニ如何ナル程度ノ教
 育ヲ授クヘキカ又如何ナル學校ニ入レテ之ヲ教育スヘキカヲ定ムルノミナ
 ラス如何ナル職業ニ必要ナル教育ヲ授クヘキカ宗教的教育ヲ爲スヘキカ否
 ヤ若シ宗教的教育ヲ爲スヘントセハ如何ナル宗教ヲ採ルヘキカ等總テ親權
 者ノ判斷ニ任スルモノトス〔梅博士著民法要義第四卷三五一頁〕ト云フニ止マ
 リ未タ以テ教育ノ意義ヲ明瞭ナラシムルニ足ラサルヤノ感ナキニ非ス余ハ
 之ヲ解釋シテ良民的生活ニ必要ナル一般ノ德育及智育ヲ與フルノ謂ヒナリ
 ト云フノ適當ナルヲ信ス故ニ親權ニ屬スル教育ノ惠ニ與カルヲ得ル所ノ少
 年ハ將來良民的生活ノ間ニ立ツノ場合ニ當リ之レニ必要ナル道德智識及ヒ
 職業ヲ有シ吾人々生ノ本務ヲ了解スルト共ニ能ク又自己ニ對シ近親ニ對シ

進、ン、テ、尙、ホ、社、會、國、家、ニ、對、シ、テ、其、義、務、ヲ、充、タ、シ、得、ル、ノ、資、格、ヲ、備、ヘ、シ、メ、ラ、ル、ニ、至、ラ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、獨、リ、教、育、ノ、程、度、若、ク、ハ、方、法、ヲ、取、捨、撰、擇、ス、ル、ノ、ミ、ヲ、以、テ、親、權、教、育、ノ、任、務、ヲ、盡、シ、タ、ル、モ、ト、ハ、謂、フ、ヘ、カ、ラ、ス、學、校、ハ、親、權、教、育、ノ、任、務、ヲ、補、助、ス、ル、所、ノ、一、機、關、タ、ル、ニ、過、キ、ス、教、育、ヲ、以、テ、學、校、ノ、主、管、ニ、一、任、セ、ン、ト、欲、ス、ル、カ、如、キ、ハ、教、育、及、學、校、本、來、ノ、性、質、及、ヒ、目、的、ヲ、了、解、セ、サ、ル、モ、ノ、ナ、リ、ト、謂、ハ、サ、ル、ヲ、得、ス、

國家ヲ組織スルノ基礎ハ家族ニアリ家族ノ一員タル幼者ニ對シテ適當ナル教養ヲ加フルコトニ就テハ國家モ亦直接ニ利害關係ヲ有スルモノナルカ故ニ其國民ノ福祉安寧ヲ保全シ獎勵スルノ任務ヲ全フスルノ目的ヲ以テ宜シクマタ此ニ干涉保護スル所ナカルヘカラサルハ論ヲ俟タス國家カ強制教育法ナルモノヲ設ケテ國民ニ對シ其一定ノ年齢ニ達スルマテハ幼者ヲシテ學校ニ通學セシムルノ義務ヲ強制スル所以ノモノハ則チ之レカ爲メナリ感化教育ナル所ノモノモ其實一種ノ強制教育法タルニ外ナラスシテ其民法規定ノ親權ヲ侵害スルニ拘ハラス尙ホ之ヲ設定強制スル所以ノ必要モ亦此ニ存

ス子ノ監護及教育ヲ爲スノ親權ハ權利及ヒ義務ノ兩面ヲ有スルコト既ニ民法規定スル所ノ如シ然ラハ親權者ニシテ若シ其盡スヘキノ義務ヲ盡サス若クハ盡ス能ハサルカ爲メニ其子ヲ放養ニ付シ或ハ之ヲ虐待シ或ハ其不正不真ナル行爲ニ依テ之ヲ惡化シ學校其他普通ノ教育手段ヲ以テ之ヲ監護教養シ能ハサルヘシト認メタル場合ニ於テ國家ハ社會及ヒ當該幼者ノ利益ヲ保全スルカ爲メニ此ニ親權ニ代ツテ其義務ヲ全フスル所ナカルヘカラス然ラサレハ他ニ到底適當ナル親權ヲ行フ者ナキノミナラス之ヲ放擲スルノ結果ハ終ニ社會ノ公安ヲ危害スルニ至ルヲ免カレサレハナリ感化教育ハ廣キ教育ノ意義ニ於ケル特別且ツ最終ノ手段ナリ家庭又ハ學校ハ教育ヲ以テ其目的ヲ達スルコト能ハザル最終ノ場合ニ於テ始メテ特別手段トシテ之ヲ適用スルヲ以テ其本則トナスヲ要ス故ニ豫メ嚴密ニ之ヲ施行シ得ヘキ場合ヲ規定スヘキハ勿論之ヲ施行スルニ就テモ亦親權學校教育其他當該個人關係ノ實況ヲ省察シテ成ルヘク他ノ手段例ヘハ兩親ノ親族朋友又ハ慈善的保護ノ施設等ヲシテ任意的ニ之ヲ監護又ハ教育セシムルノ方針

ヲ取ル所アルヲ要ス普國感化法施行細則一九〇〇年十二月發布ノ緒言ニ曰ク本法ニ所謂感化教育ナルモノハ他ノ法律上及ヒ行政上ノ規程ト共ニ一般幼年者ノ秩序アル教養ヲ保全スル所ノ一手段タルニ過キス感化ハ深ク幼年者ト其兩親及ヒ家族ニ對スル關係ニ立入り多クノ場合ニ於テハ彼レヲシテ全然其關係ヲ絶タシムルノ結果ヲ見ルニ至ルヘキモノナルカ故ニ之ヲ實行スルニ當ツテハ極メテ慎重ノ注意ヲ加ヘ秩序アル教養ヲ施行スルニ必要ナル他ノ種々ノ方法ヲ調査シ萬止ムヲ得サル場合ニ非レハ容易ニ之ヲ適用スルニ至ラサシムルヲ要ス故ニ之ヲ適用スルノ前ニ當リ先ツ教會學校救貧慈善等ノ力ニ依ルヲ得ルヤ否ヤ殊ニ民法一六六六條ニ依ル後見權能ニ依テ本法ノ目的ヲ達スルノ見込アルヤ否ヲ精査スヘシ若シ幼年者放縱ノ原因カ兩親又ハ扶養者ノ貧窮ニ基キ或ハ孤兒ニ對スル保護ノ不完全ナルニ由ルト認メタルトキハ當該濟貧官署ヲシテ其職責ヲ盡サシムルノ道ヲ講スヘシ云々ト能ク感化教育ノ性質及ヒ適用ノ方針ヲ明ラカニシタルモノト謂フヘシ

第十一章 感化教育ニ付スヘキ者ノ種類

我カ感化法第五條ノ規定ニ曰ク

感化院ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ入院セシム

- 一、 地方長官ニ於テ滿八歳以上十六歳未滿ノ者之ニ對スル適當ノ親權ヲ行フ者若クハ適當ノ後見人ナクシテ遊蕩又ハ乞丐ヲナシ若クハ惡交アリト認メタル者

二、 懲治場留置ノ言渡ヲ受ケタル者

三、 裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者

一九〇〇年七月發布ノ普國未成年者保護教育法第一條ニ曰ク

年齢十八歳以下ノ未成年ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ保護教育ニ付スルコトヲ得

一、 民法一六六條又ハ一八三八條ニ依リ其放逸ヲ防クカ爲メニ保護教育ヲ必要ト認メタルトキ

二、未成年者ニシテ犯罪行為アリタルモ其未成年者ナルカ爲メニ不論罪トナリ且ツ其犯罪ノ性質兩親又ハ他ノ扶養者ノ人格及ヒ諸般生活上ノ關係ニ依リ當該者ノ放逸ヲ防クカ爲メニ保護教育ニ付スルヲ必要ト認メタル場合

三、前二項ノ外兩親又ハ他ノ扶養者又ハ學校ノ教育的効果ノ不十分ナルカ爲メニ未成年ヲ放逸ニ流レシムル虞アル場合

(參照獨逸民法)

第一六六條 父カ子ノ身體ニ對スル監護ノ權利ヲ濫用シ子ヲ委棄シ又ハ破廉耻若クハ不徳ノ所爲ヲ爲シ之レカ爲メニ子ノ精神上ノ安寧又ハ身體上ノ安寧ヲ危險ニ陥ルトキハ後見裁判所ハ危險ノ除却ニ必要ナル處分ヲナスコトヲ要ス後見裁判所ハ養育ノ爲メニ相當ノ家族又ハ感化院又ハ懲治監ニ子ヲ送付スルコトヲ命スルコトヲ得

父カ扶養ヲ受クル子ノ權利ヲ毀損シタルノミナラス將來扶養ヲ非常ニ害スル恐レアルトキハ父ノ財産管理並ニ收益ヲ禁止スルコトヲ得

第一八三條 後見裁判所ハ養育ノ爲メニ被後見者ヲ適當ナル家族又ハ感化院

又ハ懲治監ニ入ルコトヲ命スルコトヲ得父又ハ母カ被後見者ノ身體ニ對スル監護ヲ爲ストキハ此ノ命令ハ第一六六條ノ要件アルニ非サレハ發スルコトヲ得ズ

之ヲ要スルニ感化教育ニ付スヘキ種類ノ者ハ大別シテ一放養ノ状態ニアル者(Die Verwahrlosten)ニ不良行為アル者(Die Lasthaften)及ヒ三犯罪行為アル者(Die Verbrecherischen)ノ三種トナスヲ得ヘシ

一、放養ノ状態ニアル所ノ者ハ其數最も多ク且ツ最も感化教育ヲ加フルノ必要アル所ノ者ニ屬ス蓋シ放養ト不良又ハ犯罪行為トハ其間僅カニ一髮ノ差異アルニ過キスシテ之ヲ未前ニ豫防スルハ即チ感化法ノ骨子トナス所ナルヘキヲ以テナリ但其範圍ノ非常ニ廣キカ爲メニ濫用モ亦其間ニ生シ易キノ恐レアルカ故ニ之レカ選擇ニ就テハ最も慎重ノ注意ヲ加フル所ナルヘカラス孤兒棄兒又ハ親權者ノ疾病入監所刑其他ノ不能力ニ依リ監護教養スル能ハサルニ至リタル幼者ハ等シク放養状態ニアル所ノ者ナリト雖モ唯タ放養ノ事實ノミヲ以テ當然感化教育ニ付スル條件トナス能ハサルハミナラ

ス、是等ノ者ハ、通例一般救貧制度ノ範圍ニ屬シ、感化制度トハ、全ク相殊別スル所ノ方法ヲ以テ之ヲ收容保護スヘキモノトス。獨乙民法ノ規定ニ依レハ、單ニ養育ノ爲メニ被後見人ヲ適當ナル家族又ハ感化院又ハ懲治監ニ入ル、コトヲ命スルノ場合アルヘキヲ豫想(一八三八條)シアリト雖モ、普國感化法ニ於テハ、特ニ其放養狀態ノ益々甚シカラントスルノ危険ヲ防ク爲メニ感化教育ノ必要ヲ認メタル場合ノ條件ヲ附加シ、單ニ養育ノ爲メト云フカ如キ漠然タル理由ノ下ニ之ヲ適用スルコトナカラシムルノ意ヲ明ラカニセリ。我カ民法及ヒ感化法ニ於テ殆ント全ク放養狀態ニアル總ヘテノ者ヲ感化教育ニ付スルノ場合ヲ豫想セサルハ、大ナル欠典ニシテ殊ニ感化法ノ上ニ此場合ヲ豫想セサル如キニ至ツテハ、立法者ノ迂濶モ亦甚シト謂フヘク、到底骨拔キ感化法ノ譏ヲ免カレ能ハサル所ナリ之ヲ要スルニ感化教育ニ付スヘキ放養狀態ニアル所ノ者トハ適當ノ親權ヲ行フ者若クハ適當ノ後見人ナキガ爲メ(監護教育ノ義務ヲ放擲シ若クハ此權利ヲ濫用シ又ハ不正不良ノ行爲アル所ノ者ハ凡テ適當ニ親權ヲ行フ能ハサル所ノ者ナリ)放養セラル、所ノ者ニシテ其精神

上及ヒ身體上ノ危殆ヲ防クカ爲メニ感化教育ノ必要ヲ認メタル者ノ義ナリト解釋スルヲ得ヘシ

二、不良行爲アル所ノ者トハ浮浪、乞丐、放逸、惡交等ハ、勿論其他親權又ハ後見ノ權ニ服從セス若クハ學校ノ規律ニ反抗スル等ノ行爲アル者ヲ包括シテ之ヲ稱ス。親權又ハ後見ノ權ニ服從セサル者ニ對シテハ親權者及ヒ後見人又學校ノ規律ニ反抗スル者ニ就テハ學校教師ヲシテ國家ノ補助即チ感化教育處分ヲ請求スルノ權利ヲ有セシムルコトヲ要ス(民法第八八二條及第九二一條)我カ感化法ノ規定ニ依レハ單ニ適當ノ親權ヲ行フ者若クハ適當ノ後見人ナクシテ遊蕩又ハ乞丐ヲ爲シ若クハ惡交アリト認メタル者トアルニ依リ苟クモ適當ニ親權ヲ行フ者若クハ適當ノ後見人アル場合ニ於テハ假令ヒ親權又ハ學校ノ力ヲ以テ矯治スル見込ミナキ不良行爲アリ若クハ親ノ意思ニ反シテ遊蕩、乞丐、惡交等ノ行爲アル者ト雖モ之ヲ感化教育ニ付スル能ハサル者ナリト謂ハサルヲ得ス。或ハ子ヲシテ遊蕩、惡交等ニ至ラシムルハ則チ適當ニ親權ヲ行ハサルノ結果ナルカ故ニ是ヲ以テ親權行使ノ不適當ヲ推定スルノ理